

1915.3/184
日本法律學士龜山貞義著

民事訴訟法正義

下



特別認可
私立明治法律學校講法會內
新法註釋會出版

版權
所有

民事訴訟法正義下卷ノ目次

第六編 強制執行

第一章 總則

第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第一節 動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第二款 有牒動産ニ對スル強制執行

第三款 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

第四款 配當手續

第二節 不動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第二款 強制競賣

目次

一
二
二五八
同
同
二七〇
同
二七〇
三七〇
四七六
五二一
五二二
五三二

第三節 船舶ニ對スル強制執行	八〇四
第三章 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行	八四〇
第四章 假差押及ヒ假處分	八六八
第七編 公示催告手續	九五〇
第八編 仲裁手續	一〇〇九

民事訴訟法正義下卷ノ目次畢

民事訴訟法正義

日本法律學士 龜山貞義 著

第六編 強制執行



(一) 本編強制執行ノ法ハ立法上ニ於テ最モ注意ヲ要スヘキコトニシテ古來立法者ノ最モ心慮ヲ費セシ所ナリ蓋シ強制執行ニ於テハ第一ニ債權者ノ利益ヲ満足セシムルヲ以テ目的トナスコト勿論ナリト雖モ之ヲ債權者ノ位置ヲ保護シ容易ニ財産ヲ奪取スルカ如キコトナカラシムルヲ勉メサルヘカラス若シ夫レ輕忽ニ債務者ノ財産上ニ有スル權利ヲ左右シ之カ爲メニ救フヘカラスサル損害ヲ生セシムルカ如キコトアルニ至テハ遂ニ法律ノ意ヲ全シタルモノト云フヘカラス故

ニ債權者ノ利益ヲ満足セシムルト共ニ債務者ノ位置ヲモ保護スルコトハ深ク注意ヲ要スヘキ所ナリ立法上ノ困難ハ實ニ茲ニアリトス

第一章 總則

第四百九十七條 強制執行ハ確定ノ終局判決又ハ假

執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ニ因リテ之ヲ爲ス

〔義解〕(二) 本條ハ強制執行ハ如何ナル場合ニ於テ行フヘキモノナルヤノコト即チ強制執行ヲ行ヒ得ヘキ場合ヲ定メタルモノナリ

終局判決トハ訴訟ノ裁判ヲ爲スニ熟シタル所ノ裁判ニシテ中間判決ト區別シタルモノナリ所謂中間判決トハ訴訟ノ目的ヲ達セシトスル中途ニ生シタル事柄ニ付キ與ル處ノ裁判ニシテ終局判決ハ之ニ反シ訴訟ノ目的即チ取モ直サス訴訟ノ本案ニ付キ爲ス所ノ裁判ヲ云フナリ

凡ソ判決ニ對シ上訴ノ道ヲ與マル場合ニ於テ法律ニ從ヒ上訴ヲ提起スルカ或ハ其上訴期間ノ満了セサル間ハ判決ハ確定セサルモノニテ必ス上訴ノ道ヲ經盡スルカ或ハ上訴ノ期間ヲ經過スルニ至リテ初メテ其判決確定ニ至ルモノトス己ニ上訴ノ道ヲ經盡シ若クハ上訴ノ期間ヲ經過シテ其判決確定スルニ至リタルハ此ノ判決タルヤ復タ動カスヘカラサルニ至ルヲ以テ義務者ハ判決ノ旨ニ從ヒ其義務ヲ盡了セサルヘカラス然ルニ尙ホ判決ノ命スル所ニ戻リ其義務ヲ怠ルモノアリトスレハ勢ヒ公力ヲ借リテ之レヲ執行セシメサルヘカラス是レ強制執行ノ規定アル所以ナリ

確定ノ判決ニ付キ強制執行ヲ命セサル可ラサルノ理由ハ最も明白ナリ何トナレハ若シ從順ナラサル義務者裁判ノ命スル所ニ服從セサル場合ニ於テ強テ之ヲ執行セシムヘキ法ヲ設クルニ非サレハ其判決ハ

遂ニ之アラサリシト同一ノ結果ヲ來シ不良ノ義務者ニ出會スル毎ニ債權者ハ常ニ目的ヲ達スル能ハサルニ至ルヘキヲ以テナリ故ニ判決上ニ於テ命シタル義務ノ履行ヲ爲サ、ル義務者ニ向テハ公力ヲ以テ強テ其義務ヲ盡サシメ以テ債權者ノ利益ヲ保護スルコトナサ、ル可ラス、強制執行ハ即チ公力ヲ以テ強テ義務ヲ盡サシムルノ方法ニシテ確定判決ニ於テハ其判決ノ結果ヲ満足セシムヘキ最後ノ方法ナリトス

(三) 然レハ強制執行ハ特リ確定判決ノミコ付テ行ハルヘキモノニアラス或ル未確定ノ判決ニ付テモ亦行ハル、モノナリ即チ判決ニ於テ假ニ執行ヲ果タスヘキ旨ヲ命セラレタル法文ニ所謂假執行ノ宣言ヲ付セラレタル終局判決ニ付テモ亦行ハルヘキモノナリ

而シテ假執行ハ如何ナル場合ニ於テ命セラルヘキモノナルヤハ第五百一條以下ニ於テ規定シタル所ナルヲ以テ該條以下ニ至リ之ヲ細説

スヘシト雖モ要スルニ係争ノ事物明白ニシテ義務ノ存在確實ナル基礎ヲ有スル場合又ハ義務ノ性質ニ於テ其執行ヲ猶豫セシムヘカラサル場合其他債權者ニ於テ保證ヲ立テ若クハ判決確定迄執行ヲ中止スルハ償ヒ難キ損害ヲ蒙ルルヘキコトヲ疏明シテ假執行ヲ要求シタル場合等ニ於テ裁判上命セラルヘキモノナリトス

(四) 此ノ如ク強制執行ナルモノハ確定及ヒ未確定ノ判決ニ通シテ行ハル、モノナレド之ヲ行フハ何レノ場合ニ於テモ必ス終局判決タルヲ要スルモノニテ終局ノ判決ニアラサレハ之カ執行ヲ爲スヲ得サルモノナルコトヲ知ラサルヘカラス

第四百九十八條 判決ハ適法ナル故障ノ申立又ハ適法ナル上訴ノ提起ニ付キ定メタル期間ノ滿了前ニハ確定セサルモノトス

判決ノ確定ハ故障若クハ上訴ヲ其期間内ニ申立若クハ提起スルニ因リ之ヲ遮斷ス

〔義解〕(五) 本條ハ判決ハ如何ナル場合ニ於テ確定スヘキ者ナルヤヲ見ルヘキ法條ニシテ法文ニ於テハ判決ノ確定ニ至ラサル場合ヲ示シタリ即チ判決ハ故障及ヒ上訴ノ提起ヲ爲シ得ヘキ期間トシテ法律上ニ定メタル期間内ニハ確定スル者ニアラス其ノ期間滿了スルニ至テ初メテ確定ノ効ヲ生スル者ナリ例之第一審ノ判決ニ對シ三十日ヲ期シテ控訴ノ權利ヲ與ヘタルキハ三十日ノ時日滿了スルニ至リ初メテ其判決確定スヘキ者ニテ三十日以内ハ確定ノ効ヲ生セサルモノトス故障ノ申立ヲナシ得ル場合ハ本法第二百五十五條以下ニ定メタル所ニシテ欠席判決ニ對シ法律上ノ規定ニ從ヒ之ヲ提起シ得ルモノトナセリ又上訴ハ本法第三編ニ定メタル處ニシテ控訴上告抗告ノ三章ニ

分チ之ヲ規定シタリ

(六) 法文ニ於テ適法ナル故障ノ申立又ハ適法ナル上訴ノ提起ト定メタル所以ノモノハ故障及ヒ上訴ノ期間ハ概テ不變期間トシテ定マラル處ノモノナルモ或ル事情ノ爲メ甲乙ノ間其期間ノ長短スル處之レナキニアラス故ニ一定ノ時日ヲ以テ指稱スルヲ得ヘカラサルモノアリ茲ヲ以テ法律上當サニ有スヘキ故障及控訴ノ期間ニ於テハ確定セサルモノト定メタルモノナリ其期間ノ場合ニヨリ異ナルトハ第二百五十五條及ヒ第四百六十六條等ニ就キ之レヲ見ルヘシ

(七) 法律ハ單ニ期間ノ滿了前ニハ其判決ハ確定セサルモノトストノコトヲ定メタリ此ノ法文ハ一方ヨリ云ハ期間ノ滿了スルニ至テ確定スルモノタルコトヲ言明シタルモノト云フ可シ即チ法律上ニ定メタル上訴故障ノ期間滿了ノ前ニハ確定セストノ文字ハ直ニ取テ滿了ニ

判決ノ確定ハ故障若クハ上訴ヲ其期間内ニ申立若クハ提起スルニ因リ之ヲ遮斷ス

〔義解〕(五) 本條ハ判決ハ如何ナル場合ニ於テ確定スヘキ者ナルヤヲ見ルヘキ法條ニシテ法文ニ於テハ判決ノ確定ニ至ラサル場合ヲ示シタリ即チ判決ハ故障及ヒ上訴ノ提起ヲ爲シ得ヘキ期間トシテ法律上ニ定メタル期間内ニハ確定スル者ニアラス其ノ期間満了スルニ至テ初メテ確定ノ効ヲ生スル者ナリ例之第一審ノ判決ニ對シ三十日ヲ期シテ控訴ノ權利ヲ與ヘタルキハ三十日ノ時日満了スルニ至リ初メテ其判決確定スヘキ者ニテ三十日以内ハ確定ノ効ヲ生セサルモノトス故障ノ申立ヲナシ得ル場合ハ本法第二百五十五條以下ニ定メタル所ニシテ欠席判決ニ對シ法律上ノ規定ニ從ヒ之ヲ提起シ得ルモノトナセリ又上訴ハ本法第三編ニ定メタル處ニシテ控訴上告抗告ノ三章ニ

分チ之ヲ規定シタリ

〔六〕 法文ニ於テ適法ナル故障ノ申立又ハ適法ナル上訴ノ提起ト定メタル所以ノモノハ故障及ヒ上訴ノ期間ハ概チ不變期間トシテ定マラル處ノモノナルモ或ル事情ノ爲メ甲乙ノ間其期間ノ長短スル處之レナキニアラス故ニ一定ノ時日ヲ以テ指稱スルヲ得ヘカラサルモノアリ茲ヲ以テ法律上當サニ有スヘキ故障及控訴ノ期間ニ於テハ確定セサルモノト定メタルモノナリ其期間ノ場合ニヨリ異ナルヲハ第二百五十五條及ヒ第四百六十六條等ニ就キ之レヲ見ルヘシ

〔七〕 法律ハ單ニ期間ノ満了前ニハ其判決ハ確定セサルモノトストノコトヲ定メタリ此ノ法文ハ一方ヨリ云ハ期間ノ満了スルニ至テ確定スルモノタルコトヲ言明シタルモノト云フ可シ即チ法律上ニ定メタル上訴故障ノ期間満了ノ前ニハ確定セストノ文字ハ直ニ取テ満了ニ

至リ確定スヘキノ意義タルコトヲ知ル可シ然レモ之レテ期間満了ニ至リ確定スト云ハスシテ満了前ニ確定セストナセシモノハ抑理由アルコトナリ即チ第二項ニ於テ判決ノ確定ヲ遮斷スヘキ場合ヲ認メタルモノアリテ法定ノ期間内ニ故障若クハ上訴ノ提起アリタルトキハ法律上ニ定メアル期間ヲ經過スルニ至ルモ故障又ハ上訴ノ提起セラレタル爲メ確定ノ効ヲ生セサルニ至ル即チ期間トシテ定メタル時日ヲ經過スルモ判決ハ必スシモ確定スヘキモノニアラス其期間ヲ故障若クハ上訴ノ提起ナク經過スルニ至リテ初メテ確定スルニ至ルモノトス故ニ一面ニ於テ期間ノ満了前ニハ確定セサルモノナリトコトヲ定メタルハ所謂絶対ノ決定ニシテ如何ナルコトアルモ期間満了スルニアラサレハ確定ノ効ヲ生セサルヘキヲ示シ而シテ他ノ一面ヨリシテ其期間満了スルキハ初メテ確定ノ効ヲ生スルモノナルヲ反對

理由ヲ以テ明ニシ尙ホ此ノ確定ハ期限内ニ於ケル二个ノ動作即チ故障ノ申立及ヒ上訴ノ提議ニヨリ遮斷セラルヘキコトヲ規定シ以テ法律ノ云ハント欲スル所ヲ完全ニ言明シタルモノナリ

第四百九十九條 原告若クハ被告カ判決ノ確定ニ付

キ證明書ヲ求ムルトキハ第一審裁判所ノ書記ハ記録ニ基キ之ヲ付與ス

訴訟カ尙ホ上級審ニ於テ繫屬中ナルトキハ上級裁判所ノ書記ハ判決ノ確定トナリタル部分而已ニ付キ證明書ヲ付與ス

判決ニ對シ上訴ノ提起ナキ場合ニアラサレハ證明書ヲ付與スルコトヲ得サルトキニ限り上訴ヲ管轄スル裁判所ノ書記カ不變期間内ニ上訴ノ提起ナキ

ユトヲ認メタル證明書ヲ以テ足ル

一〇

〔義解〕(八) 本條ハ判決ノ確定ニ關スル證明書ノユトヲ規定シタルモノニテ、場合ニヨリ證明書ノ交付方法ハ相異ナラサルヲ得サルカ故ニ本條即チ數多ノ場合ニ別チ之レカ規定ヲナセリ。第一ノ場合ハ一般ニ關スル規定ニシテ、凡テ判決確定ノ證明書ヲ求ムルモノアルニ際シテ適用セラルヘキモノナリ。原告被告何レニ論ナク判決ノ確定シタルヲ證明スルニアラザレハ之カ執行ヲ求ムルヲ得ヘカラス故ニ其執行ヲ求メントスルヤ必ス先ツ判決ノ確定シタルヲ證セサルヘカラス而テ此ヲ證明スルノ法如何裁判所ノ證明書ヲ呈供シテ之ヲ立證セシムルヲ以テ最モ明瞭確實ナルヲ得ヘシ本條ハ原告被告何レニアルヲ問ハス證明書ヲ求ムルハ裁判所ハ之ヲ付與スヘキモノト定メタリ而テ之ヲ第一審裁判所ノ書

記ニ於テ爲スヘキモノト定メタル所以ノ者ハ若シ其訴訟上訴ノ期間ヲ滿了シテ第一審ニ於テ確定スルニ至リタルハ勿論其上訴ヲ經タル場合ニ於テモ其確定判決ニ至リタル記録ハ第一審裁判所ニ保存セラルヘキモノナルカ故第一審裁判所ニ於テハ常に確定判決ノ記録ヲ供ヘ之ニ依リテ證明書ヲ付與スルヲ得ルカ故ナリ(第四百三十一條 第四百五十四條)

(九) 然ル其訴訟ニシテ猶ホ上級審ニ繫屬スルキ即チ上訴ニヨリ其訴訟上級ノ裁判所ニ於テ控訴若クハ上告ノ審理中ニ屬スルキハ第一審裁判所ニ於テハ判決ニ關スル記録ヲ有セサルヲ以テ、其ノ訴訟ノ或ル部分ハ已ニ確定効ヲ生スルニ至リタルモノアリトスルモ之カ證明書ヲ作ルヲ得ヘカラス故ニ第二項ヲ以テ上級審即チ其繫屬中ナル裁判所ノ書記ヲシテ其確定ニ至リタル部分丈ノ證明書ヲ作ルヘキ

モノト定メタルモノナリ若シ如斯ナスニアラザレハ判決ノ一部分ニツキ不法ノ下之アリシカ爲メ他ノ部分ノ執行ヲ求ムル能ハサルノ結果ヲ生シ已ニ確定ニ歸セシ部分ノ判決モ偶一部分ニ不服ヲ唱フルモノアルカ爲ニ其執行ヲ遮ラル、如キコアルニ至ルヘキヲ以テナリ故ニ第二項ヲ以テ判決中確定ニ歸セシ部分ハ障碍ナク執行ヲ果タサシメシカ爲メ確定トナリシ部分ニ付テハ上訴進行中ト雖モ該訴訟繫屬中ノ裁判所書記ヨリ證明書ヲ付與スヘキモノト定メタルモノナリ

（一〇）上訴ハ常ニ判決ノ確定ヲ遮斷スルモノナルヲ以テ第一審第二審ノ判決ニ付テハ其上訴ヲ經盡シタル場合ノ外ハ之ニ對シ上訴ノ提起アラサルコト明瞭ニ至ラザレハ其確定ニ付テノ證明書ヲ與フルコトヲ得サルハ勿論ナリ然リ而テ其上訴ヲ管轄スヘキ裁判所ノ書記ヨリ上訴期間經過ノ後ニ至ルモ其提起アラサルコトヲ證明シタルハ以テ其

判決ノ確定効ヲ生シタルコトヲ確知スヘシ然レハ此ノ證明書ヲ以テ彼ノ第一審裁判所ノ書記ヨリ付與スヘキ證明書ニ代フルモ敢テ支障ナカルヘシ是レ第三項ノ規定アル所以ナリ

第五百條 原狀回復亦ハ再審ヲ求ムル申立アルトキ

ハ裁判所ハ申立ニヨリ保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止スヘキコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲナスヘキコトヲ命シ及ヒ保證ヲ立テシメテ其爲シタル強制處分ヲ取消スヘキヲ命スルコトヲ得
保證ヲ立テシメスシテナス強制執行ノ停止ハ其執行ニヨリ償フコト能ハサル損害ヲ生スヘキコトヲ
疏明スルトキニ限り之ヲ許ス

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其
裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

〔義解〕(一一) 本條ハ強制執行ヲ停止シ若クハ取消シ及ヒ其強制執行

ニ付キ保證ヲ立テシムヘキ場合ヲ定メタルモノナリ

原則ヨリ云ハ判決ノ確定ニ至リタル時又ハ假執行ノ宣言アリタル時
ハ凡テ強制執行ヲ果タスヘキヲ以テ當然トス然レモ本法第七十四
條以下ニ規定シタル原狀回復ノ場合及ヒ第四百六十七條以下ニ規定
シタル再審ノ場合ニ於テハ其敗訴者即チ執行ヲ受ントスル者ニ於テ
最モ堅固ナル理由ヲ具フルモノアルヲ以テ一般ノ場合ト其取扱ヲ異
ニスルヲ要ス是レ本條ニ於テ數多ノ例外ヲ設ケタル所以ナリ
第一ハ強制執行ノ停止ヲ命スヘキ場合ニシテ此ノ場合ハ敗訴者ノ申
立ニヨリ敗訴者ヲシテ其執行ニ代ユヘキ保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ

立シメスシテ以テ其執行ヨリ生スル危険ヲ防ク爲メ之ヲ停止ヲ命シ
得ヘキコトトナセリ而テ其保證ヲ立テシムル所以ノモノハ其執行停
止ノ爲メ或ハ回復スヘカラサル損害ヲ勝訴者ニ加フルコトアラント
テ恐レ之カ不虞ニ備フルノ意ニ出テタルモノナリ以下保證ヲ立テシ
ムルノ各場合皆一ニ危険ニ備フル爲メニ過キス故ニ其保證ハ危険ノ
度ニ從テ大ニ輕重アルヘキモノトス

而テ強制執行ノ停止ヲ命スルニ付キ或ハ保證ヲ立テシメ或ハ之ヲ立
テシメサルハ如何ナル標準ニ依ル可キ乎第二項ノ規定ニ對照シテ初
メテ區別ノアル所ヲ會得スルヲ得ヘシ即チ讀テ第二項ニ至ル時ハ保
證ヲ立テシメスシテ強制執行ノ停止ヲ許スハ若シ其執行ヲ遂クル時
ハ償フコト能ハサル損害ヲ生スヘキコトヲ疏明シタル時ニ限ルコト
トナセリ故ニ原則上ヨリ云ヘハ凡テ一方ノ申立ニヨリ執行ノ停止ヲ

命スル場合ニ於テハ保證ヲ立テシムルヲ以テ當然トス、但テ之ヲ執行
 テ遂クルニ至テハ舊位ニ復スルヲ得サル事實ヲ疎明スル場合ニ限リ
 之ニ其保證ヲ立ツルノ責ヲ免シ執行ノ停止ヲ命スルコトヲ得ヘキモ
 ノトス是レ例外ナリ而テ其償ヒ難キ損害ヲ生スヘシトノコトハ所謂
 事實上ノ問題ニ屬スルヲ以テ或ハ執行ノ目的ニ於テ或ハ相手方ノ位
 置ニ於テ此ノ如キ危険アルヲ疎明シ裁判所之ヲ至當ト認ムルキハ
 以テ保證ノ責ヲ免カレシムルヲ得ヘキナリ

(一二) 保證ヲ立テシメテ強制執行ヲナスヘキコトヲ命スルハ即チ勝
 訴者ニ關スルコトニシテ其結果ハ敗訴者ニ保證ヲ立テシメテ強制執行
 ノ停止ヲナスト同一ニ歸スルモノナリ敗訴者ヲシテ保證ヲ立テシメ
 強制執行ヲ停止スルハ前已ニ説述セシ如ク其停止ノ爲メニ損害ヲ勝
 訴者ニ與フルコトアランヲ恐ル、カ故ナリ而テ勝訴者ヲシテ保證ヲ

立テシメ其執行ヲ果テサシムルモ亦同一ノ理由ニ出ルモノニシテ其
 執行ヲ繼續結了スルカ爲メ異日敗訴者ニ償ヒ得ヘカラサル損失ヲ被
 ラシムル如キコトアランヲ恐ルニ由ル其ノ已ニ爲シタル強制執行ノ
 處分ヲ取消ス場合ハ保證ヲ立ツルノ責ハ其取消ニ付キ利益ヲ受クル
 者即チ已ニ執行處分ヲ受ケタル敗訴者ニアリ是亦其取消ノ爲メ勝訴
 者ニ損害ヲ被ラシメサルヲ欲シテナリ故ニ本條ニ於テ第一第三ノ場
 合ハ敗訴者ニ保證ノ提供ヲ爲サシムルトキヲ想像シ第二ノ場合ハ勝
 訴者ニ保證ヲ立テシムルキヲ想像シタルモノタルコトヲ知了ス可シ

(一三) 第二項ニ關スル説明ハ已ニ(第一)ノ義解中ニ之ヲ解説シタリ
 末項ニ於テ此ノ裁判ヲ以テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得セシメ
 タルモノハ大ニ事情判斷ノ權ヲ裁判官ニ與タルモノニテ裁判官ニシ
 テ辯論ヲ爲サシムルノ必要ナシト認ムルトキニ於テハ其一方ノ申立

而已ニヨリ之カ宣告ヲナシ得ルコトヲ定メタルモノナリ是レ一ハ法律ニ於テ大ニ場合ヲ限リテ綿密ノ規定ヲ取リタルカ故此ノ如クナスモ實際上不都合ヲ生スルコトナカルヘク一ハ此ノ裁判ノ爲メ必ス辯論ヲ經ルコトヲ要スルトモハ爲メニ時日ヲ費シ從テ保證ナクシテ毎ニ執行處分ヲ繼續スルコトト爲リ損害ヲ敗訴者ニ加フルニ至ルノ恐れアルヲ以テナリ

第五百一條 左ノ判決ニ付テハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スヘシ

- 第一 認諾ニ基キ敗訴ヲ言渡ス判決
- 第二 證書訴訟又ハ爲替訴訟ニ於テ言渡ス判決
- 第三 同一審ニ於テ同一ノ原告若クハ被告ニ對シ
本案ニ付キ言渡シタル第二又ハ其後ノ闕席判決

第四 假差押又ハ假處分ヲ取消ス判決

第五 養料ヲ支拂フ義務ヲ言渡ス判決但訴ノ提起後ノ時間及ヒ其提起前最後ノ三個月間ノ爲メ支拂フヘキモノナルトキニ限ル

〔義解(一四)〕本條ハ訴訟人一方ノ申立ナクトモ裁判官ノ職權上ヨリシテ當然假執行ヲナスヘキコトヲ命スヘキ判決ノ類目ヲ示シタルモノナリ以下各項ニ付キ説明スル所アルヘシ

第一 認諾ニ基キ敗訴ヲ言渡ス判決トハ即チ義務者其義務ノ存在ヲ自認シ之カ存在ニ就テハ毫モ争ナク唯單ニ履行ヲ怠レルノミヲ以テ訴訟トナリシ場合ヲ想像シタルモノニテ此ノ場合ニ於テハ上訴期限満了シテ判決ノ確定スルヲ俟タサルヘカヲサルノ理由之レアラサルカ故法律ハ裁判官ノ職權ヲ以テ之ニ假執行ノ宣言ヲ付セシメ權利者

ヲシテ謂ハレナク義務履行ノ利益ヲ失ハサラシメシモノトテ勉メタルモノナリ而テ義務者ノ一方ヨリ云フモ亦當然明確ナル義務ニ付テ之カ履行ヲ命スルコトタルヲ以テ毫モ不平ヲ主張スヘキ理由アルモノニアラス即チ義務者ヲシテ當然ノ任務ヲ盡サシメ權利者ヲシテ謂ハレナキ不利益ヲ忍ハシムルカ如キコトナカラシメタルモノナリ

第二 證書訴訟トハ一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ニシテ其請求ニ必要ナル理由ヲ凡テ證書ニ依リ證明スルコトヲ得ル場合ニ起スモノニテ第四百八十四條以下ニ規定シタル處ノモノヲ云ヒ爲替訴訟トハ商法ニ規定アル手形ニ因テ起ス一種ノ證書訴訟ニシテ第四百九十四條乃至第四百九十六條ニ規定アルモノヲ云フ此ノ種ノ訴訟ニ付キ言渡ス所ノ判決ニ付キテ假執行ノ宣言ヲ付セシムルモノハ其爭點明白ニシテ多クノ

場合ニ於テ覆審ノ爲メ第一審ヲ動かサルハカ如キコト少ナク法律上ニ於テ正確ノ訴求ト推測セラレ得ヘキモノタルヲ以テナリ之レヲ以テ權利者ヲシテ義務履行ニ關スル不利益ヲ忍ハシムヘキ理由之レアラサルモノトナシ假執行ノ宣言ヲ付セシムヘキコトトナセリ

第三 ニ規定シタルモノハ第一審第二審ニ論ナク同一審ニ於テ原告若クハ被告ニ對シ本案ニ付キ已ニ闕席判決ヲ言渡シ其後故障ノ申立アリテ更ニ同一ノ事件ニ付キ闕席判決ヲナシタル場合ニ於テ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノト定メタルモノナリ蓋シ此ノ場合ニ於テハ再度敗訴シタル者ハ即チ曲者タルヘシトノ推測殆ント確實ニシテ容易ニ動かサルルコトナカル可キニヨリ此ノ判決ニ假執行ノ宣言ヲ付スルモ害ヲ及スヘキコト甚々稀ナルヘキヲ以テナリ

第四 ニ規定シタルモノハ假差押又ハ假處分ヲ取消ス判決ニシテ此

ノ判決ハ第七百四十五條第二項第七百四十六條第二項第七百四十七條第二項第七百五十四條第七百五十九條等ニ規定シタル所ナリ蓋シ假差押及ヒ假處分ナルモノハ其字面ニ於テモ明カナルカ如ク元來確定ノ行爲ニアラスシテ假ニ施ス處ノ保護ノ方法ニ過キサルモノナルヲ以テ若シ法律ニ定メタル理由ヨリシテ之カ取消ヲナスヘキ判決ヲ與タル所ハ速ニ其判決ヲ執行シテ假ノ處分ニ苦メラル、モノヲ救ハサルヘカラス故ニ此ノ取消判決ニ就テハ又假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノト定メタルナリ

第五 二規定シタルハ養料ノ支拂義務ニ關スル判決ニシテ養料ナルモノハ親縁ノ關係ヨリシテ他ノ一身ヲ扶持スヘキ爲メ法律ノ規定ニヨリ支給スヘキモノニテ其支拂義務ニ於ケル判決ヲシテ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノト定メタルハ義務ノ性質ニ於テ緩慢ニ付ス可ラザ

ルモノナルヲ以テナリ若シ之ヲシテ他ノ義務ト同シク執行ニ餘裕ヲ與フル所ハ養料ヲ受クヘキモノハ非常ノ困難ニ陥ルニ至リ法律ニ於テ養料給付ノ事ヲ定メタル精神ヲモ貫ク能ハサルニ至ルヤ必然ナリ此ノ如ク本項ハ養料ヲ受クヘキ者ノ事情ヲ慮リ假執行ヲ命シタルモノナルヲ以テ其假執行ヲ果サシムヘキ部分ハ養料ナル名義ノ下ニアル凡テノ義務ニアラスシテ其養料義務ノ中ニ付キ出訴後及ヒ出訴前ノ分ハ出訴ノ時ヨリ溯リテ三個月間ニ止マルヘキモノトナセリ畢竟養料ナルモノ、性質ニ於テ之ノカ給付ヲ受クルモノ、事情ヲ慮リ本條假執行ノ宣言ヲ付スヘキコトトナセシモノタルヲ以テ出訴前三個月以上ニモ溯ル所ハ養料ヲ受クヘキ者ニ非常ナル窮迫ノ事情ノ存在ヲ推測シ難ク却テ養料ヲ受ケツ、餘裕ノ存スルコトヲ窺ハレ得ヘキコトナルカ故三個月以上ニ溯ル分ニハ假執行ヲ命セサルモ實際養料

ヲ受クヘキ者ニ困難ヲ生スヘキコトモナク又之レニ假執行ヲ命スヘキ必要モ之レアラサルヨリ此ノ制限ヲ設ケタルモノナリ
以上ハ即チ法律ニ於テ當然假執行ノ宣言ヲ付スヘキコトヲ規定シタル訴訟ノ類目ニシテ此ノ種ノ判決ニハ裁判官ニ於テ必ス此ノ宣言ヲナサ、ルヘカラサルモノトス

第五百二條 左ノ場合ニ於テハ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲スヘシ

- 第一 總テノ住家其他ノ建物又ハ其或ル部分ノ受取明渡使用占據若クハ修繕ニ關シ又ハ賃借人ノ家具若クハ所持品ヲ賃借人ノ差押タルコトニ關シ賃借人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟
- 第二 占有ノミニ係ル訴訟

第三 雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一箇年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

第四 左ニ掲ケタル事項ニ付キ旅人ト旅店若クハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟
イ 賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料
ロ 旅店若クハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲メ預ケタル手荷物金錢又ハ有價物

第五 此他財産權上ノ請求ニ關シ金額又ハ價格ニ於テ貳拾圓ヲ超過セサル訴訟但其物ノ價格ニ付

アハ第三條乃至第六條ノ規定ヲ適用ス

〔義解〕(一五) 前條ハ法律ノ規定ニ依リ裁判官ニ於テ當然假執行ノ宣言ヲ付セサルヘカラサル訴訟ノ類目ニシテ本條ハ申立ニ依リ即チ請求アリテ初メテ裁判官ヨリ假執行ノ宣言ヲ付スヘキ訴訟ノ類目ヲ定メタルモノナリ故ニ前條ト本條トノ間ニハ(一八)請求ナキモ當然假執行ノ宣言ヲ付セサルヘカラサルト(二八)其請求ナキキハ裁判官ニ於テ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノニアラサルトノ區別アルモノナリ以下前條ニ倣ヒ各項ニ付キ説明スヘシ

第一 住家及ヒ其他一切ノ建物或ハ又建物中ノ一部ニ付キ下ニ定メタルコトノ生シタル場合ハ申立ニヨリ假執行ノ宣言ヲ付スヘキナリ即チ借主ヨリ貸主ニ對シ其受取方ヲ求ムル場合又ハ貸主ヨリ借主ニ對シ其明渡方ヲ求ムル場合或ハ又之カ使用ヲ求メ占據即チ其建物ノ

引受又ハ修繕方等ニ關スル場合及ヒ賃借人ノ家具若クハ所持品ヲ賃貸人ヨリ差押タルコトニ關シ賃貸人賃借人間ニ起リタル訴訟ニシテ此ノ類ノ要求ハ多クハ事情切迫シテ急遽ノ處置ヲ施スニアラサレハ非常ノ困難ヲ一方ニ生スルコトアリ且ツ又其關係簡明ニシテ一般ニ複雑セサル事項ニ屬シ其事案モ亦僅少ノモノナルヲ以テ一方ノ申立ニヨリ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノト定メタルモノナリ

第二 ハ占有而已ニ關ハル訴訟ニシテ即チ其係争ノ點所有權上ノコトニアラスシテ單純ナル占有ノミニ關スル争ナル場合ナリ此ノ場合モ亦事案甚ク大ナラス多クハ簡明ノモノナルヲ以テ申立ニヨリテ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノト定メタルモノナリ

第三 モ亦別段説明スル迄モナク雇人ノ如キ若シ其訴訟ノ爲メ執行ニ長時日ヲ費ス時ハ困難ヲ感スルコト甚シキモノアルヘク其係争ノ

コトモ雇期限一年以下ノ契約ナルキトスレハ甚ダ重大ナルモノニア
ラサルヘキヲ以テ此ノ如ク定メタルモノナリ

第四 ハ旅人ト旅店、飲食店主人、若クハ水陸運送人トノ間ノ關係ヨリ
シテ起リタル訴訟ニ付キ假執行ノ宣言ヲナスヘキ場合ニシテ法律ハ
之ニ付キ二个ノ場合ヲ限定シタリ

(イ)ノ場合ハ旅人ノ義務者タル場合ヲ想像シタルモノニテ即チ旅人カ
飲食店ニ賄料ヲ滞ラシメ又ハ旅店ニ宿料ヲ拂ハス或ハ又旅人自カラ
ノ運送料即チ車代、船代等及ヒ其手荷物ノ運賃ヲ拂ハサル場合ニ於テ
旅人ヲ被告トシテ旅店、飲食店ノ主人若クハ水陸運送人ヨリ請求ヲナ
セシ場合ナリ此ノ場合ニ於テ請求ニヨリ假執行ヲ命スヘキモノトナ
シタルモノハ主トシテ此等營業者ヲ保護スルノ意ニ出ツ若シ夫レ如
斯ナスニアラサレハ特リ營業者ニ於テ其期シタル日常ノ收入ヲ速ニ

得ルコト能ハサルノミナラス旅人ニ對スル執行ノ上ニ於テ非常ノ困
難ヲ生スヘク且此ノ賄料、宿料、運送料ノ如キハ莫大ノ金額ニ上ルコト
ナカルヘキヲ以テ假執行ヲ命スルモ他日不都合ヲ生スルコト殆ント
之ニアラサルニヨル

(ロ)ノ場合ハ全ク(イ)ノ場合ト反對ニシテ旅人ノ權利者タルキヲ想像シ
テ旅人ヲ保護シタルモノナリ即チ旅人ニ於テ手荷物金錢又ハ其他ノ
有價物ヲ保護預ケシタルキ其預ケ品ニ關シ訴訟ノ起リタル場合ナリ
蓋シ旅人ニ於テ或ハ紛失或ハ盜難等ノ危險ヲ恐レ旅店、飲食店若クハ
水陸運送店ニ其手荷物等ヲ預ケ置クコト少ナシトナサス而テ其預ケ
品ニ付キ此等營業者ニ於テ不都合ヲ醸シ因テ出訴シテ勝訴ノ判決ヲ
受ケタルモ其未ダ確定セサルノ故ヲ以テ執行ノ利益ヲ受ケサルキハ
旅人タルモノハ實ニ非常ノ困難ニ陥ラシ故ニ旅人ヲ保護シテ右等ノ

事項ニ關スル訴訟ニ於テハ申立ニヨリ假執行ノ宣言ヲ付スヘキコトト定メタルモノナリ

第五　ハ以上限定シタル外財産權上ノ訴訟ニ關シ其請求金額又ハ請求物ノ價格貳拾圓ヲ超過セサルキハ亦申立ニ依リ假執行ノ宣言ヲ付スヘキコトヲ定メタル者ニテ此場合ハ此ノ少額ノ請求ニ於テハ事情切迫ノモノ少ナカラサルヘク且又其假執行ノ爲ニ回復ス可ラサル害ヲ生スルコト甚々稀レナルヘキヲ以テ此ノ如ク定メタル者ナリ然リ而テ物ノ價格ニ付キ第三條乃至第六條ヲ適用スルトハ即チ價格ノ算定ハ起訴ノ日時ヲ以テ之ヲ定ムルコトノ如キ一ノ訴ヲ以テ數箇ノ請求ヲナスルハ其額ヲ合算スルカ如キ又ハ其算定上複雜ニ亘ル等必要ナル場合ニ於テハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ムルカ如キ申立ニ依リ證據調ヲ命シ又ハ職權ヲ以テ檢證若クハ鑑定ヲ命スル類ノ如キ之レナリ

第五百三條　前二條ニ掲ケタル外左ノ場合ニ於テハ

財産權上ノ請求ニ關スル判決ニ限り債權者ノ申立ニヨリ假執行ノ宣言ヲ爲スヘシ

第一　債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立テント申立ツルトキ

第二　債權者カ判決ノ確定トナルマテ執行ヲ中止セハ償ヒ難キ損害又ハ計リ難キ損害ヲ受クヘキコトヲ説明スルトキ

〔義解〕(一六) 前二條ハ一ハ法律上當然假執行ノ宣告ヲ付スヘキ場合一ハ申立ニヨリ裁判官ノ職權ヲ以テ假執行ノ宣告ヲ付スヘキ場合ヲ定メタルモノナリ本條ハ廣ク財産權上ノ請求ニ於テ債權者ノ申立ニヨリ假執行ヲナスヘキ場合ヲ定メタルモノナリ即チ第一ノ場合ハ債

權者ニ於テ判決ノ執行ヲ求メ之カ執行ニ關スル危險ヲ豫防スル爲メ
 保證ヲ立ツヘキコトヲ申立タルキナリ此ノ場合ニ於テハタトヒ假執
 行ヲ果シタルカ爲メ損害ヲ生スルコトアリトスルモ其損害ヲ回復ス
 ヘキ準備ノ存スルコトナルカ故執行ヲ受クタル債務者ニ損害ヲ及ス
 コトアルヘカラス而シテ執行ヲ求ムル債權者ニ於テハ其執行ノ爲メ
 速ニ利益ヲ復得シ且將來債務者ノ所爲ニ因リ損害ヲ加ヘタル、ノ恐
 レヲ防クコトヲ得ヘシ即チ此ノ假執行ハ債權者ニ利アリテ而シテ債
 務者ニ害ナキモノナリトス第二ノ場合ハ債權者ニ於テ保證ヲ立ツル
 コトヲナサスト雖モ其判決確定マテ執行中止ヲナスキハ回復スヘカ
 ラサル損害若クハ計ルヘカラサル損害ヲ受クヘキコトヲ疏明シタル
 場合ニシテ即チ假執行ヲ果サシムルハ債權者ヲ保護スルカ爲メ實ニ
 不得止手段タルヘキヲ疏明シタルキヲ云フナリ例之義務者逃亡ノ準

備ヲナスカ如キ財産隱蔽ノ方法ヲナスカ如キ凡テ判決ノ確定スル迄
 ニ於テ義務執行上債權者ニ非常ノ害トナルヘキ所爲ノ存スルコトヲ
 疏明シタルキハ之ヲ以テ假執行ヲナサシムヘキ理由トナセリ是レ債
 權者ヨリ云ヘハ實ニ不得止ノ處置ニシテ此ノ如キ法律ノ保護ヲ受ク
 ルニアラサレハ不良ナル債務者ノ爲メ傷害ヲ受クルコトトナリ終ラ
 サルヘカラス又之ヲ義務者ニ就テ見ルモ自己ニ於テ不正ノ手段ヲ以
 テ債權者ヲ害セント試ミルカ如キコトアラハ假執行ヲ命セラル、ニ
 至ルモ寧ロ自己不正ノ所爲ニ原因スル自然ノ責任ト云ハサルヘカラ
 サルナリ故ニ之ヲ何レヨリ見ルモ此ノ場合ニ於テ假執行ヲ命スヘキ
 ハ適當ノコト云ハサルヘカラス
 以上即チ假執行ヲ命スル場合ニシテ而シテ本條ヲ適用スルハ特ニ財
 産權上ノ請求ニ限り債權者ノ申立ニヨリ之カ執行ヲナス場合ヲ規定

シタルモノナリ

第五百四條 債務者カ判決ノ確定トナル前ニ判決ヲ執行セハ回復スルコトヲ得サル損害ヲ受クヘキコトヲ疏明シタルトキハ其申立ニヨリ左ノ宣言ヲ爲スヘシ

第一 第五百一條ノ場合ニ於テハ判決ヲ假リニ執行ス可ラサルコト

第二 第五百二條及ヒ第五百三條ノ場合ニ於テ

ハ債權者ノ假執行ノ申立ヲ却下スルコト

〔義解〕(一七) 本條ハ前條第二ノ規定ト同一ノ理由ヨリシテ恰モ其反對ニ位スル場合ヲ規定シタルモノナリ即チ前條第二ノ規定ハ債權者ニ於テ判決確定ニ至ル迄執行ヲ果サハルルハ回復シ得サル損害ノ生

スルコトヲ疏明シテ以テ假執行ヲ求ムル場合ヲ想像シタルモノニテ本條ハ之ニ反シ債務者ニ於テ若シ判決確定前ニ假執行ヲ爲サシメラル、ホハ回復シ得ヘカラサル損害ヲ受クヘキコトヲ疏明シタルホ其請求ニヨリ假執行ヲ爲サシメサルコトヲ宣言シ若クハ假執行ノ申立ヲ却下スヘキ規定ナリ凡ソ假執行ナルモノハ確定ノコトニアラスシテ假ニ施ス保護ノ方法ナルヲ以テ之カ爲メ回復スヘカラサル損害ヲ生スルニ至テハ遂行シ得ヘキ限ニアラス故ニ本則ヨリ云ヘハ假執行ナルモノハ之ヲ命スヘキモノニアラス只テ或ル事情ニ原因シテ之カ宣言ヲナサシムルモノタルニ過キス此ヲ以テ若シ假執行ヲナサシメ之レカ爲メ債務者ニ回復スヘカラサル損害ヲ與フルカ如キコトアルニ至テハ之ヲ法律ノ保護ヲ全シタルモノト云フヘカラス即チ本條ニ於テ債務者ヨリ之ヲ執行スレハ爲メニ回復スヘカラサル損害ヲ生スヘキコト

疎明シタルキハ強制執行ヲナサシメサルコト定メタル所以ナリ
 本條ニ於テ場合ヲ二个ニ別テ第五百一條ノ場合ニハ判決ヲ假ニ執行
 ス可ラサルコトナシ第五百二條第五百三條ノ場合ニハ債權者ノ假執
 行ノ申立ヲ却下スヘキコト定メタルモノハ共ニ同一ノ結果ヲ生スヘ
 キモノニテ即チ結局假執行ヲナサシメサルニ了ルモノナリ而シテ之
 ヲ二个ノ場合ニ區別シタル所以ノモノハ第五百一條ニ於テハ裁判官
 ノ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ付スヘキコトヲ規定シ第五百二條第五百
 三條ニ於テハ債權者ノ申立ニヨリ假執行ヲ命スル場合ヲ規定シタル
 カ故一方ニ於テハ假執行ヲナサシメサルノ宣言ヲ付セシメ他ノ一方
 ニハ債權者ノ請求ヲ却下スルコトナセシニ止マリ他ニ理由アルコト
 アラス即チ假執行ノ基因スル所相異ナルカ故又假執行ヲナサシメサ
 ルニ付テモ自ラ相異ナル宣言ヲ爲スコトト定メタルモノナリ

第五百五條 總テノ場合ニ於テ裁判所ハ債務者ノ申
 立ニヨリ債權者豫メ保證ヲ立ルトキハ假執行ヲ爲
 シ得ヘキ旨ヲ宣言スルコトヲ得
 債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立ツルコトヲ申出テサ
 ルトキハ債務者ノ申立ニヨリ債務者ニ保證ヲ立テ
 シメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カルルコトヲ
 許ス可シ

[義解] (一八) 本條ハ亦第五百一條乃至第五百三條ノ規定ニ付キ特ニ
 例外ノ規定ヲ爲シタルモノナリ

第五百一條 第五百二條ニ列記シタル場合ニ於テハ一ハ裁判官ノ職權
 ヲ以テスルト一ハ債權者ノ申立ニコルトノ區別アルモ共ニ保證ヲ立
 テシメスシテ必ス假執行ノ宣言ヲ爲スヘキコトトナシ又第五百三條

第二號ニ記載シタル場合ニ於テモ亦保證ヲ立テシメスシテ假執行ノ宣言ヲ爲サ、ルヘカヲサルコトトナシタリ是レ其各條ノ下ニ於テ説明セシカ如キ理由アルヲ以テナリ然レモ元來假執行ナルモノハ不得止ニ出ル權宜ノ處分ニシテ萬一其執行ヲ果シタル後ニ至リ前判決ヲ廢棄若クハ破毀シ更ニ前敗訴者ヲ直者ト判決スルコトアラハ其前敗訴者ハ大ナル損害ヲ受クルニ至ルコト必スシモ之レナシトセス左レハ前條ニ規定セルカ如ク債務者ヨリ假執行ノ爲メ回復スルコトヲ得サル損害ヲ受クヘキ旨ヲ疎明スルコトナシト雖モ假執行ニ付キ債權者ノ保證ヲ立テテ求メ裁判所ニ於テ之ヲ至當ト認ムルキハ場合ノ如何ヲ問ハス債權者ニ此ノ義務ヲ負ハシムルモ亦決シテ不當ノコトニアラサルナリ是レ即チ本條第一項ノ規定アル所以ナリ

〔一九〕又債權者ヨリ假執行ニ付キ保證ヲ立テ以テ萬一ノ危險ヲ擔保

セント申出ツルキハ格別其他ノ場合ニ在リテ債務者保證ヲ立テ若クハ供託ヲナシテ其假執行ヲ免カレンコトヲ申立ツルキハ裁判所ハ其申立ヲ採用シ以テ假執行ヲ免カレシムルモ敢テ債權者ニ對シ不都合ノ結果ヲ生スルコトナカルヘン若シ不都合ヲ生スルノ恐レアリトセハ債權者ハ保證ヲ立テテ申立ツルノ路アリ然ルニ此ノ申出ヲ爲サ、ルハ即チ假執行ヲ免カレシムルニ付キ承認ヲ與タルモノト看做スコトヲ得ヘシ是レ第二項ノ規定アル所以ナリ然リ而テ債務者ノ供託ヲ爲スニ付テハ民法財産編第二部第三章第一節第三款ノ規定ニ從フヘキハ無論ナリトス

第五百六條 假執行ニ關スル申立ハ判決ニ接著スル

口頭辯論ノ終結前ニ之ヲ爲スヘシ

〔義解〕(二〇) 假執行ニ關スル申立トハ即チ前數條ニ規定アル處ニシ

テ或ハ保證ヲ立テ若クハ保證ヲ立テス或ハ供託ヲ爲シ又或ハ事由ノ
 疎明ヲ爲シテ假執行ヲ果タサンコトヲ求メ又ハ之ヲ免レンコトヲ求ムル
 モノニテ債權者ヨリ爲スモノアリ債務者ヨリ爲スモノアリ其區別ハ
 前條ニ至ル迄説明シ來ル處ノ如シ本條ハ凡テ此申立ハ如何ナル場合
 ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナルヤヲ規定シタルモノニテ法文ハ判決ニ
 接着スル口頭辯論ノ終結前ニ之ヲ爲スヘキモノトナセリ故ニ判決ノ
 將ニ下ラントスル前ノ辯論部中ニ之ヲ爲スヘキコトニシテ所謂口頭辯
 論中ニ於テ之ヲ爲スヘキ者ナリ然レモ敢テ口頭辯論トシテ之ヲ爲ス
 ニアラス口頭辯論トシテ設ケタル時間ノ將ニ盡了セントスル時ニ於
 テ之ヲナスヘク已ニ口頭辯論ノ終結シタル上ハ復タ此ノ申立ヲ爲ス
 コトヲ許サハルナリ蓋シ假執行ニ付テノ裁判ハ次條ニ規定スル如ク判
 決文中ニ記入スヘキ必要アリ又其假執行ヲ許否スルニ付テハ債權者

及債務者ニ如何ナル關係ヲ生スヘキヤ豫メ聽斷ヲ要スヘキコトタル
 テ以テ此ノ如ク定メタルナリ

第五百七條 假執行ニ付テノ裁判ハ判決主文ニ之ヲ 掲ク可シ

〔義解〕(一) 本條ハ職權ヲ以テスルト申立ニ依ルトテ問ハス債權者
 ノ利益ノ爲メニ假執行ヲ命スルコト若クハ債務者ノ申立ニヨリ其利
 益ノ爲メニ假執行ノ申立ヲ却下スルコト等凡ソ假執行ニ關スル裁判
 ハ本案ノ判決主文中ニ掲クヘキコトヲ規定シタルモノナリ判決主文
 トハ裁判言渡トシテ訴訟人ニ向ヒ言渡スヘキ判決ノ本文ニシテ即チ
 訴訟人ノ申立裁判ノ理由ノ如キ判決ノ本誌ニ及ハサル處ノモノト異
 ナリテ被原告ノ曲直ヲ斷定スル處ノモノヲ云フ蓋シ假執行ナルモノ
 ハ訴訟人ニ向テ命スル所ノ權利上ノ處置ナルカ故之ヲ判決ノ主文中

ニ加ヘ以テ其判決書ニ依リ之カ執行ヲ爲サシムヘキコトト定メタルモノナリ

第五百八條

職權ヲ以テ判決ノ假執行ヲ宣言ス可キ

場合ニ於テ假執行ニ付テノ裁判ヲ爲ササルトキ又

ハ判決ノ假執行ヲ宣言スヘキ債權者ノ申立ヲ看過

シタルトキハ第二百四十二條及第二百四十三條ノ

規定ニ從ヒ判決ノ補充ヲ爲スコトヲ得

義解(三二)本條ハ假執行ノ宣言ヲ付スヘキ場合ニ於テ之ヲ付セザリシキノ補充法ヲ規定シタルモノナリ第二百四十二條及ヒ第二百四十三條ニ於テハ凡テ判決ヲナスヘキ事項ヲ脱漏シタル場合ヲ想像シ之ニ關スル補充ノ方法ヲ規定シタリ本條ニ於テ假執行ノ宣言ニ付キ脱漏ヲ生シタルモ亦之ニ從テ補充スヘキコトト定メタルハ最モ適當

ノ規定ト云フヘシ何トナレハ前條ニ於テモ已ニ之ヲ見ルカ如ク假執行ノ裁判ハ判決主文中ニ掲クヘキモノトナシ殆ント他ノ判決ト其効果ヲ異ニスル所アラサルヲ以テナリ

本條第一段ニ裁判官ノ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ付スヘキ場合ニ於テ假執行ニ付テノ裁判ヲ爲サルト規定シタルモノハ此ノ場合ハ訴訟人ノ申立ナクトモ裁判官ニ於テ當然假執行ヲナサシムヘキコトヲ宣言セサル可ラサル場合ニシテ即チ第五百一條ニ規定シタル如ク法律ニ於テ此ノ宣言ヲ付スヘキコトヲ命シタルニ係ラス之カ裁判ヲ與サリシキヲ想像シタルモノナリ其第二段ニ於テ判決ノ假執行ヲ宣言スヘキ債權者ノ申立ヲ看過シタルモハ即チ第五百二條第五百三條ニ於テ債權者ノ申立ニヨリ假執行ヲ命シ得ル數多ノ場合ヲ規定シタルカ故此ノ規定ニ基キ債權者ヨリ其申立ヲ爲シタルニ裁判官ニ於

之レヲ却下スルコトモナク又之レヲ採用スルコトモナク不問ニ附
シテ一言ノ之レニ及ハサリシ場合ヲ想像シタルモノナリ即チ第一ノ
場合ニ於テハ當然言渡スヘキ處ノモノヲ言渡サスシテ脱漏シ第二ノ
場合ニ於テハ何レニカ決定ヲ與フヘキ場合ナルニ之レヲ與ヘサリシ
モノニテ共ニ脱漏ニ歸セサルヲ得ス法律ニ於テ補充ヲ命シタルハ即
チ之レヲ此ノ如クナスニアラサレハ判決ノ完キヲ得サルモノタルニ
至ルヲ以テナリ

第五百九條 第一審又ハ第二審ノ判決ニシテ假執行
ノ宣言ナカリシモノ又ハ條件附ノ假執行ノ宣言ア
リタルモノハ上訴ヲ以テ不服ヲ申立テサル部分ニ
限リ口頭辯論ノ進行中ニ爲シタル原告若クハ被告
ノ申立ニ因リ上級審ニ於テ其判決ニ假執行ノ宣言

ヲ付ス可シ

〔義解〕(二三) 本條ハ又假執行ニ關シ更ラニ一段ノ細密ナル規定ヲ爲
セシモノナリ法文ノ意ハ其本案ノ訴訟ハ上級審ニ繫屬シ判決ノ全部
ハ確定以前ニアリトスルモ其訴訟物ノ或ル部分ハ上訴ノ目的トナリ
シモノニアラス即チ訴訟全躰ニ付テ不服ノ上訴アリタルニアラスシ
テ其或ル部分ハ上訴ニ關係ナキ場合ニ於テ第一審若クハ第二審ニ於
テ假執行ヲ命スルトノ宣言之レアラサリシカ又ハ條件附ノ假執行即
チ此ノ如キ事ヲ爲シテ此ノ執行ヲ果タスヘシトカ或ハ此ノ如キニ至
リテ此ノ執行ヲ爲サシムヘシトカ之レカ執行ヲ爲サシムルニ付キ一
ノ條件ヲ附セシキヲ想定シタルモノナリ若シ或ル條件ヲ附シタル假
執行ノ如キハ訴訟全躰ニ關係ヲ有スヘキコトタルカ故其全部ニ關ス
ル執行ニアラサレハ其條件ノ整フヲ俟チ易カラス然ルニ其訴訟ハ或

ル部分ヲ殘シテ他ノ一部ニ對シテ上訴ヲ提起シタリトスレハ遂ニ其條件ヲ全フスルニ難ク假執行ヲ果タシ能ハサルニ至ルヘシ法律ハ此ノ如キ場合ヲ想像シテ假執行ヲ爲サシムル爲メ或ル條件ヲ附シタルカ或ハ假執行ノ宣言ヲナサ、リシカノ場合ヲ同一ニ見做シ共ニ假執行ヲ果タシ能ハサル場合ト爲シ此ノ場合ニ於テ訴訟其物ハ上訴ノ進行中ニ關ハリ確定ニ至ラストスルモ其訴訟ノ或ル部分ハ不服ヲ申出タルモノナクシテ第一審若クハ第二審ノ判決ニ服從シタリト見做サレ得ヘキキニ於テハ其上級審ニ於テ口頭辯論ノ進行中ニ原告若クハ被告即チ其執行ヲ求メント欲スル者ヨリノ申出ニ依リ該訴訟繫屬ノ上級裁判所取リモ直サス第二審ニ至リ此ノ如キコトノ起リタルキハ第二審ニ於テ第三審ニ至リ此ノ如キコトノ起リタルキハ第三審ニ於テ其上訴ニ係ラサル部分ニ限リ其部分ノ判決ニ假執行ノ宣言ヲ付スヘ

シトノ義ナリ

蓋シ道理上ヨリ之レヲ云ヘハ敗訴者ニ於テ其訴訟ノ全躰ニ不服ヲ訴フルコトヲナサスシテ其一部ニ付テハ不服ノ申立アラサルキハ此部分ノ裁判ニハ已ニ服從シタルモノト爲サ、ルヲ得ス例之ハ貸金ノ請求ニ付キ元金ノ貸借上ニ於テハ第一審若クハ第二審ノ裁判ニ對シモ異議スル處ナク唯利子ノ計算上ニ付キ異論ヲ主張シ上訴ヲ提起シタル如キ場合ニ於テハ其元金ナル大部分ノ争點ハ已ニ不服モナク義務者ニ於テハ之ニ甘服シ恰モ其判決ハ確定ニ歸シタルモノト異ナラス然ルニ偶、利子ノ計算上ニ異論ヲ唱ヘ不服ヲ鳴ラシ上訴ヲ提起シタルカ爲メ本案全躰ノ執行ヲ果タシ得サルカ如キアルキハ權利者タルモノハ頗ル困難ノコト、云ハサルヲ得ス然ルニ若シ此ノ場合ニ於テ原裁判ニ於テ假執行ノ宣言ヲ付セシモノアラサルコトトスレハ之レ

ヲ救済スヘキ他ノ方法ヲ與ヘサルヘカラス本條ニ於テ第二審若クハ第三審ニ至リ原被告ノ申立ニ依リ不服ヲ申立テサル部分ニ限リ其判決ニ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノト定メタルハ即チ此ノ如ク訴訟ノ或ル部ハ争ヒナキニ至リ一部ノ不服ノ爲メ全般ノ執行ヲ停止スルカ如キ一ナカラシメタルモノナリ而シテ之レヲ上級審ニ於テ假執行ノ宣言ヲ付スヘキコトト定メタルハ第五百六條第五百七條等ニ規定スル如ク假執行ニ關スル申立ハ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結前ニ之レヲ爲スヘキモノトナシ且ツ其裁判ハ判決主文ニ掲クヘキモノト定メタルカ故已ニ其判決終ハリ訴訟ノ上級審ニ繫屬スルニ至ルトキハ此ノ規定ニ從フ能ハサルニ至ルカ故本條ニ於テハ其或ル部ハ上級審ニ於テ其宣言ヲ付スヘキモノト爲セリ況ンヤ又此ノ如ク爲スニアラサレハ原裁判所ハ其果シテ何レノ部分カ不服ニシテ何レノ部分ハ異

義ナク存スルモノナルヤヲ知り易カラサルカ故實際上ヨリ云フモ上級審ヲシテ此ノ宣言ヲ付セシムルノコトハ止ムヲ得サルノコトト云フ可キナリ

第五百十條 本案ノ裁判又ハ假執行ノ宣言ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スル判決ノ言渡アルトキハ假執行ハ其廢棄若クハ破毀又ハ變更ヲ爲ス限度ニ於テ効力ヲ失フ

假執行ノ宣言アリタル本案ノ判決ヲ廢棄若クハ破毀又ハ變更スルトキハ判決ニ基キ被告ノ支拂又ハ給付シタルモノノ辨濟ヲ被告ノ申立ニ因リ判決ヲ以テ原告ニ言渡ス可シ

〔義解〕(二四) 本條ハ已ニ假執行ノ宣言ヲ付シタル裁判又ハ假執行ノ

宣言ノ上ニ變動ヲ生シタル場合ヲ豫想シタルモノナリ
 假執行ハ特ニ第五百一條五百二條等法律上特定ノ場合ニ於テ命セラ
 ルルノミナラス第五百三條ノ規定ニヨリ債權者ヨリ保證ヲ立テ若ク
 ハ將來ノ危険ヲ疏明シテ之ヲ請求シ得ルモノナルカ故假執行ヲ命ス
 ルノ宣言ヲ付スヘキ場合ハ決シテ少ナシト云フ可カラズ故ニ上訴ヲ
 進行シテ訴訟ノ審理ヲ重ヌルニ於テハ或ハ原裁判ニ於テ已ニ敗訴者
 ト斷定シ之レニ對シ假執行ヲ宣言シタル其本牒ノ訴訟ノ讎反ヲ見ル
 コトハ決シテ之レナシト云フ可ラス或ハ又本案ノ裁判ニ變動ヲ生セ
 サルモ假執行ノ宣言ヲ不當トシテ其廢棄破毀變更等ヲ得ルカ如キコ
 トモ之レナシト云フ可ラス即チ其訴訟ニ變動ヲ生スルカ又ハ假執行
 ノ宣言ニ變動ヲ生シタルキハ其限度即チ變動シタル文ノ部分ニ限り
 之レカ効力ヲ失フヘキモノナリ此ノ理由ハ最も明白ニシテ即チ初メ

假執行ヲ命シタル所以ノモノハ確實ニ義務ノ存在スルコトヲ認メタ
 ルニ由ル然ルニ此ノ推測ハ事實ノ上ニ於テ已ニ破レ本案ニ變動ヲ生
 シタルキハ之レニ依リテ宣言シタル假執行ノ宣言ヲ遂行スヘキ理由
 アルヘカラス特リ之レヲ遂行シ得サルノミナラス其宣言ノ効力ハ自
 然消滅セサル可カラズ然レモ其効力ノ消滅ハ要スルニ判決ノ變動シ
 タル部分ニ止マルヘキモノニテ全般ヲ消滅セシムヘキモノニアラス
 唯不法ニ宣言シタル部分ノミ不法ノコト明ラカナルニ至リ効力ヲ失
 フニ至ルヘキモノトス又本案ニ關スル裁判ニハ變動ヲ生スルニ至ラ
 ストスルモ假執行ノ宣言ニシテ變動ヲ生シ廢棄破毀或ハ變更ヲ生シ
 タルキハ固ヨリ其初メ宣言シタル假執行ハ其部分ノ効力ヲ失フヘキ
 モノナリ是レ亦事理明白ノコトニテ當然此ノ如クナラサルヘカラス
 ルモノナリ

〔二五〕此ノ如ク訴訟ノ本案若クハ假執行ノ上ニ於テ變動ヲ生シタル
 事ハ其變動ノ生シタル部分ハ効力ヲ失フヘキコト實ニ當然ノ理ナル
 モ若シ其宣言ニ基キ假執行ヲ果シタル場合ニ於テハ如何ニスヘキ
 ヤ之レカ救済ノ道ヲ設ケサル可ラス第二項ハ即チ此ノ場合ヲ想定シ
 タルモノニテ若シ判決ニ基キ被告ヨリシテ原告ニ支拂ヒ又ハ給付シ
 タル事ハ其辨濟ヲ原告ニ言渡スヘキコトトス此ノ言渡ハ第二審以上
 ニ於テ起ルヘキモノニテ前審ノ裁判ニ對シ變更ヲ言渡ス場合ニ於テ
 併セテ之ヲ言渡スヘキモノナリ而シテ此ノ言渡アリタル事ハ當初支
 拂ヲ受ケ若クハ給付ヲ受ケタル原告ハ其言渡ニ應シ以テ前ニ不當ニ
 收受シタル部分即チ第二審以上ニテ變動セラレタル部分ヲ被告
 ニ辨濟セサル可ラス然レモ此事タル法律上當然爲スヘキコトニアラ
 スシテ裁判所ニ於テハ此ノ如キ利益ヲ得ント欲スル被告ノ申立アル

事ニ限リ之レカ判決ヲ爲スヘキモノトス

第五百十一條 第二審ニ於テハ申立ニ因リ先ツ假執
 行ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス可シ

口頭辯論ノ延期ニ付テノ第四百十條ノ規定ハ此場
 合ニ於テハ之ヲ適用セス

第二審ニ於テ假執行ニ付キ爲シタル裁判ニ對シテ
 ハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

〔義解〕(二六) 假執行ハ已ニ說來ルカ如ク或ル原由若クハ一方ノ或ル
 所爲アル事ニ限リ之レヲ宣言スヘキモノナリ然ルニ其ノ原由若クハ
 所爲ナキニ之レヲ宣言シ又ハ其ノ原由若クハ所爲アルニ拘ラス之レ
 カ宣言ヲ拒ムコトアリトシテ訴訟人第二審ニ於テ其申立ヲ爲シタル
 事ハ第二審裁判所ハ本案ノ辯論ニ入ラサル前ニ於テ先ツ此ノ申立ノ

當否ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲スヲ要ス是レ本條第一項ノ規定スル處ナリ蓋シ假執行ヲ爲ス可ラサルニ之レヲ宣言シ又ハ假執行ヲ爲ス可キニ其宣言ヲ拒ムハ一ハ被告ニ對シ一ハ原告ニ對シ損害ヲ及ホス可キノ恐レアリテ共ニ法律ノ保護ヲ曠シフスルモノト云フヘシ左レハ右ノ申立アリタルキハ最モ急速ニ其當否ヲ判定シ果シテ假執行ヲ爲サシム可キモノナランニハ其旨ヲ言渡シ又假執行ヲ爲サシム可カラサルモノナランニハ前裁判ヲ取消シ以テ訴訟人ノ利益ヲ保護セサル可ラサルナリ

〔二七〕第四百十條ニ從ヘハ控訴審ニ於ケル口頭辯論ハ其期日ニ於テ被控訴人ノ控訴期間ノ未タ經過セサルキハ其申立ニ因リ期間ノ滿了マテ之レヲ延期スルコトト定メ以テ被控訴人ヲシテ其裁判ニ對シ更ラニ上訴等ノ理由ヲ熟考セシムヘキ餘裕ヲ與ヘタリ此事タルヤ其本

案ノ裁判ハ原被雙方ノ利害ヲ保ツモノナルヲ以テ若シ期間滿了前ニ口頭辯論ヲ終ルニ至ルキハ一方ノ者ハ偶マ他ノ一方ヨリ上訴ヲ先ンセラレタルカ爲メ法律ノ定メタル期間ノ利益ヲ失フニ至ルヘキカ故此ノ如クニ定メタルモノナリ此ノ規定タル本案ニ對スル控訴ノ判決ニ付テハ最モ適當ノコトナリト雖モ假執行ニ關スル異議ノ申立ニ付テハ決シテ適用シ得ヘキモノニアラス何トナレハ此異議ノ申立ニ付テハ前段既ニ説明セシ如ク最モ急速ニ其當否ヲ判定スルヲ必要トス若シ空シク時日ヲ經過スルキハ法律保護ノ効ヲ見ルコト能ハサルニ至ルノ恐レアレハナリ殊ニ第四百十條ノ場合ニ於テ口頭辯論ノ延期ヲ與ヘタル所以ノモノハ此ノ如ク爲スニアラザレハ控訴期間トシテ與ヘタル法律上ノ期間ヲ一方ノ所爲ニ依リ短縮セラレ附帶ノ控訴ヲ爲サント欲スルモ復タ之レヲ爲スコトヲ得サルニ至ル等ノ不利益ヲ

被ラシムルノ恐ナルヲ以テナリ然ルニ假執行ノ異議ニ付テハ一方ニ於テ決シテ此ノ如キ理由ヲ備フルモノアルコトナシ是レ第二項ヲ以テ本條ノ場合ニ於テハ第四百十條ヲ適用セサルモノト定メタル所以ナリ

〔二八〕 第二審ニ於テ已ニ假執行ノ當否ヲ審案シ其裁判ヲ爲シタルキハ之ニ對シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトナセリ是レ第三次ニ來ル裁判ハ通例上告ニシテ上告ニ於テハ第四百三十二條以下ニ規定アル如ク提起ノ原由ニ定マレルモノアリテ事實ノ審理ヲ繰リ返スノ所ニアラス故ニ本條ノ異議ノ如キ專ラ事實ノ點ニ屬スルモノハ上告裁判所ニ提出シ得ヘキモノニアラサルノミナラス第二審ノ判決ハ大ニ其推測ヲ堅フシ之ヲ基礎トシテ執行セシムルモ弊害ヲ生スルコト甚々稀レナルヘシ殊ニ其執行ヲ急速ニスルノ必要アルヲ以テ此

ノ如ク定メタルモノナリ故ニ假執行ニ關スル不服ハ第二審ヲ以テ終局トナスモノタルコトヲ知ルヘシ

**第五百十二條 假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シ
故障ヲ申立又ハ上訴ヲ起シタルトキハ第五百條ノ
規定ヲ準用ス**

〔義解〕〔二九〕 本條ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ付キ故障若クハ上訴ノ提起アリタル場合ヲ想定シタルモノニテ法文ニ於テハ此ノ場合ニ於テハ第五百條ノ規定ヲ準用スルコトト爲セリ左レハ此ノ故障若クハ上訴アリタルキハ原狀回復又ハ再審ヲ求ムル申立アリタルキト同シク保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止スヘキコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ爲スヘキコトヲ命シ及ヒ保證ヲ立テシメテ其爲シタル強制處分ヲ取消ス可キヲ

命スルコトヲ得ルカ如キ又其保證ヲ立テシメスシテ執行ノ停止ヲ命
スルハ之レヲ執行スル時ハ回復シ得ヘカラサル損害ヲ生スヘキコト
ヲ疏明シタル場合ニ限ルカ如キ又此ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之
レヲ爲スコトヲ得ヘク且ツ其裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ
得サルカ如キ凡テ該條ニ規定シタル處ニ從ヒ其處分ヲ爲スヘキナリ
而シテ其詳カナルコトハ該條ノ下ニ詳論シタルカ故今之ヲ贅セス

第五百十三條 本編ノ規定ニ從ヒ原告若クハ被告ニ
保證ヲ立ツル義務ヲ負ハシメ若クハ保證ヲ立又ハ
供託ヲ爲スコトヲ許シタル場合ニ於テハ原告若ク
ハ被告ハ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ
執行裁判所ニ保證ヲ立又ハ供託ヲ爲スコトヲ得
保證ヲ立又ハ供託ヲ爲シタルコトニ付テハ求ニ因

リ證明書ヲ付與ス可シ

〔義解〕(三〇) 本條ハ保證又ハ供託ハ何レノ裁判所ニ向テ之レヲ爲ス
ヘキモノナルヤ及ヒ保證又ハ供託ニ關スル證明書付與ノコトヲ并セ
定メタルモノナリ

本編ニ於テハ以上見來ルカ如ク義務トシテ原告若クハ被告ニ保證ヲ
立テシムルコトアリ又或ハ原告若クハ被告ニ於テ或ル目的ヲ果タサ
シカ爲メ自ラ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲サシコトヲ申出テ裁判所ノ許
ニヨリテ之レヲ爲スコトアリ凡テ此ノ如キ場合ニ於テハ其保證若ク
ハ供託ヲ爲スヘキ者ニ於テ第十條以下ニ定メタル普通裁判籍ナル區
裁判所カ又ハ執行裁判所ニ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ得ヘシ
此ノ如ク裁判所ヲ一定スルコトハ最モ必要ノコトニテ若シ之レヲ決
定スルニアラサレハ此ノ點ニ關スル管轄廳ハ甚々曖昧ニ至リ實際上

不都合ヲ生スルハ必然ナリ故ニ法文ヲ以テ之レヲ一定シタリ

(三一) 第二項ハ裁判所ニ向テ命令シタル規定ニシテ即チ裁判所ハ其供託ヲ爲セシコト若クハ保證ヲ立テタルコトノ證明書ヲ求めタルキハ之レヲ付與セサル可カラズ蓋シ原告若クハ被告ハ此ノ證明書ニ依リ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタルコトヲ立證シ以テ其爲サント欲スル所ノ目的ヲ行フコトトナルナリ故ニ其立證者ニシテ證明書ヲ求めルニ當リテハ之レヲ付與シ證明ノ材料ト爲サシメサル可カラズ

第五百十四條 外國裁判所ノ判決ニ因レル強制執行

ハ本邦ノ裁判所ニ於テ執行判決ヲ以テ其適法ナルコトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得
執行判決ヲ求ムル訴ニ付テハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ

又普通裁判籍ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ
債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル裁判所之ヲ管轄ス

(義解) (三二) 本條ハ訴訟ノ本案ハ已ニ外國裁判所ニ於テ判決ヲ受ケ其執行ノミチ本邦ノ裁判所ニ求メントスル場合ヲ規定シタルモノナリ法律ハ此ノ場合ニ於テ執行判決ナルモノヲ設ケ以テ其判決ノ適法ナルヤ否ヤヲ定メシムルコトト爲セリ若シ此ノ如ク爲スニアラザレハ或ハ謂レナキ裁判ノ執行ヲ強イラル、カ如キモノアルノミナラス他邦ノ命令ニ強制セラル、カ如キ不都合ノ結果ヲ生スルニ至ルヘキヲ以テナリ之レヲ以テ執行判決ナル一ノ方法ニ依リ此ノ如キ嫌ヒヲ避ケシメ其命令ハ決シテ他邦ノ命令ニアラサルコトヲ明ニシテ強制力ヲ用ユルニ適當ノ理由ヲ備ヘシメ并セテ外國裁判所ノ判決ノ果シテ適法ノ判決タルヤ否ヤヲ調査セシメ不法ノ命令ニ苦マシムルカ如

キコトナカラシメタルモノナリ故ニ如何ナル場合ニ於テモ外國裁判所ノ判決ハ當然本邦ニ於テ執行セラレ得ヘキモノニアラス次條ニ規定シタル調査ヲ受ク本條ニヨリ所謂執行判決ナル言渡ヲ以テ其裁判ニ執行力ヲ付與セラレタル限リ強制執行ヲ爲シ得ヘキモノニテ此ノ手續ヲ踐行セサルニ於テハ決シテ強制執行ヲ受クルコト之レアラサルモノナリ

〔三三〕 此ノ如ク執行判決ナル方法ヲ以テ強制執行ヲ與フルニ付テハ其執行判決ハ何レノ裁判所ニ於テ之レヲ爲スヘキモノナルヤ蓋シ此ノ執行判決ヲ求ムルハ即チ一種ノ訴訟ナルヲ以テ其訴訟ヲ爲スニ付テハ一般普通ノ程式ニ從フヘキハ勿論ナリトス乃チ第二項ヲ以テ債務者タル即チ執行ヲ受クントスルモノ、普通裁判籍ヲ有スル地ヲ以テ此ノ訴ノ管轄裁判所ト定メタリ而シテ法文ニ區裁判所又ハ地方裁

判所云々ト定メタルモノハ區裁判所ト地方裁判所トハ階級上管轄權ニ相違ノ存スルモノナルヲ以テ其訴訟ノ種類性質ニ從ヒ或ハ區裁判所ニ之レカ執行判決ヲ求メ或ハ地方裁判所ニ之レヲ求ムヘキコトヲ示シタルニ過キス若シ債務者普通裁判籍ヲ有セサルハ即チ債務者ニシテ住所ヲ有セサル場合ニ於テハ第十七條ニ規定シタル裁判籍ニ於テ之ヲ管轄ス第十七條ニ於テ規定シタル裁判籍トハ其債務者ノ財產又ハ訴ヲ爲シテ請求スル物ノ所在地ヲ指スナリ而シテ債權ニ付テハ債務者第三債務者ノ住所ヲ以テ其財產ノ所在地ト看做シ債權ニ付キ物カ擔保ノ責ヲ負フトキハ其物ノ所在地ヲ以テ財產ノ所在地ト看做ス故ニ若シ普通裁判籍ノ存スルトキハ第十條ニ依リ普通裁判籍ノ裁判所ニ提出シテ執行判決ヲ求メ若シ之レアラサル場合ニ於テハ第十七條ニ依リ管轄裁判所ト爲レル所ニ於テ之レヲ求ムヘキコトナリ要

不都合ヲ生スルハ必然ナリ故ニ法文ヲ以テ之レヲ一定シタリ

六〇
〔三一〕第二項ハ裁判所ニ向テ命令シタル規定ニシテ即チ裁判所ハ其供托ヲ爲セシコト若クハ保證ヲ立テタルコトノ證明書ヲ求メタルハ之レヲ付與セサル可カラス蓋シ原告若クハ被告ハ此ノ證明書ニ依リ保證ヲ立テ又ハ供托ヲ爲シタルコトヲ立證シ以テ其爲サント欲スル所ノ目的ヲ行フコトトナルナリ故ニ其立證者ニシテ證明書ヲ求ムルニ當リテハ之レヲ付與シ證明ノ材料ト爲サシメサル可カラス

第五百十四條 外國裁判所ノ判決ニ因レル強制執行ハ本邦ノ裁判所ニ於テ執行判決ヲ以テ其適法ナルコトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得
執行判決ヲ求ムル訴ニ付テハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ

又普通裁判籍ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル裁判所之ヲ管轄ス

〔義解〕〔三二〕本條ハ訴訟ノ本案ハ已ニ外國裁判所ニ於テ判決ヲ受ケ其執行ノミヲ本邦ノ裁判所ニ求メントスル場合ヲ規定シタルモノナリ法律ハ此ノ場合ニ於テ執行判決ナルモノヲ設ケ以テ其判決ノ適法ナルヤ否ヤヲ定メシムルコトト爲セリ若シ此ノ如ク爲スニアラザレハ或ハ謂レナキ裁判ノ執行ヲ強イラル、カ如キモノアルノミナラス他邦ノ命令ニ強制セラル、カ如キ不都合ノ結果ヲ生スルニ至ルヘキヲ以テナリ之レヲ以テ執行判決ナル一ノ方法ニ依リ此ノ如キ嫌ヒテ避クシメ其命令ハ決シテ他邦ノ命令ニアラサルコトヲ明ニシテ強制力ヲ用ユルニ適當ノ理由ヲ備ヘシメ并セテ外國裁判所ノ判決ノ果シテ適法ノ判決タルヤ否ヤヲ調査セシメ不法ノ命令ニ苦マシムルカ如

キコトナカラシメタルモノナリ故ニ如何ナル場合ニ於テモ外國裁判所ノ判決ハ當然本邦ニ於テ執行セラレ得ヘキモノニアラス次條ニ規定シタル調査ヲ受ク本條ニヨリ所謂執行判決ナル言渡ヲ以テ其裁判ニ執行力ヲ付與セラレタルモノニ限リ強制執行ヲ爲シ得ヘキモノニテ此ノ手續ヲ踐行セサルニ於テハ決シテ強制執行ヲ受クルコト之レアラサルモノナリ

〔三三〕 此ノ如ク執行判決ナル方法ヲ以テ強制執行ヲ與フルニ付テハ其執行判決ハ何レノ裁判所ニ於テ之レヲ爲スヘキモノナルヤ蓋シ此ノ執行判決ヲ求ムルハ即チ一種ノ訴訟ナルヲ以テ其訴訟ヲ爲スニ付テハ一般普通ノ程式ニ從フヘキハ勿論ナリトス乃チ第二項ヲ以テ債務者タル即チ執行ヲ受クントスルモノ、普通裁判籍ヲ有スル地ヲ以テ此ノ訴ノ管轄裁判所ト定メタリ而シテ法文ニ區裁判所又ハ地方裁

判所云々ト定メタルモノハ區裁判所ト地方裁判所トハ階級上管轄權ニ相違ノ存スルモノナルヲ以テ其訴訟ノ種類性質ニ從ヒ或ハ區裁判所ニ之レカ執行判決ヲ求メ或ハ地方裁判所ニ之レヲ求ムヘキコトヲ示シタルニ過キス若シ債務者普通裁判籍ヲ有セサルモノ即チ債務者ニシテ住所ヲ有セサル場合ニ於テハ第十七條ニ規定シタル裁判籍ニ於テ之ヲ管轄ス第十七條ニ於テ規定シタル裁判籍トハ其債務者ノ財產又ハ訴ヲ爲シテ請求スル物ノ所在地ヲ指スナリ而シテ債權ニ付テハ債務者(第三債務者)ノ住所ヲ以テ其財產ノ所在地ト看做シ債權ニ付キ物カ擔保ノ責ヲ負フトキハ其物ノ所在地ヲ以テ財產ノ所在地ト看做ス故ニ若シ普通裁判籍ノ存スルトキハ第十條ニ依リ普通裁判籍ノ裁判所ニ提出シテ執行判決ヲ求メ若シ之レアラサル場合ニ於テハ第十七條ニ依リ管轄裁判所ト爲レル所ニ於テ之レヲ求ムヘキコトナリ要

スルニ第一項ハ外國裁判所ノ判決ニ付キ強制執行ノ宣言ヲ付與スルハ如何ナル場合ニ之レアルヤヲ規定シ第二項ハ其強制執行ヲ宣言スヘキ管轄裁判所ヲ定メタルモノナリ

第五百十五條 執行判決ハ裁判ノ當否ヲ調査セスシ

テ之ヲ爲ス可シ

執行判決ヲ求ムル訴ハ左ノ場合ニ於テハ之レヲ却下スヘシ

第一 外國裁判所ノ判決ノ確定ト爲リタルコト

ヲ證明セサルトキ

第二 本邦ノ法律ニ依リ強テ爲サシムルコトヲ得サル行爲ヲ執行セシム可キトキ

第三 本邦ノ法律ニ從ヘハ外國裁判所カ管轄權

ヲ有セサルトキ

第四 敗訴ノ債務者本邦人ニシテ應訴セサリシ

トキ但訴訟ヲ開始スル呼出又ハ命令ヲ受訴裁判所所屬ノ國ニ於テ又ハ法律上ノ共助ニ依リ

本邦ニ於テ本人ニ送達セサリシトキニ限ル

第五 國際條約ニ於テ相互ヲ保セサルトキ

〔義解〕(三四) 本條ハ執行判決ハ如何ニシテ之レヲ爲スヘキモノナルヤノコト即チ執行判決ノ性質ヲ定メタルモノナリ本來執行判決ナルモノハ其文字ノ示スカ如ク其判決ハ執行セシムヘキモノナルヤ否ヤヲ判定スルニアリテ其判決ノ適否ヲ調査スヘキモノニアラス若シ裁判ノ當否ヲ調査スルニ至テハ是レ判決ヲ更ムルノ所爲ニシテ取りモ直サス外國ニ於テ與ヘタル裁判ヲ無効ニ歸セシメ更ニ裁判ヲ爲シ代

フルコトトナルナリ故ニ執行判決ニ於テハ訴訟ノ事實ヲ調査シ其事
實ニ對スル判決ノ如何等ヲ詮議スヘキモノニアラス唯其判決ハ果シ
テ之レヲ本邦ニ於テ執行セシムヘキモノナルヤ否ヤノ點ノミヲ調査
スヘキモノナリ然レモ如何ナル判決コソ本邦ニ於テモ執行力ヲ有ス
ルモノナルカ法律ニ於テハ之レヲ定メタルモノアラス本條ニ於テハ
所謂反對理由ノ論法ヲ以テ執行判決ニ於テ適法トシテ言渡ス可ラサ
ル場合ヲ列記シ第一ヨリ第五ヨリ列記シタル場合ニ於テハ裁判所ハ外
國ニ於テ言渡サレタル判決ニ付キ執行力ヲ付與ス可ラサルモノトナ
セリ故ニ此ノ五ノ場合ヲ除ク外ハ外國裁判所ノ判決ヲ適法ノモノ
ト認メサル可ラサルコトトナルナリ

第一 凡ソ判決ハ確定ノ効力ヲ生スルニ至ラザレハ之レヲ執行ス
ヘカラサルコト勿論ニシテ判決ノ確定ハ執行ヲ要求スルノ基礎ト

爲ルヘキモノナリ故ニ其執行ヲ要求スルニハ第四百九十九條ノ規
定ニ從ヒ裁判所ヨリ付與セラレタル證明書ヲ以テ判決ノ確定シタ
ルコトヲ證明スルヲ通則トス左レハ外國裁判所ニ於テ受ケタル判
決ヲ本邦ニ於テ執行セント求ムルニ付テモ此ノ原則ニ違由セサル
可ラサルヲ當然ニシテ執行ヲ受ケントスル其判決ハ果シテ上訴期
間ノ滿了ニ至リタルモノナルヤ否ヤ上訴ノ提起之アラサリシヤ否
ヤ要スルニ其判決ハ確定効ヲ生シ執行ヲ求め得ヘキ地位ニ進ミタ
ルモノナルヤ否ヤヲ證明セサル可ラス若シ之カ證明ヲ爲スニアラ
サレハ果シテ其裁判ハ執行シ得ヘキ程ニ熟シタルヤ否ヤヲ知り得
ヘカラサルヲ以テ從テ之レニ對シ執行判決ヲ與フルヲ得ヘカラス
已ニ執行判決ヲ與ヘ得ヘカラサルカ故其請求ハ之ヲ却下セサル可
ラス即チ本項ノ證明ハ執行判決ヲ求ムルニ付キ基礎ノ要請ト爲ル

モノニア要請者ニ於テ必ス具ヘサル可ラサル證明ノ法ナリトス
 第二 ハ外國裁判所ノ判決ニシテ其命令スルトコロノ行爲若シ本
 邦ノ法律ニ於テハ強テ爲サシメ得サルモノニ係ルモハ之レヲ却下
 スヘキナリ例之ハ財産上ノ請求ヲシテ身軀ノ自由ニ及ハシムルカ
 如キハ我邦ノ法律上ニ於テ強制執行ヲナスヲ得セシメサルモノナ
 ルヲ以テ其外國裁判所ニ於テハ之レヲ執行スヘキコトニ判決シ
 アルモ其執行ハ本邦裁判所ニ於テ適法トシテ認ムルコトヲ得ス即
 チ此ノ如キ場合ニ於テハ執行ス可ラサル行爲ヲ執行セシメント求
 ムルモノナルヲ以テ裁判所ハ執行判決ノ要請ヲ却下セサル可ラサ
 ルナリ若シ此ノ如クナスニアラサレハ我法律ト牴觸シテ我法律ノ
 保護スル保護ヲ奪フニ至ルヘキナリ是レ殊ニ本項ヲ以テ却下ノ事
 項ニ數ヘタル所以ナリ

第三 凡ソ管轄ニ付テハ第一編第一章第一節及ヒ第二節ヲ以テ明
 細ニ規定シタルモノアリ故ニ裁判所ニ出訴シテ法律ノ保護ヲ求メ
 ノト欲スル者ハ必ス此ノ管轄ニ關スル法律ノ規定ニ從ヒ管轄裁判
 所ニ對シテ之レヲ要請セサル可カラス然ルニ若シ其管轄ニ關スル
 法律ニ違反シ外國裁判所ニ於テ管轄ス可カラサル事ヲ管轄ナシ之
 レニ裁判ヲ與ヘタルコトアリトスレハ其裁判タル我法律ヨリ之レ
 チ見レハ初メヨリ之レアラサリシト同一ニ歸シ隨テ本邦人ニ向テ
 之レニ服従スヘキノ義務ヲ負ハシムヘキニアラス恰モ是レ命令ス
 ルノ權利ナキ者ヨリ出テタル命令ノ宣言ト同一ニシテ其命令ノ効
 カハ以テ被命者ヲ拘束スルノ力ヲ有セサルモノナリ故ニ外國裁判
 所ノ判決ニ付キ本邦ニ於テ執行力ヲ有セシメントスルモハ必ス先
 ツ外國裁判所ハ之レヲ管轄スヘキ權利ヲ有スルモノナルヤ否ヤ本

邦ノ法律ニ照ラシテ之レカ調査ヲ爲シ若シ本邦ノ法律ニ於テ外國
 裁判所ニ於テ管轄スヘキコトニアラサルハ執行判決ノ要請ヲ却
 下シ執行力ヲ付與スヘカラサルナリ是レ實ニ適當ノ規定ニシテ若
 シ管轄權ヲ有セサル(本邦ノ法律ニ照ラシテ)外國裁判所ノ判決ヲモ
 執行シ得ヘキモノトナスハ實ニ其不法言フ可ラサルニ至リ徒ラ
 ニ不法ノ苦痛ヲ我邦人ニ與フルニ至ルヘキナリ

第四ニ規定シタルハ欠席判決ノ場合ナリ然レモ此ノ法律ニ規定
 アル欠席判決ノ場合トハ異ニシテ此ノ場合ハ敗訴ノ債務者即チ執
 行ヲ受クントスル者本邦人ニシテ外國裁判所ノ裁判ニ對シテ答辯
 ナサ、リシノミナラス其訴訟ノ起リタルコトヲモ適法ニ覺知セ
 サリシ場合ヲ想像シタルモノナリ已ニ其訴訟ニ應セス故ニ自己ノ
 利益ヲ證明スル手段モナク一方ノ申立ノミヲ以テ其判決ハ定マリ

タルモノト看做サル可ラス果シテ然レハ其判決ノ適否頗ル疑ハ
 シキモノナシトセス若シ其判決ニシテ單ニ片言訟ヲ聽クノ類ニ出
 テ一方ニ利益ナル點ノミヲ見テ之レカ判決ヲ與ヘタル如キモノナ
 ラレカ債務者ハ之レカ爲メニ不當ノ責務ヲ命セラレ不法ニ苦マサ
 ル可ラサルコトトナルナリ故ニ特ニ本項ヲ以テ本邦人應訴セザリ
 シ場合ニ於テハ其判決ハ適法ノモノト看做ス可ラサルコトトナシ
 之レヲ却下スヘキモノト定メタリ

然レモ本邦人ノ應訴セザリシコトハ其過失怠慢ニ出テサルコトヲ
 要ス是レ最モ注意スヘキコトニシテ若シ自己ノ過失怠慢ニ因テ應
 訴セザリシトキト雖モ尙ホ債務者ニ本條ノ利益ヲ與フルハ法律
 ハ徒ラニ不正者ヲ保護スルノ嫌アルヲ免レンス是レ但書ヲ以テ訴訟
 ヲ開始スルノ呼出又ハ命令ノ送達ヲ其受訴裁判所所屬ノ國ニ於テ

受クタルコトナキカ又ハ法律上ノ共助ニ依リ本邦ニ於テ其呼出又ハ命令ヲ其本人ニ送達セザリシキニ限ルコトト爲セシ所以ナリ而シテ本邦ニ於テ此ノ呼出又ハ命令ヲ與フルハ所謂法律上ノ共助ヲ約シタルキニ於テ之レヲ爲スヘキカ故本項殊ニ法律上ノ共助ヲ以テ云々ト定メタルナリ若シ夫レ債務者ニシテ本條但書ニ於テ豫想スルカ如ク其受訴裁判所所屬ノ國ニ於テ呼出又ハ命令ヲ受クタルカ或ハ本邦ニ於テ其呼出若クハ命令ヲ送達セラレズ、尙ホ應訴セザリシキハ其過失ハ實ニ債務者ニアリテ存ス債務者ハ自ラ應訴ヲ爲サスシテ好シテ不利益ヲ取リタルモノタルヲ以テ其判決ニ付キ執行判決ヲ與ヘラル、モ已ムテ得サルコトトナサ、ル可ラス是レ自己ノ過失ヲ理由トシテ自己ノ利益ヲ求メントスルハ法律ノ許ス處ニアラサルヲ以テナリ

第五 ハ國際條約ニ於テ相互ヲ保セサルキニシテ以上數ヘタル四
 个ノ場合ニハ盡ク牴觸スルモノ之ナシトスルモ若シ國際條約ニ於
 テ互ニ其判決ノ執行ヲ爲スコトヲ約セサル場合ニ於テハ執行判決
 ヲ求ムル訴ヲ却下スヘキナリ我邦ニ於テ與ヘタル判決甲ノ國ニ於
 テハ執行ヲ爲シ得サルモノトスレハ甲ノ國ニ於テ與ヘタル判決モ
 亦我邦ニ於テ執行ヲ爲スノ要ナシ國際條約ヲ以テ彼レニ於テ爲ス
 所ハ我ニ於テモ亦之レヲナシ我ニ於テ盡ス所ハ彼レニ於テモ亦盡
 スヘキコトヲ約シタル場合ニ於テノミ之レカ執行ヲ命スヘシ其判
 決ヲ與ヘタル國ニ於テハ我邦ニ於テ與ヘタル判決ニ付キ執行ヲ爲
 サシムルコトナキキハ我邦ニ於テノミ獨リ彼レニ對シテ好意ヲ表
 シ其判決ニ保護ヲ與フヘキ理由アラサルナリ本項ニ於テ相互ヲ保
 セサルキハ執行判決ヲ求ムル訴ヲ却下スヘシト定メタルハ即チ此

ノ理由ニ基クモノナリ

以上説來ルカ如ク本條ハ五个ノ場合ヲ認メ外國裁判所ノ判決ニ付キ
執行判決ヲ求ムル者アルモ之レカ却下ヲ言渡ス可キ原由ト爲セリ故
ニ外國裁判所ニ於ケル判決ハ第一號ヨリ第五號ニ至ル場合ノ一ニ該
當スルキハ本邦ニ於テ執行スルヲ得ヘカラサルモノニア必ス却下セ
ラルヘキモノナリ前段ニ於テモ説明シタル如ク執行判決ニ於テ調査
ヲ爲スヘキ事項ハ其判決カ以上五个ノ一ニ該當スルヤ否ヤニアリテ
其他ハ一モ調査ヲ爲スコトヲ要セス而シテ裁判所ニ於テ果シテ以上
五个ノ一ニ該當スル判決ニアラサルコトヲ認メタルキハ其判定ノ適
法ナルコトヲ言渡シ以テ我カ邦ニ於ケル確定判決ト同一ノ効果ヲ有
スヘキコトヲ認ムヘク茲ニ至リテ外國裁判所ノ判決モ亦強制執行ヲ
爲シ得ヘキ一部トナルナリ

第五百十六條 強制執行ハ執行文ヲ付シタル判決ノ

正本ニ基キ之ヲ爲ス

執行力アル正本ハ第一審裁判所ノ書記又訴訟カ上
級裁判所ニ繫屬スルトキハ其裁判所ノ書記之ヲ附
與ス

執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲
スコトヲ得

〔義解〕(三五) 本條ハ強制執行ハ何レヲ根據トシテ之レヲ行フヘキモ
ノナルヤ且ツ其根據ト爲ルヘキモノヲ與フルハ何人ナルヤヲ定メタ
ルモノナリ法文ニ從ヘハ強制執行ハ判決ノ正本ニ基キ之レヲ爲スヘ
キモノト定メ其判決ノ正本ニハ執行文ヲ付シタルモノタルヲ要スル
コトト爲セリ故ニ強制執行ヲ行ハントスルニハ判決ノ正本タルコト

ヲ要スルモノニテ此ノ正本ニ執行文ノ付セラルルニ至リテ初メテ之
 レテ遂行シ得ヘキナリ其執行文ノコトハ次條ニ至リ明瞭ナルコトニ
 付キ茲ニ説明ヲ要セスト雖モ判決書ハ謄本ニテハ其効アラサルモノ
 ニテ必ス正本タルヲ要スルコトハ注意スヘキ事ナリ故ニ執行文ノ付
 セラル、モノアリト雖モ其判決書ニシテ正本ヲササルハ之ニ依
 リテ執行ヲ強ユルコト能ハサルハ勿論判決書ノ正本ト雖モ執行文ノ
 付セラレサルハ之レニ依リテ執行ヲ爲スコト能ハス二者相俟テ初
 テ執行力ヲ生スルニ至ルモノナリ

〔三六〕 已ニ說來ルカ如ク判決ノ正本ノミヲ以テスルモ執行文ノ付セ
 ラレサル場合ニ於テハ未ダ執行力ヲ生スルニ至ラス又其執行文ハ必
 ス判決ノ正本ニ付セラルルニアラサレハ効果ヲ生セサルモノナルヲ
 以テ此ノ二者具備スルニ至リ初メテ執行力アル正本ト名ツクルヲ得

ヘキナリ此ノ執行力アル正本即チ判決ノ正本ニ執行文ノ付セラレタ
 ルモノハ何人ニ於テ之レヲ作り且ツ之レヲ付與スヘキモノナルヤ第
 二項ハ正ニ此ノ疑問ニ答ヘタルモノナリ即チ一般ノ場合ニ於テハ此
 ノ正本ハ第一審裁判所ノ書記ニ於テ之レヲ作り且ツ付與スルヲ以テ
 原則トス然レニ時アリテハ其訴訟ノ全躰未ダ確定ニ至ラス其一分上
 級審ニ繫屬シテ不確定ノ内ニアリ或ル他ノ一分ノミ確定スルニ至ル
 モノアリ此ノ場合ニ於テハ第一審裁判所ハ事實上之レカ正本ヲ作ル
 能ハサル境界ニアルモノナルヲ以テ其現ニ繫屬セラル、裁判所ノ書
 記ヨリシテ之レヲ付與スヘキモノト定メテリ故ニ正本ヲ付與スルハ
 場合ニ依リテ相異ナルモノニテ原則ハ第一審裁判所ニ於テ之レヲ爲
 スモノナレド或ル場合ニ於テハ上級審ノ裁判所ヨリ之レヲ付與スル
 コトアルナリ

本條ノ末項ハ殊ニ説明ヲ要スヘキコトモナク唯此ノ執行文ノ付セラルタル正本ノ交付ヲ求ムルニハ別段書面ヲ以テスルニ及ハス唯口頭ノミニテ足レルコトヲ定メタルモノニテ(手)數ノ煩雜ヲ極ムル書面上ノ出願ヲナサシムルノ必要ナキカ故本條ニ附加シテ此ノ如ク規定シタルニ過キサルナリ

第五百十七條 執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ之ヲ附

記ス

其文式左ノ如シ

前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ強制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス

執行文ニハ裁判所書記署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押スヘシ

〔義解〕(三七) 本條ハ執行文ハ如何ナル書式ニシテ且ツ如何ナル方法ヲ以テ之レヲ與フルヤヲ規定シタルモノナリ即チ判決ノ正本ノ末尾ニ之レヲ附記スヘキモノニテ判決ハ原告若クハ被告ニ對シ此ノ如クナル可シトノコトヲ命スルモノナルカ故此ノ命令ニ一步ヲ進メ此ノ判決書ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ強制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之レヲ付與ストノ文言ヲ附記スルハ茲ニ執行文ノ躰ヲ整フルコト、ナルモノナリ且ツ此ノ執行文ニ裁判所書記署名捺印シ裁判所ノ印ヲ捺スルハ純然タル執行力アル正本トナルモノニテ此ノ正本ヲ以テスルハ強制執行ヲ果行シ得ヘキモノニテ債務者ハ之レカ爲メニ抑制セラレテ其執行ヲ遂ケラザルヲ得サルニ至ルモノナリ然レトモ若シ本條ノ規定ニ違反シタルトキハ債務者ニ於テハ之レカ執行ヲ拒ムコトヲ得ヘキナリ或ハ正本ノ末尾ニ執行文ノ附記アラ

サルカ執行文本條ノ規定ニ違フカ或ハ書記ノ署名捺印若クハ裁判所ノ押印等之ヲアラサル場合ニ於テハ此ノ判決書ハ強制シテ執行セシムヘキ効力ヲ生セサルモノナルヲ以テ債務者ハ違法ヲ理由トシテ抵抗スルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ

第五百十八條 執行力アル正本ハ判決ノ確定シタルトキ又ハ假執行ノ宣言アリタルトキニ限り之ヲ付與ス

判決ノ執行力其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立ツルコトニ繋ル場合ノ外他ノ條件ニ繋ル場合ニ於テハ債權者カ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シタルコトヲ證スルトキニ限り執行力アル正本ヲ付與スルコトヲ得

〔義解〕(三八) 本條ハ執行力アル正本ハ如何ナル場合ニ於テ付與セラ

ルヘキモノナルヤノコトヲ規定シタルモノナリ
執行力アル正本ヲ付與スルハ第一判決ノ確定ニ至リタル場合ヲ指シル可ラサルコト勿論ナリ蓋シ判決已ニ確定シ復々動ス可ラサルニ至リタルニ拘ハラズ敗訴者尙ホ之カ執行ヲナサハ止テ得ズ強制ノ執行ヲ命シ以テ權利者ノ正當ナル利益ヲ保護セサル可ラス故ニ判決ノ確定シタルハ非サレハ此ノ正本ヲ付與セサルヲ以テ原則トス然レモ法律ニ於テハ判決ノ確定ヲ待テス執行力アル正本ヲ附與スルコトヲ許シタル場合アリ假執行ノ宣言アリタル場合即チ是レナリ蓋シ假執行ノ宣言ヲ付スルハ第五百一條以下ニ於テ規定シタルカ如ク或ル特別ノ原由若クハ債權者ノ或ル所爲アルニ依リ裁判所ヨリ之ヲ命スルモノニシテ固ヨリ此ノ場合ハ其判決確定以前ニ係ルモ法律上之レカ執行ヲ果テサシメサル可ラサル理由アルヲ以テ此ノ方法ヲ

設ケタルモノナリ左レハ此ノ場合ニ於テハ一般ノ理論即チ判決ハ確定効ヲ生スルニ至ラサレハ之レカ執行ヲ強ユルコトヲ得ストノ原則ヨリ取除ケ例外トシテ是ヲ果タサシメサル可ラス此ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ付セラレタル場合ハ其判決確定以前ナルニ拘ハラズ確定判決ノ場合ト同シク執行力アル正本ヲ付與スルコトヲ得ルモノト爲セリ

〔三九〕 第二項ニ規定シタルハ判決ニ於テ其執行上ニ條件ヲ付シアル場合ヲ想像シタルモノナリ或ハ原告ニ於テ此ノ如キ行爲ヲ施シテ被告ヨリ何品ヲ受取ルヘシトカ或ハ原告ニ於テ物品ヲ引渡シテ被告ヨリ其代金ヲ受取ルヘシト云フカ如ク對手人ニ向ヒ求メントスル執行ノ目的ヲ付シ或ル條件ヲ履行スヘキ旨ヲ判決ニ於テ命ジタル場合ナリ此ノ場合ニ於テハ已ニ其條件ヲ履行シタル旨ヲ證明書ニ依リテ立證スルトキハ執行力アル正本ヲ付與スルヲ得ヘキモノト定メタリ蓋

シ此ノ場合ニ於テハ一方ノ執行ハ一方ノ條件ニ係ハルモノタルヲ以テ其條件ノ履行セラル、ニアラサレハ他ノ一方ニ於テモ執行ヲ爲スヘキ責之レアラサルモノナリ故ニ若シ強イテ其執行ヲ求メントスレハ必ス其條件ヲ充タサル可ラス而シテ其條件ヲ充タシタルヤ否ヤハ證明書ヲ以テ立證スルヲ要ス裁判所ハ乃チ之レカ證明ニ依リ果シテ一方ニ於テ其條件ノ履行ヲラレタルコトヲ認メタルハ執行力アル正本ヲ付與スルヲ得ヘキコトニテ他ノ一方ハ此ノ正本ニ依リ強制執行ヲ受ケサル可ラサルナリ本條ニ其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立ツルコトニ繫ル場合ノ外ト規定シタルモノハ若シ其條件ニシテ保證ヲ立ツルコトニ屬スルキハ多クハ執行ヲ求メントスル裁判所ニ向ヒ其手續ヲ履行セサル可ラサルコトナルヲ以テ別段ニ證明書ヲ提出セシム可キ要用ナク之レヲ立證シテ其命令ヲ求ムルキハ事足ルヘキカ故ナリ若

シ又他ノ裁判所ニ保證ヲ立ツルノ場合ヲ想像スルモ第五百二十九條第二項ニ規定スル如ク其保證ヲ立テタルコトニ付テノ公正ノ證書ヲ提出スルニ非サレハ執行ヲ始ムルコトナキヲ以テ豫メ執行力アル正本ヲ付與スルモ決シテ不都合ヲ生スルノ恐レアルコトナシ是レ保證ヲ立アル條件附ノ場合ヲ例外ニ置キタル所以ナリ此他ノ場合ニ於テハ其條件タル裁判所外ノ事ニ係ルヲ以テ之ヲ充テシタルコトヲ立證スルニアラサレハ裁判所ハ其ノ果シテ然ルヤ否ヤヲ知ルニ由ナシ故ニ必ス其實ヲ證明セシムルコトヲ要シタルナリ

第五百十九條 執行力アル正本ハ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲メ之ヲ付與シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ一般ノ承繼人ニ對シ之ヲ付與スルコトヲ得但其承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキ又

ハ證明書ヲ以テ之ヲ證スルトキニ限ル

此承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキハ之ヲ執行文

ニ記載ス可シ

〔義解〕(四〇) 本條ハ強制執行ヲ行フヘキ正本ノ効力ニ付キ更ニ一歩ヲ進メタルモノナリ即チ執行力アル正本ハ特リ債權者及ヒ債務者間ニ於テノミ其効力アルモノニアラス尙ホ債權者及ヒ債務者ノ承繼人ニモ其効力ヲ及ホスヘキモノナリ然レモ其効力ヲシテ承繼人ニ及ホサシメントスルニハ必ス其承繼人ヲ判決ニ表示シタル場合ヲ指サル可ラス苟モ然ラサランニハ執行ノ爲メ不當ノ苦痛ヲ生スル者アルニ至ル可シ本條ハ執行力アル正本ヲ作ルニ其承繼人ノ爲ニスルコトヲ得セシメ以テ執行ノ區域ニ餘地ヲ與ヘタルモノナリ承繼人トハ取リモ直サス債權者若クハ債務者ニ次キテ其地位ヲ占ムヘキ者ニテ之レ

ニハ特定ノ承繼人ト一般ノ承繼人トノ區別アリ特定ノ承繼人トハ買主讓受主ノ如ク一ノ行為ニ限り關係ヲ有スル者ニテ其行為ニ付テノミ先主ニ代ハリテ其地位ヲ充テスヘキ者ヲ云ヒ一般ノ承繼人トハ之レニ反シ凡テ先人ノ地位ヲ讓リ受ケ之レニ代ハリ得ヘキ者ニテ相續人ノ如キ者ヲ云フナリ爾リ執行力アル正本ヲ作ル場合ニ於テハ特リ債權者若クハ債務者ノミノ爲メニ之レヲ作り得ルニ止マラス尙ホ債權者ノ權利ヲ承ケ繼クヘキ者及ヒ債務者ノ義務ヲ承ケ繼クヘキ者ノ爲メニモ之レヲ爲スコトヲ得ヘキナリ然レモ此ノ事タル漠然タル者ニ向テ之レヲ命シ得ヘキコトニアラス裁判所ニ於テ其承繼人明白ナルカ若クハ請求者ヨリ證明書ヲ以テ明白ナルニ至ラシメタル場合ニ限ルヘキコトナリ故ニ若シ承繼人明白ナラサルニ於テハ固ヨリ此ノ如キコトヲ命シ得サルハ勿論ニシテ或

ハ曖昧ノ間ニ此ノ如キ行為ヲ了スルコトアラフニハ之レカ爲メニ生スル弊害實ニ云フ可カラサルニ至ラン故ニ本條ハ殊ニ慎重ヲ加フルノ意ヲ以テ承繼人ノ明白ヲ期シタルモノナリ而シテ承繼人裁判所ニ於テ明白ナルト即チ訴訟ノ上ニ於テ承繼人判然タル場合ニ於テハ其承繼人タルコトヲ執行文ヘ記載セサル可ラス法律ハ之レカ記載ヲ爲スヘキコトヲ命シタリ是レ其記載アルトハ更テニ複雑ノ手數ヲ要セスシテ事ヲ了リ得ルノ利便ヲ有シ別段之レカ爲メニ不都合ヲ生スルコトアラサルヲ以テナリ

第五百二十條 第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テハ執行力アル正本ハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得
裁判長ハ其命令前ニ書面文ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ

審訊スルコトヲ得

右命令ハ執行文ニ之ヲ記載ス可シ

〔義解〕(四一) 本條ハ前二條ニ規定シタル特別ノ場合ニ於テ執行力アル正本ヲ付與スルハ如何ナル方法ニ依ルヘキヤヲ定メタルモノナリ即チ判決ヲ或ル條件ニ繋ル場合ニ於ケル執行正本及ヒ承繼人ニ及ブ執行正本ハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ付與スルモノトナセリ是レ裁判長ニ於テ其條件ノ履行アリタルヤ其承繼ノ證アルヤヲ取調ヘ若シ其證ナキトキハ決シテ付與スヘキモノニアラサレハナリ蓋シ此種ノ執行正本ハ其關係ヲ及ホス所大ニシテ深ク慎重ヲ加フルニアラサレハ測ルヘカラサル弊害ヲ生スルニ至ルヘキカ故裁判長ノ責任ヲ以テ之ヲ付與セシムルコトト爲セシモノナリ

〔四二〕 此ノ如ク裁判長ノ地位ヲ重シシ其責任ヲ以テ右ニ説明シタル種類ノ執行正本ニ付テハ其命令アリタルトキニ限り之ヲ付與セシムヘキコトヲ定メタルハ一方ニ於テ裁判長ハ此ノ命令ヲ爲スニ付キ如何ナル處置ヲ施シ得ヘキヤヲ規定スルニアラサレハ當ニ此ノ命令ヲ爲スノ適否ヲ知り得ヘカラサルノミナラス或ハ時アリテ不法ノ命令ヲ傳フルカ如キコトナシト云フ可ラス是レ第二項ノ設ケアル所以ニシテ裁判長ハ本條第一項ノ命令ヲ爲サントスルニ必要ナル場合ニ於テハ或ハ書面ヲ以テ或ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルヲ得ルモノト定メタリ即チ之カ審訊ニ依リ債務者ニ反證アルヤ異議アルヤ否ヤヲ儘メ以テ適當ナル命令ヲ傳フルノ方法ヲ得セシメタルモノナリ末項ニ於テ此ノ命令ヲ執行文ニ記載スヘキコトト定メタルモノハ此ノ場合ニ於テハ其命令コソ執行ヲ爲サシムヘキ一要件トナルモノナルカ故果シテ其命令アリタルヤ否ヤ分明ナラサルハ債務者ハ之レ

ヲ異議スルヲ得ヘク債權者ハ先ツ命令アリタルコトヲ證明スヘキ責
任ヲ有スル者ナルヲ以テ之レヲ執行文ニ記載セシムルコトトナセシ
ハ最モ適當ノコトト云フ可シ

第五百二十一條 第五百十八條第二項及ヒ第五百十

九條ニ依リ必要ナル證明ヲナシ能ハサルトキハ債
權者ハ判決ニ基キ執行文ノ付與ニ付キ第一審ノ受
訴裁判所ニ訴ヲ起スコトヲ得

〔義解〕(四三) 本條ハ第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ト相伴フ
テ必要ナル規定ナリ已ニ説來ルカ如ク此ノ二个條ニ於テハ債權者カ
判決ノ執行ヲ求メントスルニ付テハ或ル條件ノ履行セラレタルコト
若クハ承繼人ナル或ル殊特ノ者ノ存在ヲ證明スヘキコトト定メタリ
故ニ若シ此ノ規定ニ依リ自己ノ利益ヲ保メント欲スル債權者ハ法律

ノ定メタル所ニ從ヒ證明ヲナサ、ル可ラス然ルニ若シ其事柄證明ヲ
爲ス能ハサル事項ニ屬シ證明ノ手段ナキトキハ之レヲ如何ニスヘキ
カ法律ニ於テハ此ノ如キ場合ヲ豫定スルニアラザレハ證明ノ途ヲ有
セサル債權者ヲシテ之レカ爲メニ利益ヲ失ハシメサル可ラサルニ至
ルヘシ是レ本條ノ設ケアル所以ニシテ本條ハ此ノ如ク證明ノ途ヲ有
セサル債權者ハ判定ニ基キ執行文ノ付與ニ付キ第一審ノ受訴裁判所
ニ訴ヲ起シ得ルモノト定メタリ故ニ若シ證明書ニ依リ之ヲ證明スル
ニ途ナキ場合ニ於テハ其執行文ノ付與ヲ受クヘキ理由アルコトヲ訴
ヘ出テ之レカ救済ヲ求ムルコトヲ得ルナリ已ニ此ノ訴ヲ以テ執行文
ノ付與ヲ受クヘキ理由ヲ陳辯シ其申立ヲ相當ト認メタルトニ於テハ
此ノ判定ハ證明書ト同一ノ効果ヲ生スヘキモノニテ且ツ最モ正確ノ
モノナル可キヲ以テ之レニ依リテ執行正本ノ付與ヲ求メ得ヘキナリ

而シテ其付與セラレタル執行文ハ他一般ノ場合ト同一ノ有様ヲ以テ執行セラルハニ至ルヘキナリ

第五百二十二條 執行文ノ付與ニ對シ債務者カ異議ヲ申立テタルトキハ其執行文ヲ付與シタル裁判所書記ノ屬スル裁判所之ヲ裁判ス

裁判長ハ其裁判前ニ假處分ヲ爲スコトヲ得殊ニ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キヲ命スルコトヲ得

〔義解〕(四四) 裁判所ヨリ命シタル執行ニ付キ債務者ニ於テ異議ヲ申立ツル場合ハ實ニ少シト爲サス或ハ第五百十八條第二項ノ場合ニ於テ條件ノ履行アリタル證ナシトカ或ハ第五百十九條ニ於テ必要トス

ル承繼ノ證ナシトカ其他執行文ヲ付與スヘカラサルニ之ヲ付與シタリトナシ異論ヲ唱フルコト實際上屢之ラフ固ヨリ執行ノ命令ニ於テモ時アリテハ粗雑不法ノコト之ヲナキテ保スヘカラサルカ故此ノ命令ヲ確定ノコトトシテ異議ヲ容レシメサルコトトナスヲ得ス已ニ然ルトキハ其執行文ノ付與ニ付キ異議ヲ生シタルトキノコトハ之ヲ法律上ニ於テ豫定シ置カサル可カラス即チ本條ニ於テ之レカ管轄及ヒ異論ヲ生シタル後ニ於ケル執行ノ方法ヲ規定シタル所以ナリ

本條ハ此ノ場合ニ於ケル管轄ハ其執行文ヲ付與シタル書記ノ屬スル裁判所ニ於テ管轄スヘキモノト定メタリ故ニ判定ノ全部確定スルニ至リ第一審裁判所ノ書記ヨリ執行文ヲ付與シタルキ其執行文ニ付キ異議ヲ生シタルキハ第一審裁判所ニ於テ之レカ裁判ヲナシ第二審以

上ノ上級審ニ其訴訟繫屬シテ判決ノ或ル部分ノミ確定スルニ至リタルニ於テ上級審ヨリ執行命令ヲ傳ヘタル場合ニハ該上級審ニ於テ之ヲ管轄スヘキコトナリ要スルニ此ノ訴ニ付テハ訴其物ヲ以テ管轄ヲ定メタルニアラスシテ訴ノ依テ基ク所ニ依リ即チ訴ヲ爲スヘキ場合ニ依リ其管轄ヲ定メタルモノナリ法律ニ於テ此ノ如ク定メタル所以ノモノハ執行ノ命令ヲ下シタル裁判所ハ其事實ノ調査ヲ爲スニ付キ他ノ裁判所ニ比シ便宜ヲ有スルモノ少ナシトセス且ツ其異議タル執行文ノ付與上ニ關ハルモノナルヲ以テ該裁判所ノ管轄ト爲スニ於テ敢テ不都合ヲ生スルモノ之レアラサルヘキヲ以テナリ

(四五) 前段ノ場合モ一面ヨリ之レヲ云ヘハ或ル命令セラレタル行爲ニ對シ抵抗スル所ノ異議ノ訴訟タルヲ以テ一般ノ規定ヨリ云フキハ之レカ爲メニ其命令ノ行爲ハ停止セラルヘキヲ以テ本則ト爲スヘキニ似タリ然レモ已ニ判決ノ上ニ於テ定マレルモノアリ之レニ對スル執行文付與ノ異議タルニ過キササルヲ以テ若シ之レカ爲メ必シモ執行ヲ停止スルコトナキトキハ却テ云フ可カラサルノ弊害ヲ生スヘキ恐レアリ故ニ執行ノ停止ヲ命セスト雖モ第二項ヲ以テ其裁判ヲ俟タヌ假處分ヲ爲シ得ヘキコトト爲シタリ而シテ其假處分中殊ニ債權者ニシテ保證ヲ立ツルトキハ強制執行ヲ續行セシムルヲ得ヘク又債務者ヲシテ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ停止セシムルヲ得ヘク或ハ又時トシテハ保證ヲ立テサルモ之レカ停止ヲ命スルヲ得ルコトトナセリ是等ハ皆其異議ニ對シ最モ重キヲ置キタル場合ニ於ケルノ處分ナリトス

第五百二十三條 債權者カ執行力アル正本ノ數通ヲ求メ又ハ前ニ付與シタル正本ヲ返還セスシテ更ニ

同一判決ノ正本ヲ求ムルトキハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得
裁判長ハ其命令ノ前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

相手方ヲ審訊セスシテ執行力アル正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ相手方ニ通知ス可シ

正本ノ數通ヲ附與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ明記ス可シ

〔義解〕(四六) 本條ハ數通ノ執行力アル正本ヲ付與ス可キ場合ヲ規定シタルモノナリ執行力アル正本ハ要スルニ依リテ義務ヲ果タサシメント欲スルモノニ外ナラサルカ故若シ債務者ノ財産數所ニ散

在スルカ又ハ債務者所々ニ轉動スルトキハ一通ノ正本ハ以テ義務執行ノ目的ヲ達シ易カラス故ニ或ハ甲地ニ於テ或ハ乙地ニ於テ之ヲ使用シテ其財産ニ對シテ處分ヲ求メ得ヘキ方法ヲ與ヘサル可ラス是レ數通ノ正本ヲ債權者ニ與フルノ法ヲ設ケタル所以ニシテ本條ニ之レカ規定ヲ爲シタルモノナリ而シテ數通ノ正本ヲ求ムルニハ二個ノ場合アリ即チ一ハ同時ニ數通ノ正本ノ付與ヲ請求スル場合ニシテ他ノ一ハ曾テ一ノ正本ヲ求メ之レカ付與ヲ受ケタル後其正本ヲ返還セスシテ更ラニ又一通ノ正本ヲ求メントスル場合ナリ即チ此二個ノ場合ハ其付與ヲ求ムル上ヨリ云ヘハ彼此ニ相異ナル状態アリト雖モ共ニ數通ノ正本ヲ求ムルモノニテ數通ヲ付與スル點ヨリ云ヘハ同一ナリ故ニ本條ニ於テハ同一ノ規定ヲ取リタルモノナリ
數通ノ正本ヲ付與スルハ債權者ニ於テ之レカ請求ヲ爲シタル場合ニ

限ルモノニテ債権者ヨリ數通ヲ要スヘキ事情ヲ具ヘテ之レヲ求メザルキニ於テ裁判長ハ之レヲ調査シ其請求ヲ相當ナリト爲スルハ之レヲ許スヘシ即チ裁判長ヨリ之レカ付與ヲ爲スヘキコトヲ命シタルトニ限リ付與スヘキモノナリ故ニ數通ノ正本ヲ付與スルニハ債権者ノ請求アリタルコト及ヒ裁判長ノ命令アリタルコトヲ要スルナリ固ヨリ必要ナクシテ數通ノ正本ヲ求ムルカ如キモノモ之レアラサルヘシト雖モ時トシテ數通ヲ付與シタルメ不都合ヲ生スルカ如キ憂ナシトセス故ニ數通ノ正本ヲ付與スルハ實際其必要ニ際スルニアラザルハ之ヲ許スヘキニアラス而シテ實際果シテ其必要アルヤ否ヤハ單ニ債権者ノ申述ノミヲ以テハ十分ニ知リ易カラサルカ故第二項ハ此ノ場合ニ於テ果シテ其必要ナルヤ否ヤヲ確カシメシメシカ爲メ裁判長ヲシテ債務者ヲ審訊スルコトヲ得セシメタルモノナリ故ニ裁判長ハ債

権者ノ請求ト債務者ノ答辯トヲ斟酌シテ果シテ之レヲ付與スヘキ必要アリト爲スルニ於テ之レカ付與ヲ命スヘキナリ

《四七》相手方トハ取りモ直サス債務者ノコトニシテ債務者ヲ審訊スルコトナク唯單ニ債権者ノ申立ノミニ依リ執行力アル正本ヲ付與スルコトハ裁判長ニ於テ審訊ノ必要ナシト認ムル場合ニ於テハ屢之レアルヘキコトナリ法律ハ必スシモ債務者ヲ審訊シタル上ニアラザルハ數通ノ正本ヲ付與シ得サルトノ規定ヲ取りタルニアラス故ニ若シ裁判長ニ於テ債権者ノ申立ヲ容レ數通ノ正本ヲ付與シ債務者タル相手方ハ毫モ之レヲ知ラサルカ如キコトアラソニハ債務者ニ於テ不意ノ執行ヲ受ケ之レカ爲メニ豫想スヘカラサル損害ヲ被ムル如キコトノ或ハ之レナシト云フヘカラサルヲ以テ法律ハ此ノ場合ヲ想定シ若シ債務者ヲ審訊スルコトナクシテ數通ノ正本ヲ付與シタルトキニハ

其ノ旨ヲ債務者タル相手方ニ通知スヘキコトト定メタリ是レ債務者
ハ其ノ數通ノ正本ニ對シ重大ナル關係ヲ有スル所ノモノナルヲ以テ
ナリ

〔四八〕末項ニ規定シタルモノハ同時ニ數通ノ正本ヲ付與シタルキ又
ハ已ニ正本ヲ付與シタル後ニ於テ更ラニ之レヲ付與シタルキ其旨ヲ
明記スヘシトノ規定ニシテ即チ同時ニ之ヲ付與スルキハ各正本ニ正
本幾通ヲ付與スル旨ヲ記シ又後日ニ至リ更ラニ付與スルキハ何月何
日ニ一通ノ正本ヲ付與シ更ラニ又此ノ正本ヲ付與スル旨ヲ記載セサ
ル可ラサルナリ是レ一ニハ正本ノ正確ヲ證スル爲メ又一ニハ他ノ正
本ニ依リ已ニ執行セラレタルニ拘ハラズ重テ執行ヲ爲スカ如キ不
都合ヲ避クシメンカ爲メナリ

第五百二十四條 執行力アル正本ノ付與前ニ判決ノ

原本ニ原告ノ爲メ若クハ被告ノ爲ニ之ヲ付與スル
旨且之ヲ付與スル日時ヲ記載ス可シ

〔義解〕〔四九〕本條ハ執行力アル正本ヲ付與スル場合ニ於テ裁判所ニ
於テ爲スヘキ事ノ規定ヲ爲シタルモノナリ即チ正本ヲ付與セントス
ルキハ其付與ノ前ニ於テ判決ノ原本ニ原告ノ爲メ若クハ被告ノ爲メ
正本ノ付與ヲ爲ス旨及ヒ之レカ付與ヲ爲スノ日時ヲ記載シ置クヘシ
トノコトナリ是レ亦正本ノ正確ヲ保ツヘキ一ノ方法ニシテ其付與セ
ラレタル正本ハ此判決ノ原本ニ徴スルキハ果シテ原告若クハ被告ノ
爲メ何月何日ニ付與セラレタルニ相違アラサルヤテ證明シ且亦他日
更ラニ正本ヲ求ムルモノアルニ際シ照査ノ便ニ供スルヲ得セシメン
カ爲メナリ

原告ノ爲メ若クハ被告ノ爲メトハ其執行ヲ請求スル者ニ就テ言テ直

テタルモノニテ即チ被告ニ於テ債務ヲ有シ之レニ向テ執行ヲ命スル
ルハ其執行正本ハ原告ノ爲メニ被告ニ對シ執行ヲ迫ルコトトナリ之
レニ反シタル場合ハ又之レカ反對ト爲ルナリ

第五百二十五條 執行力アル正本ノ効力ハ之ヲ付與

シタル裁判所ノ管轄内ニ止マラス總テ本邦ノ裁判

區域内ニ及フモノトス

〔義解〕(五〇) 本條ハ執行力アル正本ヲ行用シ得ヘキ區域上ノ効力ヲ
定メヨルモノナリ裁判所ノ構成上ニ於テ管轄ノ區域ハ已ニ一定シタ
ルモノアリテ各裁判所ハ其管轄内ノ事務ヲ扱フヘキモノト定マリ居
ルカ故若シ執行力アル正本ノ如キモ茲ニ別段ノ規定ヲ爲サ、ルルニ
於テハ管轄區域ノ制ニ從ヒ其管轄内ニ於テノミ効力アルモノトナサ
、ル可カラズ之レニ反シ其命令ニシテ管轄ノ制ニ關ハラズ全國ニ於

テ之レヲ施行スルヲ得ヘキモノトスルハ法律上ニ於テ別段ニ之レカ
明定ヲナシ管轄ノ制ニ拘ハラサルコトヲ規定セサルヘカラス苟モ然
ラサルルニハ其命令ヲ受クル者ニ於テ管轄違ヲ理由トシテ其命令ニ
抵抗スルニ至ルヘキナリ是ヲ以テ管轄ニ係ハラズ効力ヲ有セシムヘ
キ命令ニ付キテハ特ニ法律ノ規定ヲ要スルモノアリ本條ノ規定ハ即
チ此理由ニ出タルモノナリ

法文ニ於テ見ルカ如ク執行力アル正本ノ効力ハ特リ之レヲ付與シタ
ル裁判所ノ管轄區域内ニ止ルモノニアラスシテ本邦ノ裁判區域全部
ニ及フヘキモノナリ故ニ大阪裁判所ニ於テ下シタル判決ニ對スル執
行正本ハ單ニ大阪ニ於テノミ効力アルニアラスシテ東京ニ於テモ仙
臺ニ於テモ其効力ヲ有シ何レノ地ニ至ルモ之レニ基イテ執行ヲ迫ル
ヲ得ヘキモノナリ法律ニ於テ此ノ如ク規定シタルハ最も適當ノコト

ニテ凡テ判決ナルモノハ單ニ之レテ下シタル裁判所ノ管内ニ於テノミ効力アルモノニアラスシテ全國何レノ地ニ至ルモ其効力アルモノナルカ故從テ此ノ判決ノ効力ヲ實行セシムヘキ執行正本ニ於テモ之レト同一ノ區域ニ於テ効力ヲ有セサル可ラサルコト勿論ノコトナリ判決ハ全國ニ効力ヲ有スルモ其判決ノ執行ハ之レヲ命令シタル官廳ノ管轄内ニ止マラサル可ラスト云フカ如キ理由ハ萬々之レアル可ラサルコトナリトス即チ本條ハ此ノ如ク判決ノ結果ニ關スル執行正本ノ効力ヲシテ判決ト同シク全國ニ於テ効力ヲ有スルコト、定メタルモノナリ故ニ何地ノ裁判所ニ於テ付與シタル執行正本モ全國ヲ通シテ執行セラレ得ヘキモノアルコトヲ知ルヘキナリ

第五百二十六條 債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強制執行ヲ爲スモ完全ナル辨濟ヲ得ル能ハサ

ルトキハ數通ノ執行力アル正本ニ基キ數箇ノ地又ハ數箇ノ方法ニテ同時ニ強制執行ヲ爲ス權利ヲ有ス

〔義解〕(五一) 本條ハ數通ノ正本ヲ有スル場合ニ於テ數个所又ハ數个ノ方法ニテ同時ニ執行ヲ求メ得ヘキコトヲ規定シタルモノナリ。數通ノ正本ヲ要スル所以ハ畢竟一个ノ場所若クハ一ノ方法ヲ以テ債務者ニ迫ルモ執行ノ目的ヲ達シ易カラサルヘキ場合ニ於テ數个所ニ於テ若クハ數多ノ方法ヲ以テ執行ヲ求メシカ爲メ債權者ヨリ求ムル所ノモノニシテ本條ハ此ノ數通ノ正本ノ効果ヲ定メタルモノナリ。一个ノ場所又ハ一个ノ方法ニテ強制執行ヲ爲シ尙ホ完全ナル辨濟ヲ得ル能ハサルコトハ其執行シ得タル所ノモノ債務ノ額ヲ償フニ足ラサル場合ニシテ例之ハ東京ニ住居スル債務者ニ對シ執行ヲ迫リ其所

有ノ財産ニ付キ債權ヲ行フモ未タ債務ノ額ヲ充テスニ足ラスシテ一
 萬圓ノ負債ニ對シテ執行ニ依リ得タル所得ハ僅カニ三千圓ニモ上ラ
 サル如キモハ之レヲ以テ強制執行ニ依リ完全ナル辨濟ヲ得タルモノ
 ト爲スヲ得ス斯ノ如キ場合ニ於テ債務者ハ東京ノ外大阪長崎等ニ財
 産ヲ有スルモノアリトセンカ債權者ハ之レヲ追フテ執行ヲ求ムルヲ
 得ルコト、爲サ、ル可ラス而シテ之レカ執行ヲ數个所ニ求メントス
 ルモハ勢ヒ數通ノ執行力アル正本ヲ要スヘキコトナルカ故即チ此ノ
 場合ニ於テハ一通ノ正本ハ以テ東京ニテ執行ヲ追ルノ用ニ供シ他ノ
 正本ハ各大阪長崎等ニテノ執行ヲ追ルノ用ニ供スルヲ得ヘシ此ノ
 如クニシテ債權者始メテ非常ノ便益ヲ得且ツ債務者ノ奸策ニ因リ損
 害ヲ受クルカ如キコトヲ免カル、ヲ得ヘキナリ
 數个ノ方法トハ一ノ正本ニ依リテハ不動産ノ差押ヲ求メ他ノ正本ニ

依リテハ債務者ノ債權ノ差押ヲ求ムルカ如キヲ云フ蓋シ同一ノ場所
 ニ於テモ時トシテ債務ノ執行ヲ求ムルニ數多ノ方法手段ヲ併セ用ヒ
 サルヲ得サルヲアル可シ故ニ斯ル場合ニ於テハ債權者ハ數通ノ正本
 ニ基キ數箇ノ方法手段ニテ執行ヲ求ムルヲ得ヘキモノト爲シ之レ
 ニ非常ノ便益ヲ與ヘ以テ債務者ノ行爲ヨリスル不慮ノ損害ヲ避クル
 ヲ得セシメタルナリ

第五百二十七條 債權者ハ執行ヲ爲ス可キ地ヲ管轄
 スル區裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セ
 サルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判
 所ニ届出ツ可シ

〔義解〕(五二) 此法律ニ於テ裁判所ニ任カセタル執行々爲ノ處分又ハ
 其行爲ノ共力ハ執行ヲ爲ス可キ地又ハ之ヲ爲シタル地ヲ管轄スル區

裁判所ノ管轄ニ屬スルヲ例トス(第五百四十三條)左レハ執行ヲ要ムル債權者ニシテ此ノ執行裁判所タル區裁判所ノ所在地ニ住居若クハ事務所ヲ有スル場合ハ格別ナレモ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其地ニ假住所ヲ選定セシムルコトヲ要ス是レ種ホ受訴裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル原告若クハ被告ヲシテ其地ニ假住所ヲ選定セシムルヲ要スル(第五百四十三條)ト同一ニシテ執行ニ關シ執達吏ヨリ其債權者ニ送達若クハ通知ヲ爲ス可キ場合勘カラス執行裁判所ヨリ其債權者ヲ呼出スコトヲ要スル場合モ亦之レナシトセサレハナリ若シ此等ノ場合ニ於テ債權者遠方ニ住居スルモハ其送達通知等ノ爲メニ日時ヲ徒費シ爲メニ執行ノ落着ヲモ遲延ナラシムルニ至ルヤ必然ナリ是レ本條ノ規定アル所以ナリトス

第五百二十八條 強制執行ハ之ヲ求ムル者及ヒ之ヲ

受クル者ノ氏名ヲ判決又ハ之ニ附記スル執行文ニ表示シ且判決ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り之ヲ始ムルコトヲ得
判決ノ執行カ其旨趣ニ從ヒ債權者ノ證明ス可キ事實ノ到來ニ繫ルトキ又ハ判決ノ執行カ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ爲シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ承繼人ニ對シ爲ス可キトキハ執行ス可キ判決ノ外尙ホ之ニ附記スル執行文ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達スルコトヲ要ス
若シ證明書ニ依リ執行文ヲ付與シタルトキハ亦其證書ノ謄本ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達シ又ハ同時ニ送達スルコトヲ要ス

〔義解〕(五三) 本條ハ之レヲ三項ニ分チ第一ニハ一般ノ強制執行ヲ始ムヘキ前ニ要スル方式ヲ規定シ第二項第三項ニハ條件付若クハ或ル特段ノ強制執行ノ場合ニ於テ必要ナル方式ヲ規定シタリ

第一項ノ規定ニ依レハ強制執行ヲ始メントスルニハ必ス強制執行ヲ求ムル者及ヒ之レヲ受クル者即チ債權者債務者雙方ノ氏名ヲ判決文又ハ判決文ニ附記スヘキ執行文ニ表示ス可キコト(一)其判決ノ已ニ送達アリタルカ又ハ少クモ之レヲ執行セントスルニ臨ミ送達ヲ爲ス可キコト(二)此ノ二個ノ手續ヲ整ヘサル可ラス故ニ若シ判決ヲ送達セザリシ場合ニ於テハ執行ヲ強ユルコトヲ得ス又之レカ送達ヲナスモ其判決若クハ執行文ニ債權者及ヒ債務者ノ氏名ノ表示アラサルモ之レカ執行ヲ強ユル能ハサルナリ此ノ二個ノ手續ヲ履ミタル上ニアラサレハ執行吏ハ強制執行ニ着手スルコトヲ得ス假令ヒ執行ニ着手ス

ルモ債務者ハ其方式ノ不完全ナル執行ヲ強ヒラルヘキ謂ハレナキヲ以テ之レニ抵抗スルコトヲ得ヘキナリ

若シ本條ヲ以テ此ノ方式ヲ定メサルモハ債權者及ヒ債務者ヲ表示シタルモノナキ判決又ハ執行文ヲ以テ執行ヲ迫ラレ之レカ爲メ判決ノ上ニ確然指示セラレサル者債務者トシテ強制ノ執行ニ遭遇スルカ如キ又判決ノ上ニ確然指示セラレサル者債權者トシテ執行ヨリ生スル利益ヲ占メントスルカ如キコト生スルニ至ラソ是レ實ニ危険ヲ極ルモノニ非スヤ殊ニ第二ノ方式トシテ定メタル判決ノ送達ノ如キハ債務者ニ取リテハ最モ肝要ノモノニシテ債權者ハ之レニ依リテ義務ノ程度執行ノ區域ヲ知ルコトヲ得ヘキモ若シ其ノ之ヲ知ラサルニ乘シ仍ホ執行ヲ強ユルコトヲ許ストキハ最モ危険ヲ極ムルモノト云ハサル可ラス要スルニ此ノ二個ノ方式ハ執行ヲ始ムルニ於テハ甚ダ肝要

ノ規定ニシテ執行ノ正確ヲ保チ債權者債務者ノ正當ナル利益ヲ保ツ
ニ於テ欠ク可ラサル規定ナリトス

〔五四〕第二項ハ或ル特別ノ執行ニ關スル場合ヲ規定シタルモノナリ
即チ判決ヲ執行セントスルニ條件ノ付セラレタルモノアリテ此ノ如
キノ景狀ニ至リ此ノ義務ヲ履行スヘシト云フ判決トナリ居ルハ
債權者ハ其事實ノ到來シタルコトヲ證明シテ始メテ執行力アル正
本ヲ判決ヲ受クルコトヲ得ヘク(第五百十八條第二項)又其執行力アル正
本ヲ判決ニ表示シタル債權者若クハ債務者ノ承繼人ノ爲メ又ハ其承
繼人ニ對シ之レヲ付與スルニハ其承繼ノ裁判上明白ナルカ若クハ證
明アルコトヲ要ス(第五百十九條)而シテ此二ノ場合ニ於テハ裁判長ノ
命令ニ依リ執行力アル正本ヲ付與シ其命令ハ執行文ニ之レヲ記載ス
可キモノトス(第五百二十條)是レ第三十八號以下ニ於テ說示シタル所

ナリ左レハ此二ノ場合ニ於テハ特リ判決ノ送達ノミヲ以テ足レリト
セス判決ノ外更ニ其判決ニ附記アル執行文ヲモ送達セサル可ラス其
執行文ニ依リテ始メテ承繼人ハ恰モ執行ヲ求ムル者若クハ之レヲ受
クルモノト同一地位トナリタル乎又條件ノ果シテ到來シタル乎ヲ知
リ得ヘク是レ其ノ強制執行ヲ始メントスルノ前ニ執行文ヲモ送達ス
ヘシト定メタル所以ニシテ要スルニ權利ナキ者ニ利益ヲ得セシメ義
務ナキ者ニ損害ヲ與フル等ノ不都合ナカラシメンカ爲メナリ
第三項ニ於テハ證明書ニ依リ執行文ヲ付與スル場合ニハ其證明書ノ
謄本ヲモ送達スヘキコト、定メタリ是レ第五百十八條第二項及ヒ第
五百十九條但書末段ノ場合ニ於テハ證明書ナルモノハ取リモ直サス
強制執行命令ノ基礎タル材料ナルヲ以テ其證明書ノ謄本ヲ送達スル
ニ於テハ其命令ノ正當ナルコトヲ證シ債務者ヲシテ其判決ノ執行ニ

應セサル可ラサルコトヲ覺ラシムルノ利益アレハナリ

第五百二十九條 請求ノ主張カ或ル日時ノ到來ニ繫ルトキハ其日時ノ滿了後ニ限り強制執行ヲ始ムルコトヲ得

若シ執行カ債權者ヨリ保證ヲ立ツルコトニ繫ルトキハ債權者カ保證ヲ立テタルコトニ付テノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其謄本ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り其執行ヲ始ムルコトヲ得

〔義解〕(五五) 本條モ亦二个ノ規定ヲ爲シタルモノニア一ハ請求ノ主張カ或ル日時ノ到來ニ繫ル場合ニハ執行ニ付キ保證ヲ立ツルコトヲ要スル場合ニ於テ強制執行ハ如何ナル時期ニ至リ之ヲ始ムルコトヲ得ヘキ乎ノ事ヲ規定シタルモノナリ其請求ノ主張カ或ル日時ノ到

來ニ繫ルトハ其請求ニ係ル目的物ハ或ル日時ニ至リ始メテ求メ得ヘキモノナル場合ニシテ其日時前ニハ引渡スコトヲモ得ス又受取ルコトヲモ得サルモノナルキヲ想定シタルモノナリ此ノ場合ニ於テハ其時日即チ之ヲ求メ得ヘキ時日ニ至リ尙ホ義務ノ履行之ヲアテサル場合ニアラサレハ強制執行ヲ始ムルコトヲ得ス是レ當然ノ規定ニシテ固ヨリ法ノ規定ヲ俟テ知ルヘキコトニアラス例ヘハ十一月ニ至リ實ルヘキ收穫物ニ付キ爭テ生シ其所得ニ對シ判決アリタル場合ノ如キハ十一月ナル時日ノ到來スルモ尙ホ判決ノ旨ニ從ヒ執行セラレサルキニアラサレハ強制執行ヲ始メ得ヘキコトニアラス又義務ノ履行ニ付キ幾個ノ期日ヲ有スルキ即チ年賦金若クハ月賦金等ニ關スル判決ノ如キ其已ニ支拂期月ヲ經過シタルモノハ格別未ダ期月ニ達セサルモノニ付テハ其并セテ裁判ヲ受ケタルモノアリトスルモ支拂期

日到着スルニアラサレハ強制執行ヲ始ムルヲ得サルナリ所謂請求ノ主張ニシテ其日時ノ到來ニ繫ル場合ニ於テハ之レカ判決モ亦其日時ノ到來スルニ至リ義務ノ履行ヲ命スヘキコトヲラサル可ラス已ニ判決ニシテ或日時ノ到來ヲ俟テ義務ノ履行ヲ命スルモノナリトスレハ其日時満了セサル間ハ取りモ直サス債務者ハ之レカ履行ヲ強ヒラルヘキ責ナキモノナルカ故其日時満了セサルニ先テ強制執行ヲ受ク可キ謂ハレ之レアラサルナリ本條ハ此ノ如キ理由ヨリシテ此ノ事理明白ナル規定ヲ爲シタルモノナリ恰モ之レ未タ義務ヲ履行セシムヘキ條件ノ生セサルモノニ向テハ其條件ノ發生スルニ至ルマテハ強制執行ヲ施シ得ヘカラサルモノトスト云フト一般ナリ

(五六) 第五百三條第一號ニ規定シタルカ如ク債權者ハ保證ヲ立テ假執行ヲ求ムルヲ得ヘク其他裁判所ヨリ職權ヲ以テ保證ヲ立テシメ

テ執行ヲ爲サシムルコト、定メタル場合亦斷ナシトセス故ニ強制執行ハ時トシテ保證ヲ立ツルノ條件ニ依テ實施セラル、モノアルコトヲ知ラサル可ラス第二項ハ此ノ場合ニ於ケル規定ニシテ果シテ保證ノ立テラレタルヤ否ヤハ債權者ニ於テ證明ス可キ事項ニ屬スルカ故債權者ヨリシテ公正ノ證明書ヲ提出セサル可ラサルコト、定メタリ公正ノ證明書トハ即チ其保證ヲ立テタル區裁判所又ハ執行裁判所ヨリ付與シタル證明書ノコトニシテ第五百十三條第二項ニ云フ所ノモノ是ナリ債權者ハ乃チ此證明書ヲ領シ之ヲ提出セサル可ラサルナリ若シ此ノ如ク定ムルニアラサレハ果シテ保證ノ立テラレタルヤ否ヤ執行吏ニ於テハ之レヲ知リ易カラス從テ執行ヲ始ム可キ基礎ヲ定ムルコト能ハサル可シ而シテ已ニ公正ノ證明書ニ依リ保證ノ立テラレタルコトヲ證スルハ判決ハ茲ニ執行ヲ果タシ得ヘキ程度ニ熟シタ

ルコトヲ知ル可キモ其保證ノ立テラレタルコトハ特リ執行吏ニ於テ明白ナルノミヲ以テ十分ナリトスヘカラス此ノ保證ニ付キ直接ノ關係ヲ有ス可キ債務者ヲシテ其保證ノ存在ヲ知ラシメサル可ラス何トナレハ其保證ハ執行吏ノ爲メニ之レヲ立テシムルニアラスシテ其執行ヨリシテ或ハ危険ヲ生セントスルノ恐レテ有スル債務者ノ利益ヲ保テシメンカ爲メ之レヲ立テシムルモノタルヲ以テナリ故ニ保證ヲ立テタルコトノ公正ノ證明書ノ謄本ハ執行ヲ爲サントスルノ前若クハ執行ト同時ニ之レヲ債務者ニ送達ス可キモノト定メテリ若シ之レカ送達ヲ爲サ、ルニ於テハ其執行ハ保證ノ立テラル、ニ依テ始メテ行ハレ得ヘキノコトニ屬スルカ故債務者ハ其執行ヲ拒ムコトヲ得ヘク又執行吏ハ強制執行ヲ始ムルコト能ハサルヘキナリ債務者ハ單リ其謄本ノ送達ニ依リテ始メテ保證ノ立テラレタルヲ知リ得ヘキモノ

ニテ其謄本ノ送達アラサルハ債務者ノ地位ヨリ見レハ即チ保證ノ立テラレサルト異ナラス保證ノ立テラレサルホニハ執行ニ應スヘキ責任ヲ有セサルモノナルヲ以テナリ

第五百三十條 豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍屬

ニ對シテ爲ス強制執行ハ其上班司令官廳ニ通知シタル後ニ限り之ヲ始ムルコトヲ得
此官廳ハ債權者ノ求メニ因リ通知ノ受取證ヲ付與ス可シ

〔義解〕(五七) 本條ハ軍人軍屬ニ係ル強制執行ノ場合ニシテ軍人軍屬ハ一定ノ嚴肅ナル規律ノ下ニ服ス可キモノナルヲ以テ一般人ト同一ナル法規ヲ以テ制ス可ラサルモノアリ是レ軍人軍屬ヲ特別ニ保護スルノ意ニアラスレテ軍紀ヲ嚴整ニスルカ爲メニ必要ナルニ由ル若シ

之レテシテ一般人ト同シク普通ノ取扱ヒテ爲サントスルトキハ忽チ軍紀ト牴觸ヲ來タシ軍紀ノ嚴肅ヲ破ルニアラザレハ即チ法律ノ目的ヲ達スル能ハサルニ至ルヘキナリ故ニ凡テ軍人軍屬ノ身ニ逼迫スルコトニ付テハ特別ノ規定ヲ用ニルヲ常トス刑法ノ如キモ一般人ヲ支配スル普通刑法ノ存スルニ係ハラス特ニ陸海軍刑法ナルモノヲ設ケテ軍人軍屬ヲ支配スヘキコト、定メタルカ如キ又此法律ニ於テ軍人軍屬ニ對スル送達又ハ罰金ノ言渡及ヒ其執行ハ本人所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑托シテ爲スト定メタルカ如キ(第三百三十九條第二百九十四條)要スルニ規律嚴肅ナル一天地ヲ有スル軍人軍屬ニ對シ普通一般ノ規制ヲ用ニルコト能ハサルノ事情ニ出ルモノト云ハサル可ラス本條ノ規定モ亦此ノ必要ヨリ出タルモノニテ強制執行ノコトモ上班司令官應ニ通知シタル後ニ限リ之レヲ始メ得ヘキモノト定メタリ

然レモ軍人軍屬ニシテ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ現ニ嚴肅ナル紀律ノ下ニ居ル者ニ非スシテ一般人ト殆ト異ナル所ナシ故ニ本條ハ之レヲ取除カン爲メ特ニ豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル云云ノ注意ヲ爲シタリ

上班司令官應トハ現ニ強制執行ヲ受クントスル者ノ屬スル上班ノ司令部ニシテ何師團何旅團何鎮守府ト云フカ如キ凡テ其從屬スル上班ノ司令部ヲ稱スルモノナリ

第二項ニ於テ此ノ官廳ハ債權者ノ求メアル場合ニハ受取證ヲ付與ス可キモノト定メタルハ最モ適當ノ規定ニシテ若シ此ノ通知ノ有無ニ付キ異日紛雜ヲ生シタルモニハ債權者ハ果シテ通知ヲ爲シタルヤ否ヤハ其受取證ニ依テ之ヲ證明セサル可ラス即チ受取證ハ通知ノ事實ヲ證明ス可キ材料トシテ最モ必要ナルモノナルカ故ニ本項ヲ以テ官

應ハ債權者ノ請求ニ依リテ之レヲ付與セサル可ラサルコト、爲シ債權者ハ又本項ニ依リテ之レヲ求ムルヲ得ヘキコト、爲シタリ

第五百三十一條 強制執行ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキニ限り執達吏之ヲ實施ス

債權者ハ強制執行ヲ委任スル爲ニ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

裁判所書記ノ委任シタル執達吏ハ債權者ノ委任シタルモノト看做ス

〔義解〕(五八) 本條ハ強制執行ハ何人ニ於テ之レヲ實施ス可キモノナルヤノコト及ヒ執達吏委任ノコトニ關スル規定ナリ本條ニ於テハ強制執行ヲ實地ニ施行ス可キモノハ別段ノ規定ナキハニ限り執達吏ノ職務ト爲セリ故ニ強制執行ヲ行フ可キモノハ執達吏ニシテ一般ノ場合ニ於テ執達吏ハ此ノ職任ヲ帶フルモノナリトス

(五九) 強制執行ハ通例執達吏ノ職務ニ屬ス可キコトハ前段ニ依リ已ニ之レヲ知ルヲ得ヘシト雖モ猶ア其執達吏ハ何レノ場合ニ於テ其職務ヲ取扱フ可キモノナルヤ之レカ規定ヲ爲サ、ル可ラス本條ハ一面ニ於テハ執達吏ノ職務ヲ取扱フニ至ル順序ヲ知ラシメ他ノ一面ニ於テハ之レニ關スル便宜法ヲ規定シタルモノナリ先ツ本條ニ於テ執達吏之レヲ實施スト規定シタルハ債權者ハ執達吏ニ委任ス可ク執達吏ハ其委任ニ依テ職務ヲ取扱フ可キモノタルコトヲ知ル可シ抑、強制執行ナルモノハ要スルニ債權者ヨリ債務者ニ對シ義務ノ履行ヲ求ムル方法ニ外ナラサルカ故債權者ヨリシテ之レヲ求ムルノ方法ヲ盡サ、ル可ラス而シテ執達吏ニ委任シテ強制執行ヲ求ムルハ取リモ直サス債務ノ履行ヲ求ムル方法ニ外ナラサルヲ以テ之レヲ債權者直接ノ委任ニ於テ執達吏ハ此ノ職任ヲ帶フルモノナリトス

合ニ於テ執達吏ハ此ノ職任ヲ帶フルモノナリトス

(五九) 強制執行ハ通例執達吏ノ職務ニ屬ス可キコトハ前段ニ依リ已ニ之レヲ知ルヲ得ヘシト雖モ猶ア其執達吏ハ何レノ場合ニ於テ其職務ヲ取扱フ可キモノナルヤ之レカ規定ヲ爲サ、ル可ラス本條ハ一面ニ於テハ執達吏ノ職務ヲ取扱フニ至ル順序ヲ知ラシメ他ノ一面ニ於テハ之レニ關スル便宜法ヲ規定シタルモノナリ先ツ本條ニ於テ執達吏之レヲ實施スト規定シタルハ債權者ハ執達吏ニ委任ス可ク執達吏ハ其委任ニ依テ職務ヲ取扱フ可キモノタルコトヲ知ル可シ抑、強制執行ナルモノハ要スルニ債權者ヨリ債務者ニ對シ義務ノ履行ヲ求ムル方法ニ外ナラサルカ故債權者ヨリシテ之レヲ求ムルノ方法ヲ盡サ、ル可ラス而シテ執達吏ニ委任シテ強制執行ヲ求ムルハ取リモ直サス債務ノ履行ヲ求ムル方法ニ外ナラサルヲ以テ之レヲ債權者直接ノ委任ニ於テ執達吏ハ此ノ職任ヲ帶フルモノナリトス

任ニ出テシムルハ最モ適當ノ規定ト云フ可キナリ執達吏ハ其身分ヨ
 リ云ヘハ一ノ公吏ニ屬スレモ其職務取扱上ヨリ云ヘハ依頼人ノ求メ
 ニ應シ法律上ニ於テ定メタル手數料ヲ徴シテ事ニ從フコトナリ居ル
 カ故本條ノ此規定ハ執達吏ノ資格ニ伴フタル適當ノ規定ト云フ可キ
 ナリ而シテ本條ハ又同時ニ委任ニ付キ便法ヲ設ケ區裁判所書記ノ補
 助ヲ求ムルコトヲ得ルモノト定メタルハ法律ノ用意周密ナルヲ見ル
 ヘキ所ニシテ大ニ債權者ノ便益ヲ保護シタルモノナリ多クノ場合ニ
 於テ債權者ハ執達吏ノ選擇委任ノ方法等ニ熟セサルヘキカ故若シ此
 ノ如キ便益ノ法ヲ設ケテ之レヲ保護スルニアラザルハ甚々不便ヲ感
 スル者少ナカラサルヘシ而シテ之レカ便法ヲ供シタルカ爲メ毫モ不
 都合ヲ生スルコト之レアラサルヲ以テ此ノ如ク定メタルモノナリ
 裁判所書記ハ此ノ求メニ應シ執達吏委任ノ手續ヲ盡サ、ル可ラサル

コトハ第二項ノ結果ヨリ當然生スヘキ責任ナリ然レモ裁判所書記ノ
 委任シタルハ唯債權者ノ求メニ依リ之レカ便宜ヲ與ヘタルニ止ルモ
 ノニテ固ヨリ書記ノ職務トシテ之レヲ委任シタルモノニアラス凡テ
 ノ事直接ニ債權者ヨリ委任シタルト同一ノ支配ヲ受ケサルヘカラス
 故ニ法律ハ一方ニ於テハ債權者ニ對シ此ノ如キ便法ヲ與ヘタルニ係
 ハラス此ノ便法ニ依リ行ハレタル事ハ尙ホ直接ニ委任シタルト同一
 ニ看做ス可シトノコトヲ第三項ニ規定シ以テ裁判所書記ハ職務トシ
 テ之レヲ爲スモノニアラサルコトヲ明ラカニシタリ

第五百三十二條 執達吏ハ債權者ノ委任ニ因リテ爲

ス行爲及ヒ職務上ノ義務ノ違背ヨリシテ債權者其
 他ノ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタルトキハ第一
 ニ其責ニ任ス

〔義解〕(六〇) 本條ハ執達吏ノ責任ニ關スル規定ナリ執達吏ハ恰モ公證人ト同シク一ノ公吏ニシテ依頼者ノ依頼ニ應シテ事務ヲ執ルモノナリ故ニ若シ其職務執行上ニ於テ依頼者ニ損害ヲ加ヘタルキハ之レカ責任ナカルヘカラス若シ執達吏ニシテ法律上ニ於テ當然命セラレタル職務ヲ行ナヒ其結果ニ依リ損害ヲ生スルコトノ免カレサルキノ如キハ是レ法律ノ命令ニ服從シタルヨリスル取リモ直サス法律ノ結果ヨリスル損失ナルヲ以テ之レヲ執達吏其ノ者ニ對シ深ク責ムルヲ得ヘカラスト雖モ苟クモ然ラスシテ債權者ノ委任ニ違背シ或ハ職務上ノ規定ニ違背シ之カ爲メニ債權者ニ損害ヲ加ヘタルキハ決シテ其責ヲ辭スルコトヲ得サルモノナリ

本來執達吏ノ職務ハ執行ノ點ニ於テハ常ニ債權者ニ代ハリ債務者ノ財産ニ付キ直接ニ手ヲ下シ之レカ處分ヲ遂ク以テ債權者ノ利益ヲ保

ヲントスルニアルカ故若シ其執行處分ノ上ニ於テ債權者ノ委任以外ノ所作ヲ爲シ之レカ爲メニ債權者ノ不便益ヲ醸スニ至ルカ若クハ法律ノ規定スル所ニ至リ此ノ如キ不利益ヲ生シタルキハ實ニ法律ノ執達吏ヲ設ケタル所以ノ精神ニ反ス是レ本條ノ匡正法ヲ設ケ以テ其職務ヲ全フセシメントスル所以ナリ

〔六一〕 執達吏カ債權者ノ委任ニ違背シ若クハ職務上ノ義務ヲ盡サ、ルトキハ多クハ債權者ニ對シ損害ヲ加フルニ止マル可シト雖モ或ハ債權者ノ利益ヲ圖ルニ熱心ナルヨリ他ノ關係人殊ニ債務者ニ對シ損害ヲ加フルコト亦之レナシトセス此場合ニ於テモ執達吏ハ其責任ヲ免カル、コトヲ得ス何人ト雖モ其過失ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ之レヲ賠償ス可シト云ヘル法律ノ原則ノ支配ヲ受ク可キハ當然ナレハナリ

法文ニ依レハ執達吏ハ云々第一〇。ニ其責ニ任ストアリ若シ執達吏獨リ
 其實ニ任ス可キモノナランニハ此第一ニト云ヘル語全ク無用ノ言ナ
 リト云ハサル可ラス蓋シ立法者ノ意タル他ニ責任者アルモ先ツ執達
 吏ニ於テ賠償ノ責ヲ盡ス可シト云フニ在ルナラン果シテ然ラハ他ノ
 責任者ハ如何ナル者ナル乎思フニ執達吏ハ債權者ノ委任ニ依テ執行
 行爲ヲ實施スルモノナレハ其委任ヲ爲シタル債權者ハ取リモ直サス
 民事擔當人ナリト云ハサル可ラス左レハ執達吏カ債權者以外ノ關係
 人ニ損害ヲ加ヘタルルハ債權者及ヒ執達吏共ニ其責ニ任スヘキモ法
 律ハ先ツ執達吏ヲシテ其實ヲ盡サシメノコトヲ欲シ此第一〇。ニノ三字
 ヲ加ヘタルモノナル可シ。

**第五百三十三條 債權者執行力アル正本ヲ交付シテ
 強制執行ヲ委任シタルトキハ執達吏ハ特別ノ委任**

ヲ受ケサルトキト雖モ支拂其他ノ給付ヲ受取り其
 受取りタルモノニ付キ有効ニ受取ノ證書ヲ作り之
 ヲ交付シ且債務者ニ於テ其義務ヲ完全ニ盡シタル
 トキハ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付スルコトヲ
 得

〔義解〕(六二) 本條ハ執達吏ノ權限ニ關スル規定ニシテ執達吏ハ其職
 務トシテ如何ナル行爲マテハ之レヲ爲シ得ヘキモノナルヤヲ見ルヘ
 キ法文ナリ

債權者ヨリシテ執行力アル正本ヲ執達吏ニ交付シテ強制執行ヲ委任
 シタルキハ其執行ハ之レカ完結ニ至リ即チ義務ノ盡了ニ至リ始メテ
 其目的ヲ達ス可キモノナルヲ以テ其完結ニ至ルマテノ方法即チ義務
 ヲ盡了セシム可キ方法ハ擧クテ執達吏ニ委託シタルモノト見做サ、

ル可ラス若シ然ラサルキハ執行吏ハ執行上ニ於テ常ニ掣肘セラル、
 所アリテ十分ノ働ラキヲ以テ之ヲ遂行スル能ハサルニ至ル可キナ
 リ而シテ支拂其他ノ給付即チ凡テ債權者ノ收受スヘキモノニ付キ債
 權者ニ代ハリテ之レカ受取ヲ爲シ其受取證ヲ債權者ニ代ハリテ交付
 スルカ如キハ執行ノ上ニ於テ必ス來ル可キコトナリ故ニ此ノ如キハ
 寧ロ執行ヲ委任スルト云ヘル中ニ包容セラル可キモノニテ特別ニ之
 レカ委任ヲ爲スニ及ハサルナリ若シ特別ニ之レカ委任ヲ爲スニアラ
 サレハ執達吏ハ此ノ如キ所作ヲ爲ス能ハサルモノナリトスルキハ執
 達吏ナル者ハ殆ント其手ヲ伸ハスヘキ餘地ヲ有セス之レカ執行ヲ果
 タス能ハサルニ至リ終ルヘキナリ

〔六三〕第二段ニ示シタル且以下ノ規定モ其精神ハ前段ト同一ニ出テ
 タルモノニテ凡テ強制執行ナルモノハ其義務ノ盡了ヲ以テ目的ト爲

スモノナルカ故若シ強制執行ヲ果タシ債務者其義務ヲ完了シタルキ
 ノ如キハ執行力アル正本ハ最早其用ヲ爲ス所ナク一片ノ反古ト化セ
 サル可ラス恰モ借用證書ガ其借用物ノ返濟ニ依リテ其効力ヲ消散ス
 ルト同一ニ歸ス可キナリ故ニ債務者ハ義務ノ辨濟ヲ爲シタルトキニ
 於テ債權者ニ差入レタル證書ノ交付ヲ求メ得ルト同一ノ理由ヨリシ
 テ已ニ執行ヲ完了シタルトキハ強制執行ヲ命シタル正本ノ交付ヲ求
 メテ義務ノ根柢ヲ塗抹スルヲ得ヘキナリ即チ本條ノ第二段ハ一方ニ
 於テハ債務者ニ於テ執行力アル正本ノ交付ヲ求ム可キ場合ヲ豫想シ
 テ執達吏ノ權限トシテ別段ノ委任ナクシテ之レカ交付ヲ爲シ得ヘキ
 コトヲ明ラカニシタルモノナリ

第五百三十四條 執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持ス
 ルヲ以テ債務者及ヒ第三者ニ對シ強制執行及ヒ前

條ニ掲ケタル行爲ヲ實施スル權利ヲ有ス債權者ハ此等ノ者ニ對シ委任ノ欠缺又ハ制限ヲ主張スルコトヲ得ス

執達吏ハ其正本ヲ携帶シ關係人ノ求アルトキハ其資格ヲ證スル爲ニ之ヲ示ス可シ

〔義解〕(六四) 前條ハ債權者ナル依頼者ト執達吏トノ間ニ於ケル執達吏ノ權限ヲ規定シタルモノニテ本條ハ執達吏ニ於テ債權者ニ對シ行ヒ得ヘキ權利及ヒ債權者ト債務者間ノ關係ヲ規定シタルモノナリ本條ハ執達吏ハ單ニ執行力アル正本ヲ有スルノミニテ他ニ一ノ委任ヲシトスルモ債務者及ヒ第三者ニ對シテ強制執行ヲ爲シ及ヒ前條ノ行爲ヲ實施スルヲ得ヘキコトト爲セリ已ニ前條ニ於テ執達吏ハ特別ノ委任ナキモ債務者ノ支拂其他ノ給付ヲ受取リ得ヘシトノコトヲ規

定シタル上ハ此ノ如キ行爲ハ前條ノ結果トシテ債務者及ヒ第三者ニ對シ之ヲ行ナヒ得ヘキモノト爲サル可ラス而シテ執行力アル正本ノ効果即チ強制執行ヲ行フノコトハ特別ナル委任ノ證明ヲ用イヌシテ之ヲ爲シ得ヘキハ當然ノコトニテ執達吏ナル公職ヲ設ケタルノ意ハ必竟此ノ如キ行爲ヲ爲サシメシメカ爲メニ外ナラサルヲ以テ殊ニ委任ノ證明ヲ爲サシムヘキ必要ノ存スルモノ之ヲアラサルナリ然リ已ニ執達吏ニシテ執行力アル正本ヲ所持スル上ハ當然此ノ如キ職務ヲ行ナヒ得ヘキカ故債權者ハ他日ニ至リ債務者及ヒ第三者ニ對シテ此ノ如キ委任ハ之ヲ爲サ、リシト云フカ如キ此ノ點此ノ點マアヨリ外ハ委任セサリシト云フカ如キコトヲ主張シ以テ強制執行ノ結果若クハ前條ニ依リ執達吏ノ爲シタル結果ヲ異議スルヲ得ス是レ他ナシ已ニ執行力アル正本ヲ執達吏ニ托シタルモハ強制執行ノコト

及ヒ前條ノ行爲ハ共ニ執達吏ニ向テ債權者ヨリ當然委託シタルモノト見做スヲ以テナリ

第二項ハ執達吏ニ於テ強制執行ヲ爲サントスル場合ニ於テ果シテ之レカ委任テ債權者ヨリ受ケタル者ナルヤ否ヤヲ證明ス可キ方法ヲ規定シタルモノニテ其所謂ル資格トハ執達吏タルノ資格ニアラス債權者ノ委任ヲ受ケテ強制執行ヲ爲ス可キ任ニ在ル者ナルヤ否ヤノ資格ナリトス即チ此ノ資格ヲ證明スルニハ正本ヲ携帯シテ之レヲ示スヲ以テ足レリト爲スモノナリ固ヨリ執達吏タル身分ニ於テノ資格ノ如キハ他ノ法律規則ヲ以テ定メタルモノアル故本條ニ於テ之レカ規定ヲ爲ス可キ理由モナク殊ニ正本ヲ携帯スルノ一事ヲ以テ執達吏タルノ身分ハ證明セラレ得ヘキモノニアラサルヲ以テ本條ノ資格ナル文字ハ稍穩當ヲ欠クノ嫌ヒテ免カレサルナリ

關係人トハ取リモ直サス執行ノ實施ニ付キ關係ヲ有スル者ノ謂ヒニシテ債權者ハ勿論其他執行ノ爲メニ利害ヲ生ス可キ者ヲ云フ此ノ如キ者ニアリテハ不法ノ執行ヲ受ケサル爲メ或ハ回復ス可カラサル損害ヲ被ラサル爲メ執達吏カ果シテ適法ノ執行ヲ爲スヤ否ヤヲ了知スルノ必要アリ而シテ不適法ノ執行ニ付テハ之レヲ争フノ道ヲ有セサル可ラス第二項ノ規定ハ即チ之レカ用意ニ外ナラサルナリ

第五百三十五條 執達吏ハ債權者カ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本及ヒ受取ノ證ヲ之ニ交付シ又其義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ且受取ノ證ヲ債權者ニ交付ス可シ
債權者カ後ニ債權者ニ對シ受取ノ證ヲ求ムル權利

ハ前項ノ規定ニ因リテ妨ケラルルコト無シ

〔義解〕(六五) 本條モ亦執達吏カ債務者ニ對シ執行ヲ果タス場合ニ於ケル職務上ノ行爲及ヒ債務者ヨリ要求シ得ヘキ事項ヲ規定シタルモノナリ

第五百三十三條ノ下ニ於テ已ニ説明シタル如ク執達吏カ強制執行ヲ爲スノ目的ハ債權者ニ代ハリ債務者ニ對シ義務ヲ履行セシムルニ在ルカ故其義務ノ完了ヲ得タルトキハ之レカ目的ヲ達シタルモノト云フヘシ而シテ執行カアル正本ハ此ノ目的ヲ達センカ爲メノ具タルニ外ナラサルヲ以テ已ニ其目的ヲ達シタルキハ之レテ債權者ノ手裡ニ保存ス可キ要ナシ此ヲ以テ執達吏ヨリ直チニ債務者ニ交付スルヲ要ス且ツ義務ノ完了ヲ證スヘキ受取證モ亦并セテ之レテ交付セサルヘカラサルナリ

然レモ若シ義務全部ノ執行ヲ了リタルニアラスシテ只其一分ヲ盡クシタルニ止マリ他ノ部分ノ義務ハ依然存在スル場合ニ於テハ執行カアル正本ヲ交付シ得ヘキニアラス何トナレハ執行カアル正本ハ義務ノ一分ノ履行セラレタル爲メ其効ヲ失フモノニアラスシテ義務全部ノ執行セラレタルニアラサル上ハ全然實効ヲ有シ強制力ヲ有スルモノニシテ債權者ハ義務ノ一分ノ履行セラレタル爲メ其正本ヲ交付スヘキ理由ナク又其正本ノ効ヲ左右セラルヘキモノニアラサレハナリ然レモ其正本ヲシテ依然舊態ヲ保テシムルキハ之レテ債權者ノ位置ヨリ云ヘハ甚タ危険ノモノト云ハサル可ラス何トナレハ執行カアル正本ハ直チニ其判決全部ノ執行ヲ強制シ得ヘキモノタルカ故已ニ其一分ノ義務ヲ履行シタルニ係ラス依然債權者ノ手ニ之レテ委スルキハ異日再ヒ全部ノ義務ニ迫ラル、カ如キ要ナシト云フ可ラサルヲ以

ナナリ此ヲ以テ本條ハ受取證ヲ債務者ニ交付スルノ外義務ノ一分ヲ履行セラレタルコトヲ執行力アル正本ニ記入セシムヘキモノト定メ之レヲ執達吏ノ職務中ニ數ヘタリ

第二項ハ債權者ニ對シ債務者ヨリシテ直接ニ關係ス可キコトヲ規定シタルモノナリ蓋シ債務者ニ於テ其義務ヲ完了シ若クハ義務ノ一分ヲ履行シタル場合ニ於テハ特リ執達吏ヨリスル受取證ヲ以テ足レリト爲サズ更ラニ債權者ヨリシテ適當ノ受取證ヲ求メ之レニ依ツテ義務盡了ノ證ヲ保タント欲スル者モ之レアル可シ凡テ一般ノ場合ニ於テハ債權者ハ其已ニ受取リタル義務ニ付テハ受取證ヲ出ス可キ責アルモノニテ債務者ハ之レヲ請求ス可キ權利ヲ有スルモノナリ是レ義務ノ盡了ト共ニ生ス可キ債務者ノ請求權ニシテ若シ債務者ニ於テ此ノ權利ヲ有スルニアラサレハ債務者ハ義務ヲ盡シツ、モ尙ホ之レヲ

免カレ、能ハサルニ至ル可キ恐レアルヲ以テナリ本條ハ乃チ執達吏ヨリ已ニ受取證ヲ交付シタルモノアルモ債務者ハ更ニ債權者ニ係リ受取證ヲ求メ得ヘキコト、爲シタリ是レ債權ノ根源ニ遡リ債務ノ消散ヲ認メシムルノ法ニシテ之レヲ債務者ノ地位ヨリ云フキハ甚ク貴重ナル規定ト云ハサル可ラサルナリ

第五百三十六條 執達吏ハ執行ノ爲メ必要ナル場合

ニ於テハ債務者ノ住居倉庫及ヒ筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉及ヒ筐匣ヲ開カシムル權利ヲ有ス
抵抗ヲ受クル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用ヒ且警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得若シ兵力ヲ要スルトキハ之ヲ執行裁判所ニ申立ツ可シ

〔義解〕(六六) 本條ハ執達吏ノ職務ヲ行フ上ニ於テ有スル權力ヲ定メ

タルモノナリ蓋シ執達吏ニ於テ執行ヲ遂ケントスルニハ尋常一様ナル穩和ノ處置ノミヲ以テ其目的ヲ達シ得ヘキモノニアラス已ニ普通ノ示談ニ於テ義務ヲ盡サス出訴ヲ爲シ裁判ヲ受ク尙ホ且ツ之レヲ盡サ、ルニヨリ強制執行ヲ爲スニ至ルモノナルヲ以テ執達吏ヨリシテ執行ヲ求ムル場合ニハ債務者平和ニ其要求ニ應セサルヲ以テ寧ロ普通ノエトト云フヲ得ヘシ此ノ如ク一方ニハ執行ヲ遂ケシメントスルノ目的ヲ以テ執達吏ニ依頼シタル者アルニ一方ニ於テハ頑然之レニ應セサルハ其兩者ハ遂ニ衝突ヲ來スヲ免カレス左レハ法律上一種ノ威力ヲ認メ執達吏ヲシテ之レヲ行用スルヲ得セシムルニアラサレハ竟ニ其目的ヲ達スルコト能ハサルヤ明白ナリ乃チ本條ハ執達吏ノ使用ス可キ威力ヲ認メ所謂ル強制シテ執行セシムヘキ道ヲ開キタルモノナリ

執行ノ爲メ必要ナル場合トハ債務者ニ於テ判決ノ旨ニ從ヒ其義務ヲ盡了セサルノミナラス或ハ財産ヲ藏匿シ以テ義務ノ履行ヲ免カントスルヨリ之レニ迫リテ目的ヲ貫カントスル場合ニシテ換言スレハ眞誠ノ強制執行ヲ要スル場合ナリ故ニ本條ハ一面ヨリ之レヲ云フハ恰モ強制執行ニ付テハ如何ナルコトマテ之レヲ爲シ得ヘキモノナルヤヲ説明シタルニ異ナラサルナリ

住居倉庫及ヒ筐匣ヲ搜索スルカ如キハ債務者ノ財産ハ此等ノ物ニ藏匿セラル可キカ故其財産ニ就テ執行ヲ遂ケントスルニハ勢ヒ之レニ及ハサル可ラス蓋シ住居ハ人ノ城廓ニシテ何人ト雖モ之レヲ尊重セサル可ラサルハ勿論ノコトナレド已ニ義務ノ存在スルコト確定シ債權者ニ損害ヲ與ヘ居ルコト明ラカナル場合ニ於テモ尙ホ此ノ私權ヲ尊重シ住居ニ就テ強制ノ處置ヲ施シ得サルコトト爲スルハ善良ナル

債權者常ニ之レカ爲メニ害ヲ蒙リ不貞ノ債務者ヲシテ不正ニ其責ヲ免カレシムルニ至ル可ク且ツ已ニ判決確定ニ歸シ尙ホ執行ヲ爲サルハ債務者ノ不法タルコト推測セラレ得ヘキコトナルヲ以テ一般ノ場合ヨリ云フモ決シテ此ノ場合ニ住居ノ搜索ヲ爲サシムルヲ以テ不適當ノコト、ナス可カラサルナリ倉庫若クハ筐匣ハ住居ニ一步ヲ進メタルモノニテ債務者ヨリ云フキハ最モ貴重ナル物タル可キモ住居ヲ索セシムルノ意ヲ全フセンニハ勢ヒ之レニ就テモ同一ノ權力ヲ認ムルニアラサレハ其効果ヲ收メ得ヘカラサルカ故之レカ搜索ヲモ爲スコトヲ許シタルモノナリ

又ハ以下ハ法律ノ用意ヲ慎重ニシタル所ニシテ單ニ搜索ノ權利ノミヲ認ムルニ止ルルハ之レヲ搜索シ得ヘカラサル地位ニアルキ即チ閉鎖ヲ用イアル場合ニ於テハ遂ニ手ヲ下ス可キ餘地ヲ有セス之レカ爲メニ執行ノ目的ヲ達シ得ヘカラサルニ至ルヲ以テ閉鎖ヲ用イアルキニハ債務者ヲシテ強ヒテ之ヲ開カシメ若シ肯セサルキハ執達吏自カラ之レヲ開キ又適當トスルニ於テハ職工ヲシテ之ヲ開カシムルコトヲ得ルナリ而シテ之ヲ開キタル上ニ於テ搜索ヲ爲シ其財物ヲ調査スヘキハ勿論ナリ多クノ場合ニ於テ強制執行ハ茲ニ規定シタル權利ヲ使用スルニアラサレハ其目的ヲ果タシ得サルコトナル可ク執達吏ハ常ニ執行力アル正本ヲ携フルニ於テハ此ノ權利ヲ行用スルヲ覺悟セサル可ラサルナリ

《六七》債務者ニ於テハ債權者ヨリ催迫ヲ受テ裁判ヲ受テ其判決確定ニ至ルモ尙ホ且ツ義務ヲ果タサ、ルモノト爲スルハ強制執行ヲ受ク可キ地位ニ在ル者ハ頑硬ニシテ裁判ノ威嚴ヲ蔑如スル者ト見做サ、ル可ラズ然ラストスルモ執達吏ニ於テ職務ヲ執行セシカ爲メ進

テ事ヲ執ル場合ニ於テハ或ハ之レニ抵抗シテ執行ノ目的ヲ遮ラントスル者ナキヲ保ツ可ラス若シ此ノ如キ場合ニ於テ公力ヲ認メ置クニアラサレハ執達吏ハ強制執行ノ多クノ場合ニ於テ或ハ其目的ヲ全フシ能ハスシテ終ル可キナリ第二項ハ乃チ執達吏ノ此ノ場合ニ於テ公力ヲ使用シ得ヘキコトヲ定メタルモノナリ

抵抗ヲ受クル場合ニ於テ本條ニ依リ執達吏ノ使用シ得ヘキ威力ハ即チ一ノ公力ニシテ若シ債務者ニ於テ執達吏ノ爲サントスル所ヲ遮リ其目的ヲ妨ケントスルニ臨ンテハ執達吏ハ威力ヲ以テ之レヲ壓倒シ其目的ヲ貫クコトヲ得ヘキナリ此ノ威力タル法律上ニ認メサル所爲ヨリシテ起ルルハ即チ一ノ暴力ト爲リ其結果ハ暴行ト爲リ終ル可キモノナレド法律上當然之レヲ使用シ得ヘキコトヲ認メ法律ノ命スル所ニ從テ之レヲ爲スルハ純然タル正當ノ公力ニシテ公力ノ支配ヲ以

テ抵抗者ヲ壓倒スルヲ得ヘキコトト爲ルナリ然レド執達吏ノ力能ク抵抗ニ堪ヘ得サル場合ニ於テハ復タ奈何トモスルコト能ハサルカ故警察上ノ援助ヲ求メ得ルコトト定メ警察權ノ補助ヲ得テ其目的ヲ果ダスヲ得ヘキモノト爲セリ而シテ今一步ヲ進ムルハ兵力ノ使用ニシテ警察ノ力以テ之レヲ制スルニ足ラスト爲シ之レカ補助ヲ以テスルモ執行ノ目的ヲ果ダシ能ハサル場合例之ハ黨與ヲ集メテ割據シ執行吏ノ命スル處ニ抵抗スルカ如キ者之レアリトスレハ勢ヒ兵力ヲ借ラサル可ラス之レヲ使用スルハ甚タ莊重ノコトナルヲ以テ尋常警察力ノ使用ト同一ニ見ル能ハサルモノアリ故ニ兵力ヲ要スルモノト思料スルルハ執行裁判所ニ申立テ爲シ其裁判所ニ於テ之レヲ至當ナリトスルルハ軍衝ニ其要求ヲ爲ス可キモノトス即チ事ノ大小ニ依リ或ハ執達吏自カラ威力ヲ使用シ或ハ警察力或ハ兵力ヲ使用スルニ至ルマ

凡テ公力ノ作用ニ依リテ債務者ヲ強制スルノ方法ニシテ此等公力ヲ使用シ其義務ヲ執行セシメ得ルモノ之ヲ強制執行ノ眞面目ト爲スナリ

第五百三十七條 執達吏ハ執行行爲ヲ爲スニ際シ抵

抗ヲ受クルトキ又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行爲

ヲ爲スニ際シ債務者又ハ成長シタル其家族若クハ

雇人ニ出會ハサルトキハ成丁者二人又ハ市町村若

クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシム可シ

〔義解〕(六八) 本條ハ執達吏カ執行行爲ヲ爲サントスル場合ニ於テ公力ノ使用ヲ爲サ、ル可カラサルキ及ヒ債務者ノ住所ニ於テ執行行爲ヲ爲ス可キキテ想像シ其ノ當サニ履ム可キ手續ヲ規定シタルモノナリ

夫レ執達吏ナル者ハ一ノ公吏ニシテ公力ヲ帶ヒテ執行行爲ヲ爲スモノタルコトハ以上已ニ屢説明シタルトコロナリ故ニ其職掌上ノ事ヲ行フニ就テハ法律ハ厚ク之ヲ信任スル所ナカルヘカラス然レモ亦他ノ一面ヨリ之ヲ云フキハ其職務ハ單ニ債務者ノ財産權上ニ就テ強威ノ力ヲ加ヘ得セシメタルモノニテ其身體上ニ及フ可キ威力ノ如キハ偶マ不得止ニ生スル所ノ結果タルニ外ナラス此ヲ以テ執達吏ノ眞面目トシテハ此ノ如キ行爲ヲ爲シ得ヘキモノトハ云フ可ラサルナリ已ニ身體上ニ及フヘキ威力ノ使用ヲ以テ不得止ニ出テシメタルモノナリトスレハ此ノ行爲ニ付キ法律上ニ於テ或ル條件ヲ附シテ之ヲ使用セシム可キモノト爲スハ最も適當ノ規定ト云ハサル可ラス其ノ債務者ノ住居ヲ侵スニ付テ法律上條件ヲ附スルモ亦實ニ允當ノコトナリトス

執達吏カ執行行爲ヲ爲ス場合ニ於テ債務者之レニ抵抗スルルハ公力ヲ用ユルコトヲ許スモ果シテ抵抗ヲ受ケタル乎公力ヲ用ユルノ不得止ニ至リタル乎ハ事實上ノ問題ニシテ片言以テ之ヲ斷ス可キニアラス故ニ適當ノ立會人アリテ之ヲ證スルコトヲ要スルナリ又債務者ノ住居ニ於テ執行行爲ヲ施ス場合ニ於テ債務者若クハ其家族雇人ニシテ成年以上ノ者一人モ居合ハセサルルハ亦立會人アルトトテ要ス固ヨリ執達吏ハ一ノ公吏トシテ其身分ニ重キヲ置キ法律上厚ク信認スル所ノ者タルニハ相違ナキモ其ノ施シ得ヘキ行爲ハ或ハ鎖鑰ヲ解クカ如キ或ハ扉ヲ解放スルカ如キ又或ハ倉庫篋匣ヲ搜索スルカ如キ之レヲ有形上ヨリ云フキハ極度ニ涉リテ私權ヲ侵スモノアリ債カニ公力ナル光線ノ爲メニ私權ノ侵犯ト爲ラスシテ適法ノ行爲ト云ヒ得ヘキモノナルヲ以テ債務者ニシテ此ノ強制執行ニ立會テ場合ニ於

テハ法律上其立會アルノ故ヲ以テ此ノ行爲ヲ認ムルコトヲ得ヘキモ若シ債務者ニシテ之レニ立會フコトヲ得サルカ或ハ少ナクモ其家族若クハ雇人ノ生長シタル者ノ立會モ之レアラサルル語ヲ換ヘテ云ヘハ執達吏ノミニテ執行ヲ爲テ果スルニ於テハ債務者ヨリ之レヲ見ルハ甚々危険ノモノト云ハサル可ラス假令ヒ法律上ノ保證ハ之レアルニモセヨ百年ヲ經テ變セサル硬心ハ認メ得ラル可キモノニアラス若シ執達吏ノ行爲ヲ信任スルコト厚ク決シテ其間ニ不都合ノ行爲ヲ施スモノ之レアラスト斷定センニハ時アリテ債務者ノ不法ヲ蒙ルルモノ之レナシト云フ可ラス或ハ又其行爲ニ付キ債務者ヨリ責メント欲スル所ノモノ之レアリトスルモ舉證ノ手段ニ乏シク遂ニ其目的ヲ達シ得ヘキ處ニ之レアラサル可ク常ニ債務者ヲシテ不平ノ口實ヲ絶ツ能ハサラシメ從テ信用上ニモ關係スル處少ナカラサルニ至ル可シ故

ニ此ノ場合ニ於テ執行々爲テ施サントスルニモ亦立會人アルコトヲ要シタルナリ

本條ニ成長シタル其家族若クハ雇人トアル成長シタルト云ヘル文字ハ如何ナル意義ヲ有スルモノナルヤ一考ヲ要スル處ナル可シ成ハ之レヲ以テ丁年以上ノ者ト説カントスル者モ之レアラソ然レモ若シ法律ノ意果シテ丁年以上ノ者ヲ要スルコトナリセハ他多クノ場合ニ於テ成丁者ナル文字ヲ用イタルニ關ハラス何ソ特更ラニ本條ニ限リ成長シタルト云フ文字ヲ用ユヘキ理アラソヤ殊ニ出會ハサルキハ成丁者二人ト同一法文ノ上ニ於テ記シタル處ヨリ見ルモ茲ニ成長シタルト定メタル文字ハ成丁者ニ限リタルニアラサルコト推シテ知ル可キナリ然ラハ如何ニ之レヲ解釋シテ可ナランカ蓋シ之レニ付テハ法律上別段嚴格ノ區別ヲ爲サシム可キ義ニアラス普通ノ知覺ヲ具ヘ是非

善惡ノ辨別ヲ有スル者語ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ世間並ミノ一人トナリシ者ヲ云フナリ故ニ強チ成丁者ニ限ルニアラス或ハ成丁ニ至ラザレハ成長シタルトノ範圍ニ入ラサル者モ之レアルヘク或ハ年齢尙ホ若クシテ成長ト看做サレ得ヘキ者モ之レアルヘク其成長ト否トハ人々ニ就テ區別セラル可キモノニア法律上ニ於テ一定シタルモノニ之レアラサルナリ

〔六九〕前段説明レタル如ク執達吏抵抗ヲ受クルカ又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行々爲テ爲ス場合ニ於テハ法律上一ノ條件ヲ設ケ本條末段ニ規定アル成丁者二人又ハ市町村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシムルコトヲ要シ而シテ其立會アルキニ於テハ何等ノ故障アルニ係ハラス執行ヲ果テシ得ヘキモノト爲セリ其成丁者ニ對テハ何人ヲ以テスルモ隨意ニシテ執達吏ノ請求ニ應スル丁年以上ノ者ニ

人之レニ立會ヒタルハ執達吏ハ其執行ヲ爲シ得ヘク若シ町村吏員又ハ警察官吏ナルハ一人ノ立會ニテ之レヲ爲シ得ヘキナリ是レ常人ト官吏公吏トノ間ニ設ケタル區別ニシテ常人ニ在テハ一人ノ立會ニテハ不十分ナリトシテ必ス二人ノ立會ヲ要シ官吏公吏ハ其身分ニ於テ已ニ信用ヲ有スル者ナルヲ以テ一人ニテ足レルコトト爲セシニ過キサルナリ法律ニ於テハ成丁者二人若クハ吏員一人ト爲シ必ス二人若クハ一人ニ限ルカ如ク見ユレ此ノ法律ハ普通ノ成丁者ナレハ必ス二人ヲ要シ又吏員ナレハ一人ニテ足ルコトヲ言ヒ現ハシタルニ止ルモノニテ成丁者三人以上若クハ吏員二人以上之レアルハ決シテ之カ爲メニ法律ノ規定ニ違フモノニ非ラズ何トナレハ此ノ證人タルヤ債務者ノ利益ヲ保護セシメシカ爲メ執達吏ノ爲ス所ヲ其見聞スル所ニ付キ證人ヲラシム可キ者ナルヲ以テ其ノ頭數多クレハ多キニ從

テ債務者ノ利益ハ保護セラルトコトナルヲ以テ之レニ超ヘタル證人ノ立會アリシカ爲メ不法ト云フヲ得サルヘキナリ然レモ法律ハ一般ノ場合ニ於テ此ノ定數ヲ以テ十分ナリト認メ此ノ如ク之レカ員數ノ規定ヲ爲シタルカ故執達吏ハ之レニ超ヘタル證人ヲ立會ハシムルカ如キ場合之レアラサル可ク若シ漫ニ多數ノ證人ヲ立會ハシメ之レカ爲メニ費用ヲ生スルカ如キコト之レアルニ至テハ執達吏ニ於テ其責ニ任セサル可ラサルナリ即チ本條ノ制限ニ超ヘタル結果ハ此ノ如キニ止リ其執行々爲テ不法ト爲スニ至ル可キモノニアラサルナリ之レニ反シ若シ執達吏ニシテ前段ニ説明シタル如キ場合ニ臨ミ吏員ノ立會ヲ求ムルコトナク若クハ僅カニ一人ノ成丁者ヲ立會ハシメ強制執行ヲ果タシタルキ之レカ爲メ債務者ニ損害ヲ加フルニ於テハ其損害ノ責ヲ辭ス可ラサルハ勿論其執行ノ手續キ不法ニ涉ルヲ以テ債務者

ハ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ(第五百四十四條
參看)

第五百三十八條 強制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有ス
ル各人ニハ其求ニ因リ執達吏ノ記録ノ閲覽ヲ許シ
及ヒ記録中ニ存スル書類ノ謄本ヲ付與スルコトヲ
要ス

[義解](七〇) 本條ハ強制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ執達吏
ノ書類ヲ閲覽セシメ若クハ謄本ヲ付與スヘキコトノ規定ナリ
強制執行ニ付キ利害ノ關係アル各人トハ債權者債務者若クハ其承繼
人等ノ謂ヒニシテ此等執行ノ爲メ或ハ利益ヲ得ヘク或ハ損害ヲ蒙ル
可キ者ハ強制執行ノ果シテ如何ニ行ハルルヤ如何ナル程度ニアルヤ
之レヲ知ルハ最モ肝要ナリトス何トナレハ其結果ニ依リ自己ノ損益

ヲ生スル者タルヲ以テナリ故ニ法律ハ其各人ニ向テ其請求ニ依リ執
達吏ノ記録ノ閲覽ヲ許シ及ヒ記録中ニ存スル書類ノ謄本ヲ付與スヘ
キモノト定メタリ

執達吏ノ記録ナルモノハ執行ニ關スル顛末ヲ記載シタルモノニシテ
凡テ執行ニ關係アル書類及ヒ事實ノ掲記ヨリ成レルモノナレハ之レ
ヲ一見スルハ執行ノ顛末ハ明瞭ナルヲ得ヘキナリ故ニ執行ニ付キ
利害ノ關係ヲ有スルモノハ之レヲ閲覽ヲ爲シテ大ニ便宜ヲ保ツ所ノ
モノ之レアル可シ而シテ其最モ肝要ナル書類ニ至テハ之レヲ謄本ヲ
求メ依リテ以テ事ヲ便セント欲スルモノ之レアル可シ本條ハ即チ關
係人ニ於テ閲覽謄寫ヲ請求シ得ヘキ權利ヲ有スルコトト執達吏ニ於
テ其請求ニ應セサル可ラサル責アルコトト規定シタルモノナリ

第五百三十九條 夜間及ヒ日曜日并ニ一般ノ祝祭日

ニハ執行裁判所ノ許可アルトキニ限り執行行為ヲ
為スコトヲ得

右許可ノ命令ハ強制執行ノ際之ヲ示スヘシ

〔義解〕(六九) 本條ハ強制執行ヲ爲スヘキ日時ノ制限ヲ規定シタルモ
ノナリ凡テ執行々爲ハ公事トシテ公行スヘキモノナルカ故夜間日曜
日又ハ大祭日等公事ノ休業時ニ於テハ之レヲ施スヲ得サルヲ以テ原
則トス若シ此ノ如キ公ケノ休業時ニ於テ之レヲ行フハ債務者ニ與
フヘキ苦痛意外ノ點ニ生シ特リ財産上ノ強制ニ止ルヲ得スシテ安寧
ヲ害スルニ至ル可キカ故殊ニ法律ノ注意ヲ以テ公事ノ休業時タル夜
間祭日等ニ於テハ執行々爲ヲ爲スコトヲ得サルモノト定メタルナリ
然レモ是レ一般ノ原則ニシテ時トシテハ此ノ原則ノ支配ニ依リ執行
々爲ヲ休止シタルカ爲メ債務者ニ於テ不正ノ所爲ヲ爲スカ或ハ其他

ノ原因ヨリシテ債權者ノ利益ヲ害スルカ如キコト之レナシト云フ可
ラス故ニ此原則ノ支配ハ此ノ如キ恐レナキ度ニ於テ之レヲ止メサル
可ラス即チ公ケノ休業時ニ於テモ執行裁判所ノ許可アルニ於テハ執
行々爲ヲ爲シ得ヘキコト、定メ變例トシテ裁判所之レヲ許可シテ此
ノ時間ニ於テモ執行々爲ヲ施サシメ得ヘキコトヲ明ラカニシタル蓋
シ此ノ法文ハ許可アルトキニ限り執行々爲ヲ爲スコトヲ得ト規定シ
許可アルハ之レヲ爲シ得ヘク許可ナクハ爲シ得サルコト、定メテ
ルニ過キサレモ元來此ノ許可タルヤ常ニ之レアル可キモノニアラス
シテ場合ニ依リ許可ス可キ事情ニ接シ初メテ許可スヘキコトタルカ
故寧ロ此ノ許可ハ變例トシテ見サル可ラス取りモ直サス一般ノ場合
ニハ之レヲ爲シ得スシテ許可ナル特別ノ條件ニ接シテ初メテ之レヲ
爲シ得ヘシトノコトヲ規定シタルモノナリ而シテ之レヲ以テ變例ト

爲セシノ意ハ行文ノ上ニ於テ十分明ラカナル處ナリ
 第二項ハ此ノ許可ヲ與ヘタルコトニ付テハ如何ナル場合ニ於テ其命令ヲ示スヘキヤヲ規定シタルモノニテ此ノ許可ノ命令ハ之レヲ強制執行ノ際ニ於テ示スヘキモノト定メテリ蓋シ公クノ休業時ニ於テ仍ホ執行ヲ果テサントスルハ債務者ノ地位ニ付キ疑ノ存スル所ヨリシテ之レヲ爲スニ外ナラサルカ故若シ豫メ此ノ特別許可ノ命令ヲ示スコト、爲スルハ法律ニ於テ之レヲ特例トシテ設ケタル目的ヲ貫ク能ハサルニ至ルヘク左リトテ之レヲ示サシテ執行セントスルハ此ノ如キ休業時ニハ執行々爲テ爲スヘカラスト定メタル原則ヨリシテ債務者ノ抵抗ヲ免レサルヲ以テ強制執行ノ際ニ之レヲ示スヘキモノトシテ臨時執行ノ目的ヲ貫カシムルト共ニ債務者ヲシテ其命令ニ服從セシム可キコト、爲セシモノナリ

第五百四十條 執達吏ハ各執行行爲ニ付キ調書ヲ作

ル可シ

此調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 第一 調書ヲ作りタル場所、年月日
- 第二 執行行爲ノ目的物及ヒ其重要ナル事情ノ

略記

- 第三 執行ニ與カリタル各人ノ表示
- 第四 右各人ノ署名捺印
- 第五 調書ヲ其各人ニ讀聞セ又ハ閱覽セシメ其承諾ノ後署名捺印ヲ爲シタルコトノ開示
- 第六 執達吏ノ署名捺印
- 第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ具備スルコト能ハサル

トキハ其理由ヲ記載ス可シ

〔義解〕(七〇) 本條ハ執達吏ノ各執行スル行爲ニ付キ調査ヲ作ル可キコト其調査ニ記載セサル可ラサル件々トヲ定メタルモノナリ各執行行爲ニ付キトハ一執行事件毎ニト云フノ義ニアラスシテ執行ノ度毎ニト云フト同一ナルモノナリ例之ハ甲債權者ノ依託ニ依リ乙債務者ニ係リ強制執行ヲ行フ場合ノ如キ其乙債務者ヲシテ判決ニ於テ命シタル處ヲ盡了セシムルニアラサレハ此ノ執行ハ之レヲ全フシタリト云フ可ラサルモ茲ニ所謂各執行々爲トハ此ノ範圍マテテ包含スルコトニアラス即チ乙債務者ニ係リ或ハ其不動産所在ノ地ニ於テ執行ヲ迫リ或ハ住所又ハ事務所々在地ニ於テ之レヲ迫ルカ如キ幾様ノ執行ヲ爲サシムルモ如キ場合ヲ想像シ甲地乙地丙地ニ於テ執行ヲ爲サシムルモハ其各地ノ執行ニ付キ又甲ノ方法乙ノ方法丙ノ方法等ヲ以

テ執行ヲ爲サシムルモハ其各方法ノ執行ニ付キ調査ヲ作ル可シトノコトナリ若シ彼ノ債權者又ハ債務者ヲ異ニシタルモ如キハ法律ノ明言ヲ待タズシテ別箇ノ調査ヲ作ラサル可ラサルコト明カナリ之レヲ要スルニ同一事件ニ於テ多數ノ場所若クハ方法ニ依リ執行ヲ爲サシムルモノナルモハ其各方法若クハ各場所ニ付キ執行行爲異ナルカ故其異ナルニ從テ各別ノ調査ヲ作ル可シトノコトナリ

調査トハ如何ナルモノニシテ如何ニシテ全キヲ得ルモノナルヤ第一號以下第六號ニ定メタル處ヲ以テ之レヲ知ル可キナリ

第一 調査ニ要用ナル第一ノ條件ハ之レヲ作りタル處ノ場所及ヒ年月日ノ記載ナリ即チ何レノ地ニ於テ何年何月何日之レヲ作りタリトノコトヲ記載セサル可ラス是レ調査ノ正確ヲ保ツニ於テ最モ必要ナル事項ニシテ必ス之レカ記入ヲ爲サル可ラサルナ

第二 執行を爲す目的物トハ或ハ動産物ナレハ穀類トカ綿類トカ云フカ如キ物、不動産ナレハ土地家屋ノ如キ物ニシテ即チ之レニ依リテ執行ヲ爲サントスル所ノ物品ヲ云フナリ何レノ物品ヲ如何ニ爲セシト云フカ如キハ取リモ直サス事情ニシテ其事情ノ梗概ヲ記載セシメシカ爲メ事情ノ略記ナル法文ヲ加ヘ本項ヲ以テ何品ニ付キ如何ナル處置ヲ施シ今如何ニ存スルヤヲ知リ得セシムルコトトナシ之レヲ調書ノ中ニ認ム可キモノト定メタリ

第三、第四 執行ニ與カリタル各人トハ其執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者アリテ之レニ立會ヲ爲シタル所ハ其立會ヒタル各人或ハ又債務者ノ不在ナルヲメ法律ニ定メタル證人ノ立會アリタル所ノ如キハ其證人ヲモ此中ニ合メルモノナリ要スルニ執行ニ關

係シタル者ハ凡テ其調書中ニ表示スヘキトシテ其表示セラレタル各人ハ果シテ其表示ノ正確ナル可キコトヲ證スル爲メ署名捺印スルヲ要スルナリ

第五 然レモ其署名捺印タルヤ所謂盲ヲ判タルニ過キサル所ハ特リ其調書ノ不正確ナルノミナラス署名捺印ノ制ハ何ノ効果モナク之レヲ設ケサルト同一ニ歸スルカ故決シテ盲ヲ判ニアラサルトテ保ツ爲メ調書ハ各人ニ讀ミ聞カセ又ハ閱覽セシメ各人承諾ノ上ニテ此ノ署名捺印ヲ爲スニ至リタル事ノ次第ヲ示サ、ル可ラサルナリ若シ此ノ如クナスニアラサレハ署名捺印ノ各人ニシテ何事ノ調書中ニ記載セラレ居ルヤヲ知ラサルカ如キ不都合ヲ生スルニ至ル可キカ故ナリ

第六 此ノ調書タル執達吏ニ於テ之レヲ調製スルモノナルヲ以テ

以上規定ノ法則ニ從ヒ執達吏ニ於テ之レヲ作リタルコトヲ證スル爲メ執達吏ヲシテ署名捺印セシムルハ最モ適當ノコト云フヘキナリ

以上第一ヨリ第六ニ至ル各事項ノ整フニ至テ初メテ執行ニ關スル調書ハ其全キヲ有シ十分ノ効果ヲ生ス可キコトナリ然レモ時アリテハ其執行ニ與カリタル人ニシテ署名ヲ爲シ能ハサル者若クハ署名捺印ヲ拒ム者ノ存セサルトモ云フ可ラス或ハ又其調書ニ不服ヲ唱ヘテ承諾ヲ與ヘス即チ調書ヲ認メサル者ノ之レナシトモ云フ可ラス凡テ此ノ如キ場合ニ於テハ變例ヲ設ケ之レヲ補フ可キ道ヲ定メ置クニアラサレハ偶々之レアルカ爲メ其調書ハ成立スルヲ得サルニ至ル可キナリ故ニ本條ノ末段ハ之レヲ豫想シテ若シ如此障礙ニ遭遇シタルトキハ其之レヲ全フシ得サリシ理由ヲ記載スルホハ其調書ハ調書タルノ効

カヲ保チ得ヘキコト、定メタリ其他ノ要件ニ至テハ之レヲ具ヘ能ハサル如キ障礙ヲ生ス可キモノニアラサルカ故從テ變例ヲ豫定ス可キ必要モナク必ス之レカ整頓ヲ期セサル可ラサルナリ

第五百四十一條 執行行爲ニ屬スル催告其他ノ通知ハ執達吏口頭ヲ以テ之ヲ爲シ且調書ニ之ヲ記載ス可シ

若シ口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ爲ス能ハサルトキハ第三百三十九條第四百十條及ヒ第四百四十五條乃至第四百四十九條ノ規定ヲ準用シテ其調書ノ謄本ヲ送達シ又別ニ送達證ヲ作ラサルトキハ調書ニ其送達ヲ爲シタルコトヲ記載スヘシ

若シ強制執行ノ地ニ於テモ執行裁判所ノ管轄内ニ

於テモ送達ヲ爲ス能ハサルトキハ催告又ハ通知ヲ受ク可キ者ニ郵便ヲ以テ調書ノ謄本ヲ送達シ且之ヲ郵便ニ付シタルコトヲ調書ニ記載スヘシ

〔義解（七三）〕本條ハ強制執行ニ關シ執達吏ヨリ債務者債權者其他執行ニ關係アル者ニ催告及ヒ其他ノ通知ヲ爲スノ手續ヲ定メタルモノナリ

執行行為ニ屬スル催告通知トハ執行ヲ遂ケンカ爲メニ必要ナル行為トシテ或ル事ヲ爲ス可キ旨ヲ關係人ニ催告シ又ハ或ル事ヲ爲シ若クハ或ル事ノアリタル旨ヲ通知スルコトニテ第二章以下各條ニ規定スル處ノモノヲ云フナリ此ノ事タル執達吏ハ唯口頭ヲ以テ之レヲ爲セハ足レルモノニテ必スシモ書面ヲ以テ之レヲ行フヲ要セサルナリ然レモ果シテ其催告通知ノ之レアリタルヤ否ハ關係人ノ利害ニ關スル

モノ少ナカラサルヲ以テ其之レヲ爲シタリトノコトハ調書ニ記載スルヲ要スルモノナリ此ノ調書タルヤ前條ニ於テ已ニ見ルカ如ク其之レニ與カリタル各人ヲ表示シ其各人ニ顛末ヲ讀ミ聞カセ之レカ署名捺印ヲ存ス可キモノト定メタルカ故已ニ催告其他ノ通知ノ記載ヲ調書中ニ爲ストテ命スルキハ確實ニ其事實ヲ證明セラレ得ヘキカ故法律ハ口頭ノ取扱ヒヲ以テスルモ調書ニ依リテ確實ヲ保ツンカ爲メ此ノ如クニ規定シタルモノナリ

第二項ハ口頭ヲ以テ催告其他ノ通知ヲ爲シ能ハサル場合ヲ豫想シタルモノニテ此ノ場合ニ於テハ第三百三十九條、第四百十條及ヒ第四百四十五條乃至第四百四十九條ノ規定ヲ準用シ調書ノ謄本ヲ送達スヘキモノト定メタリ此ノ各條ハ或ハ兵役ニ服スル者或ハ監獄ニ禁錮セラル、者或ハ住居ニ居合ハセサル者或ハ受取ヲ拒ム者ニ對シ爲ス處ノ送達

ノ場合ヲ規定シタルモノニテ即チ普通ノ方法ヲ以テ送達ノ目的ヲ達シ得サルキニ於ケル處置ヲ定メタルモノナリ乃チ本條第一項ニ從ヒ口頭ヲ以テ本人ニ催告通知ヲ爲サント欲スルモ此ノ如キ障礙アリテ之レヲ爲スコト能ハサルニ因リ右ノ各條ニ規定スル所ニ準據シ調書ノ謄本ヲ送達シ以テ口頭ノ催告通知ニ代ヘシメタルナリ凡テ送達ヲ爲シタルキハ送達證ナルモノヲ作り其送達ノ事實ヲ確保スルヲ以テ當然トス第百五十一條然レモ本案ノ場合ニ於テハ必スシモ之レヲ作ラサル可ラサルノ責アルニテ別ニ送達證ヲ作ラサルキニ於テハ調書ニ送達ヲ爲シタルコトヲ記載ス可シトノコトヲ定メアルカ故送達證ヲ作ルノコト、之レヲ作ラスシテ調書ニ送達ノ事實ヲ記載シ置クコト、之レヲ撰ムノ自由ヲ執達吏ニ與ヘタリ是レ調書ハ前述來ルカ如ク正確ノモノト信認セラレ得ヘキ條件ヲ備フルモノ

ナルカ故送達證ヲ作ラシムルモノニ記載ヲ爲サシムルモ其結果相異ナラサル可キカ故此ノ如ク定メタルモノナリ

第三項ハ催告通知ヲ受ク可キ關係人強制執行ノ地及ヒ執行裁判所ノ管轄内ニ住所事務所等ヲ有セサルヲ以テ口頭ノ催告通知ヲ爲スコト能ハサルノミナラス調書ノ謄本ヲ送達スルコト能ハサル場合ヲ想像シ之レカ處置方法ヲ規定シタルモノナリ即チ此ノ場合ニ於テハ調書ノ謄本ヲ郵便ニ付シテ關係人ニ送達スルコトヲ得ルモノト爲セリ是レ實ニ不得止ノ法ニシテ到底此他ニ道ナキカ故此ノ如ク定メタルモノナリ而シテ其之レヲ郵便ニ付シタルコトヲ調書ニ記載セシメ以テ催告其他ノ通知ノ手順ヲ盡シタルコトヲ明ラカニセシムルナリ

第五百四十二條 執行行爲ノ際債務者ニ爲ス可キ送達及ヒ通知ハ債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ

外國ニ在ルトキハ之ヲ必要トセス

〔義解〕(七四) 若シ送達又ハ通知ヲ受ク可キ者債務者ニシテ其所在到底明白ナルヲ得サル場合ニ於テ尙ホ其送達若クハ通知ヲ爲サシメントスルハ所謂難キヲ責ムルモノニシテ法律ノ命シ得ヘキ所ニアラス殊ニ債務者ノ地位ヨリ推測スルキハ此ノ如キ場合ニ於テハ或ハ其居所ヲ晦マサントスルカ如キ企テナシトモ云フ可ラサルカ故必スシモ送達及ヒ通知ヲ爲スニ及ンテ執達吏ノ任ヲ盡シタルモノト爲サス即チ變例トシテ送達及ヒ通知ヲ必要トセサルコト、定メタルモノナリ其外國ニ在ル場合ノ如キハ送達通知等ヲ俟テ執行行爲ヲ了セシメントスルニ於テハ爲メニ多クノ日月ヲ要シ到底其目的ヲ達シ能ハサルニ至リテ止ム可キカ故ニ此ノ二個ノ場合ヲ例外トシテ送達及ヒ通知ノコトヲ省略スルヲ得セシメタルモノニテ要スルニ債權者ヲ保護ス

ルノ精神ヲ全フシタルモノト云フヘク即チ或ル至難ノ事情ニ遭遇スルモ尙ホ執行ヲ爲シ得ヘキコトノ活路ヲ規定シタルモノナリ

第五百四十三條 此法律ニ於テ裁判所ニ任カセタル

執行行爲ノ處分又ハ其行爲ノ共力ハ執行裁判所ト

シテ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

法律ニ於テ別段ニ裁判所ヲ指定セサル各箇ノ場合

ニ於テハ執行手續ヲ爲ス可キ地又ハ之ヲ爲シタル

地ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト看做ス

執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲ス

コトヲ得

〔義解〕(七五) 本條ハ執行行爲ニ於ケル管轄ノコト及ヒ執行裁判ノコトヲ定メタルモノナリ

訴訟法中執行ノコトヲ規定セル中ニ於テ執行裁判所ノ權限ヲ認メ此ノ如キ場合ニ於テハ此ノ如キ處分ヲ爲ス可シト云フカ如キ又此ノ如キ場合ニ於テハ執達吏ニ對シ此ノ如キ補助ヲ與フ可シト云フカ如キ規定少ナシト爲サス即チ此等裁判所ヨリ與フ可キ行爲ハ何レノ裁判所ノ管轄ニ屬シ何レヨリ之レヲ爲ス可キモノナルヤヲ定メサル可ラズ本條ハ之レニ答ヘテ執行裁判所トシテ區裁判所ノ管轄ニ屬ス可キコトト爲セリ故ニ本條ニ依リテ此等ノ行爲ハ凡テ區裁判所ニ於テ與ユ可キモノタルヲ知ル可ク而シテ又執行裁判所ナルモノハ必ス常ニ取リモ直サス區裁判所タルコトヲ知ル可キナリ乃チ執行裁判所タル區裁判所ハ執行上ニ於ケル凡テノ處分及ヒ執行上ニ於ケル裁判上ノ共力ヲ爲ス可キモノニテ執行ノ點ニ付キ金額等ニ係ハララス管轄權ヲ有スルモノナリ

此ノ如ク執行裁判所ナルモノハ必ス區裁判所ニシテ區裁判所ハ執行上ニ付キ管轄權ヲ有スルモノタルコトハ前段ノ規定ニ依リ明白ナリト雖今一步ヲ進メテ各區裁判所ノ間ニ於テハ如何ニシテ其管轄ヲ定ム可キヤハ法律上之レカ規定ヲ爲サ、ル可ラス第二項ハ即チ此ノ點ニ付キ一般ノ規定ヲ爲シタルモノニシテ法律上特別ニ執行裁判所ヲ指定セサル場合ニ於テ之レヲ管轄ス可キ區裁判所ヲ定メタルモノナリ

執行手續ヲ爲ス可キ地トハ或ハ債務者ノ住所或ハ債務者ノ財産所在地等取リモ直サス債權者ヨリ債務者ニ係リ債務ノ履行ヲ迫ル可キ地ヲ云フナリ故ニ執行上ニ於ケル管轄ハ或ハ債務者ノ所在地トナリ或ハ事務所トナリ又或ハ財産所在地トナリ場合ニ依リテ異ナル所アレト要スルニ執行力アル正本ニ依リ其執行ヲ迫リ求ム可キ地ノ區裁判

所ニ於テ之レカ管轄ヲ爲ス可モノタルヲ知ラサル可カラス執行手續ヲ爲ス可キ地トハ將サニ之レヲ爲サントスルニ就テ言ヲ立テタルモノニシテ又ハ以下ハ已ニ執行力アル正本ヲ以テ之レカ執行ヲ迫リ初メタルコトニ就キ言ヲ立テタルモノナリ此ノ二個ノ場合ハ何レヨリスルモ結局同一ノコトニテ未タ執行ニ付キ管轄裁判所定マラス之レヨリ其管轄ヲ一定シ裁判所ノ保護ヲ求メントスルノ時タルヲ知ル可シ

法律ニ於テ別段ニ執行裁判所ヲ指定シタル場合トハ第五百九十五條第六百四十一條第七百十八條第七百二十六條等ニ規定シタル場合はナリ

〔七六〕 執行上ニ於テ當事者若クハ當事者ト執達吏ノ間ニ争ヲ生シ又ハ第三者ヨリ異議ヲ申立ルコトハ少ナシト爲サス此ノ場合ニ於テハ

執行裁判所タル區裁判所ハ之レカ裁決ヲ與ヘサル可ラス末項ハ即チ此ノ裁判ニ關スル規定ニシテ其争點錯雜シテ何レノ陳述ヲ理アリト爲スヤ分明ナラサルキハ鄭重ノ審理ヲ盡シ之レカ裁決ヲ爲サル可ラサルコト勿論ナリト雖モ執行上ニ關スル異論ハ多クハ簡單ニシテ事理明白ナルモノナルカ故事情ニ依リテハ口頭辯論ヲ經スシテ直チニ其争議ヲ決シ得ヘキモノト爲シ以テ之レカ執行ヲ可成速ニ遂ケシムルコト、爲セリ本條ニ於テ殊ニ口頭辯論ヲ省略スルヲ得ルコトト爲セシモノハ凡テ裁判ハ口頭辯論ヲ經タル上ニテ之レヲ爲スヲ以テ原則ト爲スカ故之レニ反シタル場合即チ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲シ得ル場合ニハ別段ノ規定ヲ爲スヲ要スルヲ以テナリ而シテ其口頭辯論ヲ經スシテ爲シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スヲ得セシメタリ第五百五十八條ヲ參看ス可シ

第五百四十四條 強制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執
達吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付
テハ執行裁判所之ヲ裁判ス又執行裁判所ハ第五百
二十二條第二項ニ定メタル命ヲ發スル權ヲ有ス
執達吏カ執行委任ヲ受クルヲ拒ミ若クハ委任ニ從
ヒ執行行爲ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ執
達吏ノ計算セシ手数料ニ付キ異議アルトキハ執行
裁判所ハ之ヲ裁判スル權ヲ有ス

〔義解〕(七七) 本條ハ執行裁判所ノ職務トシテ執行上ニ付キ執達吏ト
債務者又ハ第三者間若クハ執行委任者タル債權者ト執達吏トノ間ニ
起リタル異議及ヒ債務者等ヨリ或ル事ヲ請求スル申立ヲ裁決ス可キ
コトヲ規定シタルモノナリ

強制執行ノ方法即チ執達吏カ債務者ニ係リ執行ヲ果タスヘキ手段ニ
シテ其當ヲ得サルコトアルカ又ハ強制執行ノ際執達吏ノ爲シ得ヘキ權
限ヲ超ヘ若クハ法律ニ於テ執達吏ノ遵守ス可キコトヲ規定シアル手
續ニ戻リ不都合ノコトヲ爲シタリト爲スカ如キ場合ニ於テハ其執行
ニ關係ヲ有スル者ハ之レニ對シテ異議ヲ主張シ又ハ申立ヲ爲スコトヲ
得ルナリ若シ此權ナシトスレハ或ハ執達吏ノ行爲專横ニ涉リ不當ノ
損害ヲ加フルニ至ルカ如キコト之レナシトモ云フ可ラス而シテ其異
議及ヒ申立ニ付キ裁判ヲ下スハ執行裁判所ノ權限トナセリ是レ執行
上ニ關スル監督ハ凡テ執行裁判所ニ於テ之レヲ爲ス可キモノナルヲ
以テ執達吏ノ執行方法及ヒ手續ヨリ起ル異議申立ハ執行裁判所ヲシ
テ管轄セシムルヲ適當ト爲スヲ以テナリ

(七八) 第五百二十二條第二項ハ執行文ヲ付與ス可キ裁判長ニ於テ假

處分ヲ爲シ得ヘキコト殊ニ保證ヲ立テシメ若クハ之レヲ立テシメス
 シテ一時強制執行ノ停止ヲ爲シ得ヘキコト又保證ヲ立テシメテ強制
 執行ノ續行ヲ命シ得ルコトヲ定メタルモノニシテ其詳細ナルヲハ義
 解四五ニ於テ之レヲ講説シタリ本條ハ此ノ權限ヲ移シテ又執行裁判
 所ニ於テモ之レヲ爲シ得ヘキコトト定メタリ蓋シ區裁判所ヲシテ此
 ノ假處分ノ權ヲ行ナヒ得セシムルハ少シク其權限過大ナルカノ如ク
 ナルモ凡テ區裁判所ハ執行上ニ付キ全權ヲ有スルモノナルヲ以テ其
 結果トシテ又此ノ權利ヲ行用セシムルハ適當ノコトト爲サ、ル可ラ
 ス而シテ最モ屢此ノ處置ヲ施スノ必要ニ接スル場合ハ亦執行裁判所
 ニ之レアル可キナリ

〔七九〕 執達吏ニシテ執行ノ委任ヲ拒ムカ如キコトハ事實甚ダ稀レナ
 ルコトタルニハ相違アラサレモ或ル事情ヨリシテ之レカ執行ヲ爲ス

ヲ好マス債權者ノ依頼ヲ拒ムカ如キコトモ亦之レナシト云フ可ラス
 若シ此ノ如クニシテ執行ノ委任ヲ拒ムトキニハ債權者ハ之レカ爲メ
 ニ權利ヲ全フスルヲ得サルニ至ル可シ之レヲ執達吏ノ職務上ヨリ考
 フルニ其平素ノ業務ハ常ニ依頼者ノ依頼ニ應シ事ヲ執ル可キモノナ
 ルカ故恰モ私ノ營業ノ如キ觀アリ若シ之レヲ私ノ營業ナリトセンカ
 醫師カ患者ノ治療ヲ隨意ニ謝絶シ得ルカ如ク執達吏モ亦依頼者ノ囑
 托ヲ取捨スルノ權アリト爲サ、ル可ラス然レモ執達吏ナル者ハ已ニ
 見來ルカ如ク一ノ公吏ニシテ公職ヲ執ルモノナルカ故私ノ營業ノ如
 ク隨意ニ之レカ依頼ヲ拒絕シ得ヘキモノニアラス故ニ執行行爲ノ委
 任ヲ拒ムニハ正當ノ理由ヲ具ヘサル可ラス若シ其拒絕ニシテ適當ノ
 理由之レアラサラシカ債權者タル執行ノ依頼者ハ之レニ對シ異議ス
 ルヲ得ヘク而シテ執達吏ヲシテ強ヒテ之レカ執行ノ任ヲ盡サシムル

ヲ得ヘキナリ又執達吏ニシテ其委任ハ之レヲ受ケタルニ關ハラズ法律ニ於テ許セル執行行為ヲ盡スヲ拒ムコトアルカ如キトキハ債權者ハ之レカ爲メ其損害ヲ受クルコト少ナシト爲サス其結果ハ執行ノ委任ヲ拒マレタルト同一ニ歸スルヲ以テ此ノ場合ニ於テモ亦異議シテ其行為ヲ盡サシムルコトヲ得サル可ラス是レ共ニ執達吏ノ職務ヲ盡サ、ルニ對スル異議ノ場合ナリトス

執達吏ハ執行ノ委任ヲ受ケ執行行為ヲ盡スルハ其委任者ヨリ法定ノ手数料ヲ徴ス可シ而シテ執達吏ノ計算シタル手数料ニ付キ時トシテ或ハ債務者ヨリ或ハ債權者ヨリ異議ヲ狭ムコトナシト云フ可ラス此ノ場合ニ於テモ其異議ハ裁判上ニ於テ決定ヲ與フルコトト爲サ、ル可ラス是レ一ハ執達吏ノ専擅ヲ防キ一ハ依頼者等ノ不當ナル抗辯ニ在ケラル、ヲ防カンカ爲メナリ

本條ハ凡テ以上想像シタル異議又ハ申立アル場合ニ於テハ執行裁判所之レヲ管轄シテ裁判ヲ爲ス可キモノト定メタリ是レ又前條ニ解説シタル理由ヨリシテ之レカ管轄ヲ定メタルモノナリ

第五百四十五條 判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議ハ訴ヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ主張ス可シ

右ノ異議ハ此法律ノ規定ニ從ヒ遅クトモ異議ヲ主張スルコトヲ要スル口頭辯論ノ終結後ニ其原因ヲ生シ且故障ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得サルトキニ限り之ヲ許ス
債務者カ數箇ノ異議ヲ有スルトキハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス

〔義解〕(八〇) 本條ハ強制執行ノ本牒即チ判決ヲ以テ確定シタル請求ニ關シ異議アル場合ヲ想定シタルモノナリ凡ソ執行ノ本牒即チ判決ニ依リテ確定シタル請求ノ如キハ其確定ヲ導ク迄ノ間ニ在テ已ニ訴訟ハ十分ニ熟シタルモノナル可キカ故一般ノ場合ヨリ云ヘハ此ノ確定シタル判決ニ對シ異議ノ生ス可キハ甚々稀ナルコトト云ハサル可ラス然レモ亦時トシテハ請求ノ目的或ル事情ノ爲メ消滅ニ歸スルカ如キ或ハ債務消散ノ證ヲ後日ニ至リ發見スルカ如キコトナシト云フ可ラス故ニ此ノ點ニ關シ救済ノ道ヲ與ヘ置クコト亦必要ナリトス本條ハ此異議ニ關シテハ第一審ノ受訴裁判所ニ之レカ提起ヲ爲ス可キモノト定メタリ第一審ノ受訴裁判所トハ或ハ區裁判所或ハ地方裁判所ノコトニシテ即チ本法第一編第一章第一節第二節ノ規定ニ依リテ分ル、管轄裁判所ノコト云フナリ本條ニ於テ注目ス可キハ訴訟ヲ以

テ第一審ノ受訴裁判所ニ之レテ主張ス可シトアル訴訟ヲ以テ主張スルト云ヘル文字ニシテ執行ニ關スル一般ノ異議即チ執達吏ノ職務等ニ關スル異議ハ唯其行爲ノ當否ヲ争フニ止マリ寧ロ方法手續ニ關シ異議スルモノナルヲ以テ敢テ訴訟ヲ以テ之レテ主張スルヲ要セスト雖モ本條ノ如ク請求ノ本牒タル執行ノ目的物ニ關シ異議アルハ之レ恰モ判決確定前ノ狀況ト同シク其判決ハ果シテ確實ナルモノナルヤ否ヤ未タ知ル可ラス而シテ時ニ或ハ此異議ノ爲メ請求ノ本牒タル執行ノ目的消滅ニ歸スルカ如キコトモ未タ之レナシト云フ可ラス故ニ此ノ異議ニ關シテハ恰モ本條ノ判決前ト同シク第一審ノ受訴裁判所ニ訴訟ヲ以テ之レテ主張シ該受訴裁判所之レテ管轄シテ其判決ヲ爲ス可キモノト定メタリ

〔八一〕 然レモ此ノ異議ニ付テハ法律上一定ノ制限ヲ設ケサル可ラス

若シ然ラスシテ漫ニ確定シタル判決ニ付キ異議ヲ許スコトアリトスレハ執行ヲ避ケントスル狡猾ナル債務者ハ常ニ此ノ方法ヲ以テ執行ヲ延引シ巧ニ財産ヲ掩蔽スルカ如キ恐レテ生スルニ至ル可キナリ故ニ此ノ異議ノ原因ハ異議ノ主張ヲ要ス可キ口頭辯論ノ終結シタル後ニ生シ且ツ故障ヲ以テ此ノ事ヲ主張スル能ハサリシ事情アルキニ限リ之レヲ許ス可キモノト爲セリ本項ノ所謂遅クトモ異議ヲ主張スルコトヲ要スル口頭辯論ノ終結後ト云ヘル遅クトモノ文字ハ口頭辯論ニ付テ云フモノニシテ終結後ノ文字ニ副ヘタル文字ニ非ス換言スレハ通例遅クトモ口頭辯論中ニ主張ス可キ所ノ異議ナルモ其原因辯論終結後ニ生シタリトノ意ナリ乃チ若シ此ノ異議ノ原因ニシテ口頭辯論終結ノ前ニアリシカ之レヲ看過シテ判定ヲ確定ニ歸セシメタル債務者ハ其異議ヲ主張スルヲ得ス必スヤ其原因ハ口頭辯論ノ終結後ニ

發生シタルモノヲラサル可ラス又其異議ノ原因口頭辯論終結ノ後ニ發生シタリトモ此ノ異議ハ故障ヲ以テ之レヲ主張スルヲ得サリシキニ非サレハ之レヲ許サ、ルコトトナセリ若シ此ノ如キ規定ヲ以テ之レカ制限ヲ設クルニテラサレハ已ニ想像シタル如ク漫ニ異議ヲ名トシテ執行ノ遅延ヲ企ツルカ如キモノ之レナシト云フ可ラサルナリ即チ欠席判決ノ場合ニ於テハ一定ノ期間内ニ故障ヲ許シタルモノアルカ故其異議ノ理由故障期間満了前ニ發生シタルキハ之レヲ理由トシテ故障ヲ爲ス可カリシニ空シク其期間ヲ經過シタル者ハ併セテ異議ヲ爲スノ權能ヲモ失フコトトナルナリ只故障期間満了ノ後ニ至リ異議ノ原因發生シタルカ又ハ故障ヲ以テ之レカ主張ヲ爲シ得サル場合ニ於テ口頭辯論終結ノ後其原因ヲ發生シタルキニ限リ異議ノ訴ヲ以テ其判決ニ對抗シテ之レカ主張ヲ爲シ得ヘキモノナリトス

債務者ニシテ異議ノ原因數个アリテ之レカ主張ヲ爲サント欲スルト
キハ各別ニ之レヲ提起スルヲ許サス必ス同時ニ之レヲ主張セサル可
ラス蓋シ若シ數箇ノ原因ニ付キ各別ニ異議スルトキハ徒ラニ執行ノ
期日ヲ遷延シ爲メニ債權者ニ損害ヲ與フルニ至リ特リ不良ノ債務者
ヲシテ奸策ヲ恣ニセシムルニ至ル可キヲ以テ此ノ如ク定メタルモノ
ナリ

第五百四十六條 前條ノ規定ハ第五百十八條第二項
及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テ債務者カ執行文付
與ノ際證明シタリト認メラレタル事實ノ到來ニシ
テ此ニ因リ判決ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭ヒ又
ハ認メラレタル承繼ヲ爭フトキハ亦之ヲ準用ス但
此場合ニ於テ第五百二十二條ノ規定ニ從ヒ執行文

ノ付與ニ對シ異議ヲ申立ツル債務者ノ權ハ此カ爲
ニ妨ケラルルコト無シ

〔義解〕(八二) 本條ハ前條ニ繼キ債務者ニ於テ確定シタル請求ニ對シ
異議シ得ヘキ場合ヲ想定シタルモノナリ其前條ト異ナル所ハ前條ニ
於テハ凡テ判決ニ因リテ確定シタル請求ト雖モ異議ノ原因口頭辯論
終結後ニ起リタルキハ之レニ對シ異議ノ申立ヲ爲シ得ヘキコトト一
般ニ規定シ本條ハ或ル特別ノ事情アル場合ニ於テモ亦異議ヲ爲シ得
ヘキモノナリトノコトヲ特別ニ規定シタルモノニシテ前條ハ原則ヲ
示シ本條ハ其適用ヲ示シタルモノト云フモ敢テ不可ナルコトナシ
第五百十八條第二項ハ判決ノ執行ニシテ或ル條件ニ繫ル場合ニ於テ
ハ債權者ヨリ其條件ヲ履行シタルコトヲ證明書ヲ以テ證スルニアラサ
レハ執行力アル正本ヲ附與スルヲ得サルコトト定メタルモノニテ例

之ハ甲ナル債權者カ乙ナル債務者ニ向ヒ家屋ノ取毀チヲ要求シタル其要求ニ對シテハ家屋取毀チ料トシテ若干金ヲ債權者ヨリ債務者ニ向ヒ支拂ヒタル上ニ於テ之レカ取毀チヲ爲サシム可シト判決シタルモノアリトセンカ此ノ場合ニ於テ債權者カ強制執行ヲ以テ之レカ取毀チヲ爲サントスルニハ先ツ其取毀チ料ヲ交付シタルコトヲ證明セサル可ラス是レ義解三九ニ於テ已ニ説明シタル處ナリ此ノ場合ニ於テ債權者ハ法律ノ規定ニヨリ其證明ヲ具ヘテ執行力アル正本ヲ求メ之レテ以テ強制執行ヲ爲サシメントスルニ債務者ニ於テハ曾テ此ノコトヲ與リ知ラサルカ又此ノ證明書ノ上ニ付キ異議アルホノ如キ所謂前條想定シタル處ノ判決ノ確定ニ依リ請求ヲ受ケタルコトニツキ異議アルモノニシテ前條ノ規定ニ從ヒ債務者ハ之レニ對シ異議ノ主張ヲ爲シ得ヘキナリ

第五百十九條ハ承繼人ニ關スル規定ニシテ執行力アル正本ハ特リ債權者及ヒ債務者ノ爲メニ付與シ得ルノミナラス各承繼人ニ對シテモ亦効力ヲ有スルモノナルヲ以テ執行裁判所ハ承繼人ノ爲メ若クハ承繼人ニ向テ之レヲ發スルコト少ナカラサル可シ然ルニ此ノ承繼人ニ在テハ其訴訟ニ關係シタルホハ敢テ不都合ノコトモ之レアラサルハシト雖モ其訴訟ニ關係ヲ爲サスシテ承繼人ナリト認メラザルモノノ如キハ或ハ其實承繼人ニアラサルカ如キ者モ未ダ之レアララスト云フ可ラス此ノ如キ場合ニ於テハ其不當ニ認メラザル承繼ニ付テハ權利伸張ノ方法ヲ以テ不當ノ損害ヲ免レシムヘキ道ヲ與ヘサル可ラス第五百十九條ノ認メラザル承繼ヲ爭フテ以テ前條規定ノ異議ニ包含セラル可キモノト定メタルハ最も適當ノコトト云フ可シ

末段ニ於テ執行文ノ付與ニ關シ債務者ニ於テ異議ヲ申立ツルヲ得ル